



特 220
992

昭和五年版
筑豊石炭鑛業要覽

納本

始
←

持220
992

昭和五年版 筑豊石炭鑛業要覽目次

第一章 沿革

第一節 石炭發見の時代……………一

第二節 幕制中の採炭業……………三

第三節 明治維新後の第一期……………五

第四節 明治維新後の第二期……………九

第五節 大正時代の石炭鑛業……………一三

第六節 昭和時代の石炭鑛業……………一七

第二章 炭田……………二〇

第三章 鑛産額……………二四

第一節 組合炭鑛々別産額並筑豊石炭採掘鑛區……………二四

第二節 鑛山監督局管内別鑛山別産額……………四四

第三節 朝鮮總督府管内別鑛山別産額……………五三

第四節 台灣總督府管内別鑛山別産額……………五四

第五節 樺太廳管内別鑛山別産額……………六〇

第六節 全國(朝鮮、台灣、樺太を除く)及組合炭鑛累年産額……………六〇

第四章 鑛夫……………六一

第一節 組合炭鑛年別鑛夫調……………六一

第五章 運炭……………六八

第一節 概説……………六八

第二節 鐵道運賃……………七一

第三節 總送高類別……………七二

○各鑛主驛要間杆程及運賃表……………七二

○筑豊五郡總出炭郡別年別表……………七六

○送出炭年別仕向先別表……………七九

○鐵道「其他各驛」別送出炭年別表……………八一

○送出炭年別炭種別表……………九〇

第四節 炭鑛別送出高類別……………九三

○炭鑛別送出炭表……………九三

○炭鑛別仕向先別送出炭表……………一〇〇

○炭鑛別炭種別表……………一〇六

第六章 貯炭、船積設備及船舶運賃……………一一二

第一節 貯炭……………一一二

○若松港月末貯炭年別表……………一一二

◎門司港月末貯炭年別表	一一三	第三節 内外仕向總高	一四五
◎山元月末貯炭年別表	一一四	◎内外仕向總高年別表	一四五
◎高瀬兩港頭及山元月末貯炭年別表	一一五	◎輸出入高年別表	一四六
◎貯炭場の面積及使用料	一一六	◎港別及仕向先別輸出高表	一四七
◎船積設備及手数料	一一七	◎港別及積出先別輸入高表	一四八
◎若松港之部	一一七	◎變災豫防に關する施設	一五二
◎若松港石炭船運賃表	一一八	◎築豐鑛山學校	一五二
◎若松港石炭仲仕賃金最高標準表	一一九	◎組合炭山に於ける社會的施設	一五七
◎門司港之部	一二〇	◎組合炭鑛所在地一覽附組合役員	一六三
◎門司港石炭船運賃表	一二一		
◎門司港石炭仲仕賃金最高標準表	一二二		
◎船運賃	一二二		
◎汽船運賃	一二六		
◎帆船運賃	一二八		
◎内地輸送高	一二八		
◎内國海路輸送先別表	一二八		
◎海外輸出高	一四一		
◎海外輸出及外國船積賃炭供給高年別表	一四一		
◎海外輸出先年別表	一四三		

第七章 内外仕向高

第一節 内地輸送高	一二八
第二節 海外輸出高	一四一

第八章 全國石炭輸出入高

◎輸出入高年別表	一四六
◎港別及仕向先別輸出高表	一四七
◎港別及積出先別輸入高表	一四八

第九章 築豐石炭鑛業組合

第一節 組合事業の成績	一五〇
◎變災豫防に關する施設	一五二
◎組合炭山に於ける社會的施設	一五七
◎組合炭鑛所在地一覽附組合役員	一六三

地圖添付
築豐炭鑛位置略圖
附 糟屋、唐津、宇部地方

昭和五年版 築豐石炭鑛業要覽

第一章 沿革

第一節 石炭發見の時代

築豐石炭發見の時代は特に文書に徴すべきものなしと雖、其の採掘が既に二百有餘年以前に於て稍見る可きものありしことば、左の文書及事蹟、口碑等に據り疑ふ可からざるもの、如し。

・筑前續風土記中の一節 曰く「遠賀、鞍手、嘉麻、穂波の中、諸所の山野に燃石なるものあり、村民之を掘り採りて薪に代用せり、遠賀、鞍手には特に多し、頃年粕屋の山にても掘れり、煙多く臭惡しと雖、燃えて久しく、水風呂の釜に焚くに適し、民用に最も便なり。云々」是に由りて之を觀れば、具原益軒が筑前續風土記の脱稿せし元祿十五年以前に於て、既に以上各郡と粕屋郡との民用として、之を採掘しつゝありしを知るを得べし。因に記す、元祿十五年は今昭和五年を去ること實に二百二十九年なり。

嘉穂郡山野炭鑛の舊碑 明治三十一年中、嘉穂郡稻葉村三井山野炭鑛第一坑閉鑿の際、三角形の石塊五六寸許り地表に露出せるを發見し、試に土壤を掃ふて其の石塊を檢せしに、幅一尺一二寸高さ二尺五六寸の石碑にして、表面の上額に梵字を刻し、中央に「爲供養」の三字を大書し、向つて右に「享保十八天」、左に「雪月日」と細書し、其の下に「奎平、左市、中七、徳平、摠七妻、三介妻」と述名し、左側に「施主古江摠平」と刻しありしかば、同炭坑事務所にては、兎も角も一の記念として地表に掘り出し、今尙保存せり。右に付同地父老の語る處によれば、「石碑の施主古江摠平は代々大庄屋

の家格ある水富某の祖先にして、右の外同人の名を以て、近郷の神社佛閣に、碑石を建立寄進せしこと多ければ此の碑も亦變死者供養の爲めに建立せしものなるべし、而して其の位置在來の墓地にあらず又寺院の遺蹟にもあらず、無数の探炭窟坑散在せる林藪中なりしによりて察すれば、此の變死者の此の地に探炭中天井磐の墜落に因り、一時に壓死せしものならんか、云々」と云へり。此の説にして誤りなくば其建立の當年（享保十八年）即ち今昭和五年を去ること百九十八年前に於て、既に六名の坑夫が同時に入坑採炭すべき規模を以て、探炭に従事せしことありしを推知するに足るべし。

之を前記筑前續風土記の記事に参照すれば、當時斯業の大要勢態として察すべきものあるを覺ゆべし。

口碑の一（堀川運河開鑿中の發見）寶曆年中、筑前國主黒田繼高祖先長政の遺志を繼ぎ、遠賀川より洞の海に通ずる堀川運河開鑿中、楠橋村字壽命より同陣原湯までの間、吉田村の地内にて、人夫等火を焚きて茶を沸せしに、忽ち黒色の石塊に燃え付きしを見て、始めて燃料に適するを知りたるもの即ち同地方石炭發見の端緒なりと云ふ説あり、思ふに寶曆元年は今を去ること百八十年前にして前記山野炭坑舊碑建立の年より十八年以後のことなれば、數里を隔てたる嘉穂郡の一部にて、既に六人の坑夫が一時に採炭に従事せし頃にして、遠賀郡の一部に尙石炭の燃料に適するさへ知らざるものありしは、今日に於て聊怪しむべきが如しと雖、交通の不便なりし往時に於ては、尙此の如き迂遠を免かれざりしものならんか、記して後日の參考に供す。

口碑の二（豊前赤池の坊主ヶ谷）田川郡赤池炭坑附近に、坊主ヶ谷と稱する處あり、約二百年前行脚の一僧山中に露宿し、火を焚いて暖を取りしに、黒色の石塊異臭を放ちて燃え上りしかば始めて燃料に適するを知り、山を下りて之を里人に告げたるもの、即ち同地方石炭發見の嚆矢にして、坊主ヶ谷の名亦因りて起る所以なりと。

以上の如く漠然として其の年代を詳にせざる傳説は尙之を聞くことなきにあらざれども今一々茲に採録せず。只參考として三池、高島、唐津、宇部等の各方面に於ける石炭發見の傳説を左に掲げ、期せずして何れも偶然の發見なりしを證據立つること、すべし。

ること、すべし。

參考 四方面の傳説

三池炭

の發見は文明元年己丑の年、三池郡稻荷村の農夫傳治左衛門と云ふもの、稻荷山に樵して焚火の黒石に點するを見たるに始まるといふ。今を去ること實に四百六十二年前にして傳説中最古のものなり。

高島炭

は寶永年中（約二百二十餘年前）肥前平戸の領民五平太なるものによりて發見され、之を附近の鹽田に供したりとの傳説あり、果して事實なりとすれば鹽田使用の嚆矢なるべきが如し。

唐津炭

は享保年間（約百九十餘年前）今の芳谷炭坑區内北波村大字岸山にて一農夫に發見せられたりと傳ふ。

宇部炭

は延寶年間（約二百五十餘年前）地方民によつて發見せられ當時農民の燃料となしたりと云ふ。

第二節 幕制中の採炭業

二百二十餘年前、石と云ふ名稱を以て、具原益軒の手に紹介せられたる筑豊炭は、三池、高島、唐津等の石炭と共に、僅に民家の燃料として採掘せらるること數十年にして、漸く製鹽用に供せらるること、なれり。

筑豊炭製鹽用の嚆矢（和田佐平）今を去ること約百六十餘年前、即ち明和年間に於て、遠賀郡若松の庄屋に和田佐平と云へる人あり、百方石炭の用途を研究せし末、始めて製鹽用に適するを知りて販路を中國四國に開き、採炭事業の擴張を試みし、當時藩廳の忌諱に觸れ、一朝投獄の厄に遭ふて其事業の大頓挫を來したり、佐平が投獄の大厄は斯業の發達を妨

げたること勿論なれども、其製鹽用に適することを紹介したる功勞は、永く没すべからざるものあるべし。

筑前の仕組法 (松本平内) 佐平投獄の後約八九十年にして、筑前の人松本平内(松本健次郎祖父)と云へる人あり、藩廳に献策して始めて仕組法なるものを定め、明治維新の頃まで實行せり、是れ實に組織立ちたる鑛業法令の嚆矢なり。

仕組法は石炭、鶏卵、生蠔の三物産を一括し、共同販賣を目的とするものにして、其の取締所を遠賀郡蘆屋に置き、若松港に焚石會所の出張所を設け、年々各郡の採炭額を豫定して、之を當時の鑛業人に請負はしめ、其の分課額の多少により、坑夫の賃錢糧米等を前貸し、採炭の全部を焚石會所に上納せしめ、之を會所指定の石炭問屋に拂ひ下げ、代金の内より前貸金を控除して、殘餘を鑛業人に下附すること、なしたれば、採炭、販賣共に家附の株となり、互に其の權利を賣買し、或は之を抵當として一時の金融を計ることあり、且つ他より石炭買入れに來りたる船舶あれば、問屋を経て其旨を會所に届出で、再び問屋を経由して所要の數量を買ひ取らしめ、入港當時の順序により、其の出港を許すを例とし、若し賣れ残りの石炭あれば、之を割り込みと唱へて、強て碇泊中の船舶に配當し、義務買入を嚴命し、若し其の命に應ぜざれば、出港順を繰り下げて、最後に出港せしめたりといふ。此の間に多少の弊害は行はれしやに傳ふれども、散漫にして統一せざりし石炭鑛業を一括し、規律的ならしむるに共に、藩廳に於ける收入の一財源たらしめしは、斯業に一步を進めたる時勢相應の良法なりしもの、如し。

小倉藩の赤池會所 筑前に仕組法の行はれし頃は、豊前に屬する田川郡にも稍同一の方法行はれ、赤池川の沿岸に赤池會所なるものあり、一般の採炭事業を總括し(豊前の採炭業は一般民業の外、藩業として坊主ヶ谷、林ヶ谷の二ヶ所に營まれ、前者は町方役所の支配とし、後者は郡方役所の支配に屬したり)採炭業者は年々若干金を前借して、其採炭を赤池會所に上納し、會所は之を相當代價に拂ひ下げ、代金以上の賣上代は之を本人に下げ渡すこと、猶ほ筑前の仕組法の如くなりしといふ。而して其拂下げを受けたる仲買人は、赤池川より遠賀川を下りて之を若松に送出し、福岡藩の焚石會所に販賣を

依託し、或は小倉に回漕して、同地の會所に依託販賣せしことあり、納税に就ては小倉藩の御用石と稱し採掘者一戸に付約千斤の石炭を上納する外、別に負擔する處なく、只川艦を以て積み下すとき、筑前豊前の境界にて若干の通行料を收むるのみなりこと云ふ。前記小倉藩の事業として、坊主ヶ谷及林ヶ谷より採掘せし石炭は主として藩廳の公用に供せられ、内若干を藩士の用料に頒ちしことありしも、安政の頃より漸く瀛船燃料の需用あり、赤池會所亦鶏卵の大きさを度し、其の以下の小塊及粉炭は一切買上げざること、なりし爲め、郡内の採炭業者始めて直接に若松に送り、吏員の手を借らずして、同地の川口屋、及小倉の中原屋等に依託し、之を販賣せしことあり、蓋し鶏卵大以上の塊炭を藩廳に買ひ上げしは筑前、豊前共に同一にして、筑前にては常に之を俵装し若松港口に在る中の島に貯藏し置き、年々時を期して幕府に献納したりと云ふ。彼の川艦の船頭等が、今尙塊炭を呼びて、單に御用と稱ふるは、即ち當時の御用炭の名殘なり。

附記 燧石の發見 筑豊の間に採掘する燧石の發見は、明治以前幕制の末年にあり、發見者名を田島屋久兵衛と稱し、後村上久三郎と改む、筑後久留米の人、曾て肥後天草に遊びて燧石を發見し其の使用法を研究して石灰製造用燃料に適するを知り、後嘉穂郡上三緒、鞍手郡勝野、田川郡後藤寺附近にて燧石を採掘し、漸次販路を擴張したりといふ。

第三節 明治維新後の第一期 (自明治初年至同廿四年)

明治維新後に至り始めて斯業に關する法令の沿革の見る可きものあり、二年二月二十日行政官布告第七十七號を以て「鑛山開拓の儀は其地居住の者共故障無之候は、其の支配の府藩縣へ願の上掘出不苦候、府藩縣に於ても舊習に不泥速に差免し可申事、云々」と達せられしは、政府が鑛山開放の方針を示せしものにして、斯業に關する第一回の法令なりしも、藩制中は筑豊地方尙舊慣を脱せずして、毫も見る可き進歩の實なく、只高島に於て機械的設備を見たるを、明治六年七月より三池

炭山を買収して、政府の手に採掘業を起せしことありしに過ぎず、明治五年三月廿七日附太政官布告第百號を以て、鑛山心得を發表し、始めて斯業に關する根本的の方針と其大義を明にし、同六年七月廿日に至りては、更に太政官布告第百五十九號を以て、日本坑法を發布し其年九月より實行して、全國の鑛業を統一し、始めて成文法を見るに至りたり、是れ實に明治廿五年六月一日、鑛業條例の實施に至るまで最も長き期間、我が鑛業界を支配せし法文なり。

此の二十五年間に於ける筑豊の石炭鑛業は大に録すべきものありと雖、多くは後半の十二年間に發達し、其の前半就中明治七八年頃迄は、之を混沌時代とも稱すべく、特に録するに足るものなし。明治八年片山逸太田川郡糸田村に、始めて蒸氣機關應用の端緒を開きしは、必しも氏の成功にあらずと雖、斯業の發達に貢獻せしこと少からず、後貝島太助、帆足義方の二氏何れも片山の志を襲つて失敗し、十四年杉山徳三郎に依りて、嘉穂郡尾炭坑に据付けられしもの、始めて完全に成功し、爾後各所の炭山に應用するに至り、漸次有力なる事業家の奮起を促し、十八年今の筑豊石炭鑛業組合(當初の筑豊坑業組合)組織以後、時勢の進運に伴ひて、海軍豫備炭田の指定あり、日本郵船會社、三菱會社を始め、東京大阪等の豪商、亦會社組織を以て指を筑豊の採炭業に染め、一方に於ては、久しく發企計畫中なりし九州鐵道の愈々廿一年を以て成立せるあり、若松築港會社及び門司築港會社等亦同年を以て起り、廿二年には門司の特別輸出港に編入せらるるあり、筑豊興業鐵道亦同年を以て企劃され、二十三年に至りては別に豐州鐵道の發企あり、何れも筑豊の石炭を中心とし、其の大發展を促すべき機關として、俄かに長足の進歩を示し、廿四年に至りては九州鐵道の門司久留米間、及筑豊興業鐵道の若松直方間開通し、從來堀川運河の線に據りし筑豊石炭の輸送をして、愈一大革新の機運に達せしめたり。明治八年の産額約九萬噸に過ぎざりしもの、同廿四年に於て九十萬噸、大正二年以降一千萬噸を越ゆるに至りしは、亦以て其進歩の大勢の窺ふべし。尙本期間の重要事項の年別に記し讀者の參考に供すれば左の如し。

重要事項年表

- 明治元年 鍋島家の家臣松林源藏、英人「グラバー」と高島炭坑を共同採業す。
- 同 二年 二月二十日行政官布告第百七十七號を以て鑛山開放を公布す。
- 同 三年 十月民政部にて石炭に關する調査を試む。
- 同 四年 四月五日鑛山出願者身元調べに關する達示あり。
- 同 五年 三月二十七日太政官布告第百號を以て鑛山心得書を發布す。
- 同 六年 七月太政官布告第百五十九號を以て日本坑法を發布し、同年九月一日より實施す。
参考 七月より三池炭坑を官業とす。 十二月後藤象二郎高島炭坑を引受く。
- 同 七年 鑛物稅取調めの爲め蘆屋若松に福岡縣の出張所を設け、兼て採炭及び賣炭を監督す、蓋し維新炭山開放の結果、濫掘濫賣の弊に懲り、當業者より懇請せしに由る。
- 同 八年 片山逸太田川郡糸田村の炭坑に蒸氣機關を据付け、始めて動力應用を試みしも成功せず。
- 同 九年 貝島太助鞍手郡直方炭坑に蒸氣機械を据付けしも亦好果を見る能はず。
- 同 十年 西南の戰役に依り勞銀暴騰して斯業沈衰す。
- 同 十一年 帆足義方遠賀郡香月炭坑に蒸氣機械を据付けしも、亦良果を奏するこ能はず。 ◎山本貴三郎始めて糸田鑛區を出願し翌年許可せらる。即ち今の豊國炭坑の始めなり。
- 同 十二年 各炭山の採掘炭依託販賣を目的とし若松商會を起せしものありしも、事業大に振ふに至らずして廢業す。 ◎此の年冬より翌年にかけて、四十七日間の強風により、蘆屋、若松より大阪送炭の帆船航海杜絶し、大阪の石炭相場一

萬斤に付百貳拾圓を唱へしも、航運復舊して此の報の蘆屋若松に達せし頃は、既に暴落して四拾圓となり、蘆屋若松にては參拾七圓を最高値とし、最低拾貳圓に低落せり。松本藩高雄炭坑第一坑を開く、即ち今の製鐵所二瀬出張所の始めなり。◎麻生太吉亦鯉田炭坑を開く、今三菱會社に屬するものは是れなり。◎杉山徳三郎筑前縣波郡(今の嘉穂郡)目尾炭坑に蒸氣機械を掛付け始めて好果を得たり、今の古河會社に屬するものは是れなり、筑豊の炭山之に倣ふもの多し。◎直方町外十ヶ村の各鑛區を一括して藤田傳三郎に許可せらる、地方の人々其の解放を懇請し、翌年始めて目的を達す。

参考 此の年三菱會社高島炭坑を引受く。

同十五年 許斐鷹助、本洞炭坑を開く。◎伊藤絢家第二新手段炭坑を開く。

同十六年 斯波義兼新入炭坑第一坑を開く、後近藤廉平の名義となり、今現に三菱會社に屬するものは是れなり。

同十七年 貝島太助鞍手郡宮田村に大の浦炭坑を開く。◎山本貴三郎豐國第一坑を開く、廿三年海軍豫備炭田の開放により更に其の事業を擴張す。

同十八年 四月九日福岡縣布達第三十四號を以て石炭坑業人組合準則布達せらる。◎田川郡に海軍豫備炭田を指定す。◎十一月十四日筑豊坑業組合を組織し、福岡縣屬石野寛平官を辭して其總長に就任し、直方蘆屋の外若松村新地六百二十二番地に事務所を置く。十二月二十八日申合規約並に總長就任認可せらる。◎白土某嘉穂郡額田村に明治炭坑第一坑を開く、明治二十年松本藩、安川敬一郎之を讓受け漸次事業を擴張す今の明治會社に屬するものは是れなり。

同二十年 十一月五日修多羅村新倉五百八十三番地に組合事務所を新築移轉す。

同廿一年 海軍豫備炭田を鞍手郡御徳方面及嘉穂郡熊田村に選定す。◎若松築港會社を創立し筑豊坑業組合總長石野寛平を社長とし、稻垣散之進組合總長を襲ぐ。◎九州鐵道株式會社成立す。◎門司築港會社亦起る。

同廿二年 門司港を特別輸出港に編入す。◎筑豊興業鐵道株式會社を創立す。◎田川嘉穂兩郡の海軍豫備炭田一部解放さる。

◎田川探炭株式會社起る。◎郵船會社勝野炭坑を買入れ、三菱會社亦鯉田新入の二炭坑を購ふ。◎安川敬一郎、平岡浩太郎の兩人赤池炭坑を開く。◎鯉田炭坑に始めて長壁式採炭法を行ふ、爾後之に倣ふもの多し。

参考 三池炭坑公賣入札を以て佐々木八郎に拂下げられ翌年三井家の名義となる。

同廿三年 選定坑區を公示す。◎豐州鐵道株式會社を創立す。◎鯉田炭坑第一坑より嘉麻川沿岸に運炭用「エンドレスロープ」を用ふ、爾後之に倣ふもの多し。◎鑛業條例發布せらる。

同廿四年 二月二十四日龍崎中和組合總長に就任す。◎筑豊興業鐵道若松直方間開通し、是れより順次延長す、(鐵道工事の進行は別記するを以て一々年別に掲出せず)、蓋し本鐵道の開通迄、各炭山の運炭は本川及び堀川運河の水運に據りしが、此に至りて始めて鐵道運搬を見るに至りしなり。◎粕木勘八郎等金田炭坑を開く、後名義人の變更ありて毛利公爵家の有に歸し更に三菱鑛業株式會社に買收せしものは是なり。

第四節 明治維新後の第二期 (自明治二十五年至同四十四年)

明治十八年筑豊石炭鑛業組合成立の後、時勢の推移に隨つて漸次大資本家の注意を惹き、筑豊炭田の開発に一大發展を促すべき機運は到來せり、就中九州鐵道の幹線は筑豊鐵道と、折尾驛にて接続し且筑豊鐵道線路の漸次延長するに従ひ、門司若松に搬出すべき石炭に、運搬上の一大改革を與へしと、門司の特別輸出港に編入せられしと、若松門司の築港會社を創立せしとは其の最も著しきものなりき、而して此等外部の施設に努むる頃は、内各炭坑の事業に於ても着々改良の方針を取り、比較的大規模を以て經營され、漸く面目を一新せしとき、偶々二十七八年戦役の起るに會ひしも、斯業の大勢は毫も挫折す

ることなく、殊に二十八年には豊州鐵道の小倉伊田間開通して、田川炭の門司搬出に一步を進め、二十九年より三十年、三十一年の頃にかけては、炭況大に振ひて斯業の隆盛前古に比なく、門司若松の二港亦此の間に於て著しく發達し、且つ三十年中遠賀郡八幡村に製鐵所を創立して、更に斯業界の活氣を添へ、三十一年には三井鑛山會社亦始めて筑豊炭田に其の業を起すべく、先づ山野炭坑を開き、尋て三十三年田川探炭坑を購入して大に業務を擴張し、其の他大資本の炭山皆争ふて擴張せしが戦後好況の反動は三十四五年の頃より現はれ、三十六年の不況に續きて三十七八年の戦役となり、一時市場の不振に從つて各炭坑皆消極的方針を採り、何れも事業整理の時機として、採炭費を節約し、又其の事務を改善して、炭坑經營上一歩を進めたる傾きあり、三十八年より三十九年に入りては、所謂戦後の好況に因り、炭價騰貴して殷盛を極め、四十年より四十一年の前半期にかけては、尙其の精力を感せしも、四十一年の後半期より一般經濟界の不振と、戦後好況の反動とにより、漸く市場の不振を來し各炭坑も採炭緊縮の結果、前年に比し其の送山高を減するに至れり。

尙毎年別に重要事項を列記すれば左の如し。若し夫れ事業の進捗を見るべき数字的資料に至りては、以下各章に列記する統計に據り讀者の熟覽を請はんのみ。

重要事項年表

- 明治廿六年 四月稻垣徹之進組合總長となる ○筑豊興業鐵道直方飯塚間、及直方金田間開通す ○鯉田炭坑に扇風機及正式の攪炭機を据へ付け安全燈を使用す、何れも筑豊地方に於ける嚆矢なり。○十二月六日組合事務所を若松町新地に移す。
- 同廿七年 古河市兵衛嘉徳郡下山田鑛區を購ふ ○住友吉左衛門忠隈炭坑を購ふ ○十月五日安達仁造筑豊石炭鑛業組合

(元坑業組合)總長に就任す。

参考 廿七八年戦役開始

- 同廿八年 廣岡信五郎潤野炭坑を開く、今製鐵所に屬するものはなり ○長谷川芳之助新手炭坑を引受く ○豊州鐵道小倉伊田間開通す、(是より漸次延長せしも今一々之を記さず。別項鐵道記事参照) ○原六郎平恒炭坑を經營し後他人に譲る、今の飯塚炭坑是れなり。

参考 廿七八年戦役終了、日清講和條約成る。

- 同廿九年 五月十六日若松市旭小路に事務所を新築移轉す、今の筑豊石炭鑛業組合事務所即ち之なり ○新入炭坑に深さ七百尺の豎坑開鑿工事を起し後三十三年竣工す ○古河市兵衛勝野及び目尾二炭坑を購ふ ○岩崎久米吉岩崎炭坑を開く。

- 同三十年 八月筑豊興業鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す。

参考 製鐵所を遠賀郡八幡村(今の八幡市)に設置す。

- 同卅一年 山野坑(三井)を開く ○上山田坑(三菱)を開く ○田川探炭坑構内に電話機を私設す、是より各坑共に鑛業用電話を設置するもの多し。

- 同卅二年 製鐵所高雄、潤野二炭坑を買収す ○六月豊國炭坑々内に瓦斯爆發し二百餘名の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、且侍従日根野要吉郎を差遣せらる ○麻生太吉豆田炭坑を譲り受く ○田川探炭坑を田川探炭組に譲渡す。

- 同卅三年 三井鑛山會社田川探炭組の事業を譲り受く。

- 同卅四年 赤池炭坑安川敬一郎の専有となり、豊國炭坑平岡浩太郎の専有となる ○九月豊州鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す ○筑豊石炭鑛業組合より福岡縣工業學校採鑛科新設費として金參萬壹千圓を寄附す。

明治五年

藏内次郎作等第二峰地炭坑を開く。◎麻生大吉藤棚炭坑を譲受く。◎畿に株式組織を以て經營せし明治炭坑安川敬一郎の専有となる。◎赤池炭坑に鑛山學校を起し、條定の人員を養成すること二ヶ年にして廢校す。

同廿六年

十月二十三日安川敬一郎組合總長に就任す。◎方城炭坑(三菱)鑛坑開鑿工事を起す。◎三好徳松垣末炭坑の跡を譲受け三好炭坑を起す。

同廿七年

若松港特別輸出港に編入す。
◎参考 三十七八年戰役開始。

同廿八年

三月法律第四十五號を以て鑛業法六月農商務省令第十七號にて同法施行細則發布せらる。◎勝野炭坑(古河)を廢す。◎三井田川炭鑛伊田鑛坑開鑿工事を起す。◎八月方城炭坑着炭す。

同廿九年

製鐵所中央鑛坑起工。◎三井山野炭鑛鴨生、漆生兩坑を開く。◎豐州採炭株式會社、大任仲津原の兩坑を經營す。◎若松港戸畑沿岸の石炭積込機械運轉を行ふ。◎筑豐石炭鑛業組合より遠賀川改修工事費として金貳拾五萬八千貳百圓を寄附す、因に大正五年五月更に金貳萬千八百圓を寄附す。

同四十年

三井鑛山會社本洞炭坑を購ふ。◎七月豐國炭坑瓦斯爆發の爲め三百三十六人の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。◎安川敬一郎豐國炭坑を譲受く。◎七月一日九州鐵道官有となる。◎参考 撫順炭坑大擴張の企あり、三菱餘田炭坑長工學博士松田武一郎を技師長として聘用す。◎足尾別子の夫銅山に鑛の暴舉あり、兵力を以て之を鎮む、生野鑛山及轄内、第二夕張等の炭山、亦不穩の兆ありしも、大事に至らずして止む。

同四十二年

安川敬一郎等明治鑛業株式會社を組織し、明治、赤池、豐國の三炭坑を經營す。◎鐵道室木線開通す。◎四月廿六日遠賀川改修工事を起す。

同四十四年

三井伊田鑛坑着炭。◎豐國炭坑第二坑開鑿起工。◎三菱餘田炭坑専用運炭電車を運轉す。◎貝島鑛業合名を株式組織に改む。◎十一月大之浦炭坑桐野第二坑瓦斯爆發の爲め二百五十六人の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり。◎侍従日根野要吉郎を差遣せらる。◎参考 安川敬一郎、松本健次郎の兩名寄附行爲を以て金參百參拾萬圓を授じ、遠賀郡戸畑町に明治専門學校を起し、四月一日より開校す。◎十一月より濠洲炭坑に鑛夫の同盟罷工あり。◎十二月撫順炭坑大山坑着炭す。◎七月英國倫敦に開催せし日英博覽會に對し、筑豐石炭鑛業組合より出品し、煤田地圖に對して名譽大賞牌を受領す。◎十月三菱合資會社金田炭坑を買收す。◎十二月三好徳松高松炭坑を買收す。

同四十四年

三月安川敬一郎筑豐石炭鑛業組合總長を辭任し、後任として麻生大吉就任す。◎四月藏内保房添田炭坑の一部を買收す。◎六月忠隈炭坑瓦斯爆發の爲め、七十三名の變死者を出す。◎當組合直方會議所新築落成す。◎米國鑛業會員ハント外七十餘名の觀光團來朝、筑豐石炭鑛業組合にて歡迎會を門司俱樂部に開く。

第五節 大正時代の石炭鑛業 (自明治四十五年至大正十四年)

明治四十五年 明治大帝神去り給ひて世は諒闇に入り經濟界亦衰炭況著しき變動を見ざりしも、撫順、開平、山東等支那炭田の探掘増加、支那革命の餘波、其他の事情等は、東洋市場の供給炭、漸次需要に超過するの傾向を示し、需給調節の對

策考究を餘儀なくせられ、茲に送炭調節の實行を見たるも、歐洲戰亂勃發大正三年八月我が帝國亦同盟の盟により、之れに參加するに至り、事業界漸く不振を來たし、加ふるに外船の往來殆んど皆無の姿にして需要は益減少し二星霜の久しき繼續實施するに至りしが、大正五年初春以來各種工業の勃興等により、需要の増大を現出せしかば五年十一月之を撤廢せり。爾來數年間は所謂經濟界の黄金時代にして各種工業所在に勃興し石炭鑛業界亦非常に活躍せしかば九年初春財界一角の變調は漸次擴大して隨所に破産倒壞の悲劇を演じ我鑛業界も之れが影響を蒙り港頭貯炭逐月増加せしかば茲に全國一致の步調の下に送炭調節の協定を遂げ十年五月以降繼續實施せしが、十三年十二月期限満了と共に一先づ廢止すること、なれり。尤も其間需給の關係に鑑み當初一割七分減とし十一年一月より四月迄一割二分五厘十一月十月よりは八分五厘減となせり。續て炭坑の設備を見れば明治三十五年より四十年前後に至る六七十年の間に於ては、從來斜坑の時代なりしもの一進して將に豎坑の時代に入らんとする過渡の時代にして三十六年一月中方城炭坑(三菱)の約一千尺に達すべき大豎坑を起工するあり、次で三十八年六月には、伊田豎坑(三井)の約一千二百尺の見込を以て、其の工事を始むるあり、製鐵所亦三十九年を以て、約一千三百尺に達すべき中央豎坑の工事を起し、各坑共内外の設備既に竣工して斯業界の模範と仰かるゝに至れり、斯業の前途は規模を大にし其事業を安全ならしむべく、隆々として改善の機運に向ひつゝあり。殊に此の間數年に於て鑛夫の待遇上次第に改善する處あり、労働者保護の目的を以て、日用品の供給を便にし、衛生及風紀上の取締を勵行し、共濟義會を設立し、業務の勤勉を懸賞的に奨励し、又は貯金方法を設くる等、各炭坑概ね同一の步調を採り、且つ各種専門學校の出身者續々斯業に従事するに至り、技術及處務に關する炭坑經營上、其の面目を一新せしは、斯業進歩の一徴として特に一言せざるを得ざる所なり。

若し夫れ労働法規に至りては當代に於て稍々完成し大正十五年七月より實施せられたもの、みにても甚だ多く第一に大正十二年の工場法中改正法律、この改正に伴ひて改正せられし工場法施行令及工場法施行規則と傭人扶助令、第二には大正二年の工業労働者最低年齢法及び其施行規則、第三には大正十三年の鑛業法中改正法律、之れと不可分の關係を有する鑛夫勞役扶助規第四則には、健康保險法と其關係命令の一部、第五には治安警察法第十七條廢止に關する法律、第六には労働爭議調停法及其施行令等あり實に大正の末代十五年は労働立法史上、一新紀元を劃する年である。左に本期間の石炭業に關係ある出來事を列記して參考に資すべし。

重要事項年表

- 明治四十年 五月戶畑海岸に「ホイスト、クレーン」一臺を増設し運轉を開始す ○七月十五日、筑豐石炭鑛業組合にて買ひ入れたる救助器使用の第一回練習會を開く、以來毎月數回開催續行す。
- 大正元年 九月堀三太郎御徳海軍炭山の拂下を受く ○九月小松炭坑々内浸水し二十四名の變死者を生ず。
- 同 二年 二月製鐵所二瀬出張所中央豎坑瓦斯爆發の爲め一百一名の變死者を生ず。 ○六月金谷炭坑々外より浸水し、死者六十三名を生ず ○十二月方城炭坑瓦斯爆發の爲め六百六十八名の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、侍從日根野要吉郎を差遣せらる。
- 同 三年 五月伊藤傳右衛門共所有各炭坑を提供し、古河虎之助と大正鑛業株式會社を組織す ○八月日獨國交斷絶青島攻圍開始せらる ○十一月若鍋炭坑瓦斯爆發の爲め、四百二十三名の變死者を生ず ○八月日獨國交斷絶青島攻圍開始せらる
- 同 四年 一月以來起工中の安全燈試驗場、初夏の候に至り竣成す。 ○四月東見初炭坑浸水の爲め、變死者二百三十六名

を生ず。○十二月農商務省令第二十五號にて石炭坑爆發取締規則發布せらる。

大正五年 五月本組合より遠賀川改修工事費へ更に金貳萬千八百圓を寄附す。○八月農商務省令第二十一號にて鑛夫勞役扶助規則同省令第二十二號にて鑛業警察規則布かる。○十一月一日より組合炭山の採炭制限を撤廢す。

同 六年 二月當組合と福岡鑛務署との共同經營に係る在直方安全燈試驗場を石炭坑爆發豫防調査所と改稱し爆發試驗をも行ふことす。○十二月本組合は創設費概算參拾貳萬圓を投じ鞍手郡頓野村西尾(直方町の東方半里)に地を卜して筑豊鑛山學校の設立を決議す。詳細は組合事業成績中にあり。桐野炭坑瓦斯爆發の爲め三百六十九名の變死者を出し、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

同 七年 三月當組合より田川郡立中學校へ金參萬圓を寄附す。○四月中鶴炭坑瓦斯爆發の爲め三十名の變死者を出す。○五月遠賀川改修工事竣工式舉行さる。○五月當組合及び若松石炭商同業組合は其共有金中より建築費拾六萬圓を投じて公會堂を建築し九年十一月竣工若松市へ寄附す。○六月麻生太吉株式會社麻生商店を組織す。○米價暴騰の爲め全國各地に暴動勃發し延いて組合炭山中に二三不穩の兆候ありしも日ならずして鎮靜す。○十月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より壹萬五千圓を支出して第十二師團出征軍人に慰問袋を寄附す。○十二月警察電話架設費として金壹萬貳千圓を福岡縣に寄附す。

同 八年 二月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より六萬圓を市立若松中學校に寄附す。○五月炭券(採炭切符)使用を禁止す。○十月福岡鑛務署より各坑へ達あり。○七月大正九年度に於て鞍手中學校に金壹萬貳千圓を寄附するここに決す。○十月米國華盛頓府に於て第一回國際勞働會議開催され本邦選出委員も列席す。

同 九年 一月福岡工業博覽會に金壹萬圓を寄附す。

同 十年 五月全國工業家協定の下に送炭調節を實施し引續き十三年末に及ぶ。○十月石炭鑛業聯合會成立し事務所を東京市麴町區丸の内日本工業俱樂部内に置く。

同 十一年 四月法律第七十號を以て健康保險法公布せらる。○八月當組合水運部解散。○十月開鑛炭坑に同盟罷業ありしも月餘にして鎮西す。○端西セネグアに於て國際勞働會議開催本邦委員出席、今後毎年出席す。

同 十二年 三月法律第三十四號にて工業勞働者最低年齢法發布さる。○九月關東方面に大震災あり當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より金五萬圓を義捐す。

同 十三年 七月法律第二十二號にて鑛業法第八十條改正さる。○十月勞働統計實地調査行はる。○十二月去る十年五月より實施せる送炭調節を廢止す。○同月内務省令第三十六號を以て勞働者募集取締令布かる。

同 十四年 四月福岡縣令第二十四號を以て勞働者募集取締令及同施行細則取締細則取振心得發布せらる。○同月二十六日當組合主催液體酸素爆藥爆發實驗を本縣鞍手郡直方町石炭坑爆發豫防調査所及び鞍手中學校々庭にて行ふ。

第六節 昭和時代の石炭鑛業 (自大正十五年至昭和五年五月)

大正九年來の經濟界の不況は昭和さなるも一向恢復の曙光だに見えざるのみが漸次深刻味を加へ殊に本年に入りては金輪出解禁、支那の銀相場低落、印度に於ける綿布關稅引上げ等の悪材料の影響を受けて一層沈衰の度を増し全く逆踏すべからざるものあり、されば之が對策として我石炭鑛業界に於ては去る大正十五年度より引續き送炭調節を勵行して(其間屢々率の變更を爲し本年五月よりは更に五分加重)之に備ふるも同時に一方産業の合理化に向つて鋭意調査研究を怠らず、仍ち各

坑は坑内外作業の機械化又は改善を行ひ、坑木の取引にメートル法を採用して取引の簡明及節約を期し、當組合は炭坑用品規格調査委員會を設けて先づ最も普遍的なる炭車の規格統一を圖り、次で坑内用電氣安全燈に就き目下調査研究中なり。若し夫れ病災害の防止、無駄排除、能率増進等については日本鑛山協會、縣鑛工聯合會、縣能率協會、協調會と協力して、講演講習會、ホスター、文書により之が徹底を期し、特に能率増進に對しては成績優良の炭坑當務者を煩して一場の講演並に質疑につき應答を乞ひ各坑の参考に供する等百方合理的方法を以て生産費の低減を圖りつゝあり。

重要事項年表

- 大正五年 一月より全國一齊に炭出調節を實行す。四月法律第五十七號を以て労働争議調停法、六月勅令第九十六號を以て同法施行令布かる。四月法律第六十號を以て暴力行為等處罰に關する法律發布せらる。六月鑛山及工場相互の連絡を圖り鑛夫職工の表彰吊慰を行ひ其他諸般の講究を爲し事業の進歩發展を期する目的を以て福岡縣鑛工聯合會成立す。六月勅令第一百四十三號を以て健康保險法施行令布かる。六月内務省令第十七號を以て鑛夫役勞扶助規則中一部改正さる。六月内務省令第十四號を以て工業労働者最低年齢法施行規則發布あり。七月内務省令第二十六號を以て健康保險法施行規則布かる。十二月松本健次郎、中野昇等嘉穂鑛業株式會社を創立し嘉穂炭礦を開掘す。
- 昭和二年 三月警城炭礦町田坑に變災あり死者百三十四名を出だす。七月鑛山に於ける災害の防止、衛生狀態の改善並に能率の増進を圖る目的を以て社團法人日本鑛山協會成立す。十一月美唄鑛山に變災あり死者三十九名を出だす。
- 同 三年 一月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より三萬圓を戸畑市公會堂建築費へ寄附す。五月同共有金より二萬

- 同 四年 四月東北大學助教理學士長尾巧氏に委嘱し數年來調査、作成中の筑豊炭田地質圖完成す。商工省令第二十號を以て鑛業調査規則布かれ同年十二月一日より施行さる。五月麻生太吉等九州鑛業株式會社を創立し帝國炭業株式會社の木屋ノ瀬 起行小松兩坑の事業を繼承す。六月内務省令第二十五號を以て鑛夫勞役扶助規則の一部改正さる。八月東大教授佐野博士を聘し地歴に就て講演會を催す。十月萬國工業會議東京市に於て開催さる。十二月商工省令第二十一號を以て鑛業警察規則改正、同省令第二十二號を以て石炭坑爆發取締規則改正各五年一月一日より實施する。十二月三井山野三坑に變災あり、死者三十五名を出だす。
- 同 五年 三月戸畑炭積機使用汽船積石炭取扱手續改正さる。四月一日より鐵道省メートル法採用運賃改正さる。

第二章 炭田

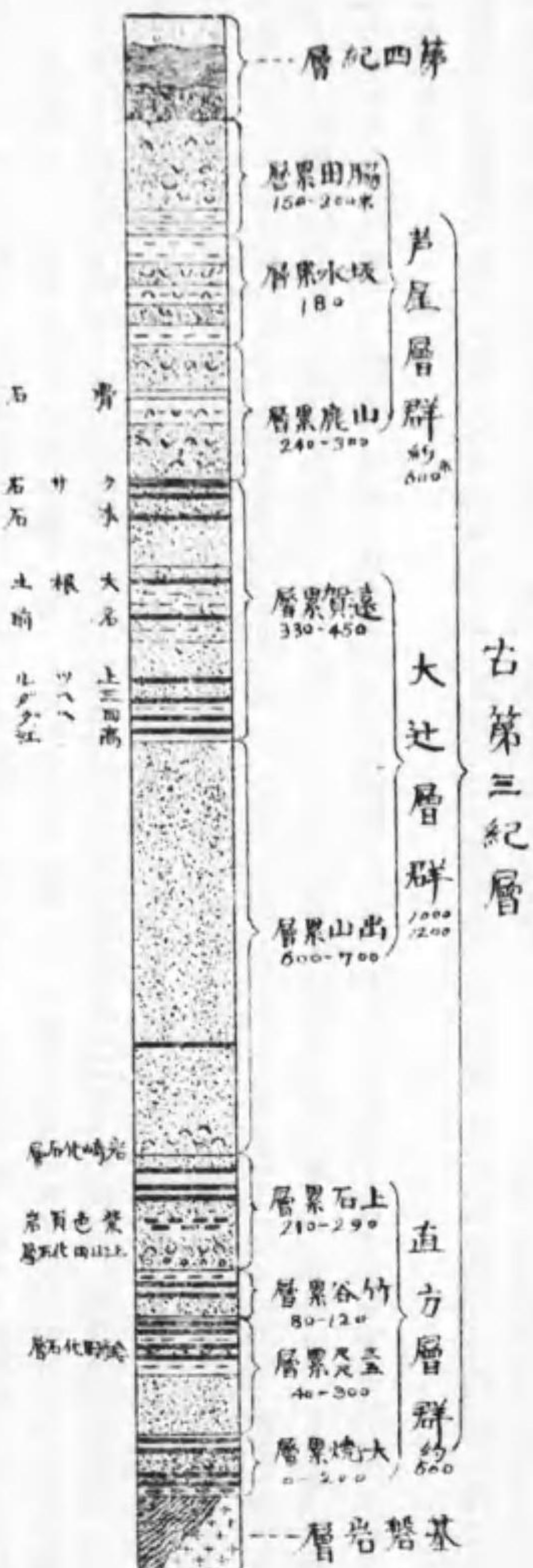
筑豊炭田は筑前の遠賀、鞍手、嘉穂三郡及び豊前の田川郡に跨れる本邦最樞要の産炭區域にして遠賀川及其支流に沿へる低地を占め北々西方より南々東方に亘り延長約十二里東西の幅員三里より七里に達し大凡五十一平方里の面積を占む、炭田の地形は狭長なる盆地をなせる波浪狀の丘陵にして總して高さ三十米乃至六十米なるも南方及び北西方に於て百二十米乃至百五十米に達する所あり、盆地の東西兩側は高さ三百米乃至六百米の山岳地にして東側に福智山靈西側に弘大寺及三郡兩山脈あり盆地の中央部にも是と併走する六ヶ嶽、金國山脈並に飯塚の東方を走れる山地あり爲めに炭田は北方にありては二區域に南方にありては三區域に分たる。

筑豊炭田の基盤及四圍の山岳地を構成する地層は南方に古生層北方に中生層あり其走向は筑紫山脈の方向に倣つて東北東方より西南西方を示し急傾斜の褶曲によつて著しく變動するのみならず花崗岩、閃綠岩、蛇紋岩等の火成岩の爲めに貫かれ激甚なる接觸變質を受く、此外北方に粉岩あり南方に噴出せる玄武岩及安山岩は第三期層及炭層を貫き層々岩床狀をなす所謂「ごん」と稱するものはなり。

挾炭層は基盤炭層の走向と直交し北々西方より南々東方に走り概して東方十度乃至二十度に緩傾斜せる單斜構造を呈すも雖も炭田各區域の東側に近ければ地層は反對に西方に急傾斜し峻に非對稱的の向斜構造を呈するを常とす。斷層は地層の一般傾斜と反對に西方に急斜せる階段斷層顯著にして所謂深上り斷層をなし深部の炭層は爲めに其位置を轉して屢々地表に近く其露頭を現はすに至る。挾炭層は砂岩、頁岩及變岩の互層にして之に石炭層を夾めり、矢部、長尾兩博士は挾炭層を分つて直方層群（大燒累層、

三尺五尺累層即ち本層群、竹谷累層、上石累層）大辻層群（出山累層、遠賀累層）蘆屋層群（山鹿累層、坂水累層、脇田累層）の三層群九累層となし之に含有する炭層の位置は柱狀圖に示すが如し。

筑豊炭田地層柱狀圖



挾炭層は之に含有する化石の證左によつて古第三紀層に屬し晚新紀層及至始新紀層なる事又上下を通じ整合的に重疊する事、直方、大辻兩層群は淡水又は半鹹、半淡水中に蘆屋層群は海水中に堆積せる地層たる事等明となれり、岩石の特徴とする所は直方層群には紫色頁岩及石炭層あり、出山累層には厚き變岩層あり、遠賀累層には凝灰質頁岩と石炭層あり、蘆屋層

群には綠色砂岩と海成化石あり、石炭層は厚薄總てを算すれば數十に達す可く直方層群に四累層をなし其中主要なるもの十五乃至二十層を遠賀累層に七層を算す其厚さ二尺乃至六尺時に十五尺に達す。

直方層群中最下に在るを大焼累層と稱し第三紀層の基底をなせる古期岩石に接し直立約三百五六十尺の間に五六枚の炭層を有す。最下の砂境層と稱するものは基底岩より隔ること僅に十數尺なり、此累層の最上部をなす大焼層の上方約百三十四尺にして本層群あり、最重要なる炭層を有し(約二百尺の間に十枚乃至十五枚の炭層を有す)三尺層及び五尺層は殊に著名にして此累層を一名三五尺累層と稱す、此累層の最上層をなす明治山張層の約二百七十尺にして竹谷累層あり、平均百六十尺の間に三枚乃至五枚の炭層を藏す、其上三百七八十尺を隔て、約百三十尺間に二三枚の炭層を有する上石累層あり、竹谷累層及び上石累層中の或る炭層は室木線地方及嘉穂郡南部に良好の發達をなせり、上石累層の上方は暫く石炭を欠き遠く約二千六百尺を隔て、遠賀累層あり、直方層群の各累層に於て炭層非常に密接して存するに反し此累層に在りては其存在疎らにして十枚の炭層は約千百尺の間に散布せり、第三紀層の基底面より遠賀累層の最上層なる臭石に至る總ての炭層及岩層の厚さは約五千五百尺に達す、尙第三紀層は臭石層の上蘆屋層群となりて厚く重疊するも雖今日まで未だ石炭層の發見せられたるものなし。

遠賀累層は遠賀郡の東部と鞍手郡の一部とに跨り遠賀川の東邊にあり北方山鹿より折尾中間香月地方鞍手郡木屋瀬町の東方及び上頓野に亘る一帯の地にある炭坑は此累層に屬する炭層を採掘するものなり十餘の炭層の内高江層、三尺層、五尺層等は其主なるものなり。

上石累層竹谷累層本層群及び大焼累層は互に相接近し遠賀郡の西部と廣く鞍手、田川、嘉穂郡の各地に現はれ地體の斷裂の爲め數帯をなす、直方の北方及び東南の地方より田川郡内の各地に群集せる數多の炭坑は最東列の諸炭層を採掘せり、九州本線の海老津驛附近の諸炭坑及び西川筋即ち室木線に沿へる炭坑、桐野小竹驛間鯉田驛附近、山野漆生線に沿へる諸炭坑及

び大隈下山田上山田驛地方のものは前者の西に並走せる諸炭層を採掘せり、又飯塚町の附近及び飯塚白井驛間の諸炭坑は西列の炭層を採掘せり、製鐵所の二瀬炭坑は此列中にあり、長尾驛附近及大分地方の炭層は別に各一區域をなす。

石炭の名稱は或は炭層の厚さにより三尺炭五尺炭八尺炭等と呼ぶことあり或は其性狀により臭石炭、角石、縮縮等と呼ぶことあり、或は又遠賀炭、田川炭等と地方名を冠することあり或は炭坑名を以てすることあり、然れば同名の石炭と雖も炭坑の異なるに従ひ炭層を異にすることあり、或は又同じ層の石炭にても炭坑又地方により其名稱を異にすることあり、本層群の三尺炭は新入坑にては五尺炭と云ひ明治炭坑にては三尺炭豊國炭坑にては八尺炭、三井田川鑛業所にては田川八尺炭と云ふが如し。

炭層の數多きに從ひ炭質も亦種々にして船舶用機關車用汽罐用、瓦斯用、糖炭製造用等一として産せざるなし、普通の瀝青炭の外に炭層中に突入したる火山岩の高熱の爲め石炭より化成したる燧石及無煙炭なるものあり共に一種の天然糖炭にして燧石は熱するに従ひ燻碎するの性ありて石灰焼、セメント製造等に歡迎せらる、無煙と稱するは眞の無煙炭に屬する炭種には非ざるも火山岩と接觸の爲に著しく揮發分を喪失し煙少なく煙臭なき特徴とし家庭用として用ゆるも亦可なり。

蘆豐炭田に存する大小炭坑の數は殆ど百五十に達し炭田の全部を蓋ふが如しと雖も炭坑位置略圖に明なるが如く炭田中未だ鶴嘴を立てざる所少なからず之に加ふるに探鑛の猶治れからざる區域の存するあり諸工業の旺盛に伴ひ供給多々益辨すと云ふべきなり。

第三章 鑛産額 附筑豊石炭採掘鑛區

第一節に於て先づ昭和三年中の組合炭鑛々別産額並に四年七月一日現在の筑豊石炭採掘鑛區全部を掲げて其採掘未採掘を示し、第二節以下に全国各地及朝鮮、臺灣、樺太の鑛別産額を掲げて石炭分布の狀態を明かにし、末節に於て全國及組合炭鑛の累年産額を記して參考に供することとせり。

第一節 組合炭鑛々別産額並に筑豊石炭採掘鑛區 (四年七月一日現在)

坑名	昭和三年 産額	登録番號	町村名	坪數	採掘權者	鑛業代理人
中(第一、二、三坑)	五、六、二、二六	二五九	中間 外五	二、九七三、六五五	大正鑛業株式會社	末次好太郎
大 辻	三、八、四、五二	四九九	香 外二	一、〇三三、四〇一	大辻岩屋炭鑛株式會社	久野松次郎
大 君	一、九、七、七九	四七〇	蘆 外二	五、〇、五〇六	大君鑛業株式會社	三好孝宗
高 松	一、六、四、七〇八	一〇四一	水卷 外二	四、八、〇、七六	三好鑛業株式會社	平位知彦
海老津	一、五、三、九七	一〇三一	岡垣 外一	九、七、四、八七	海老津炭鑛株式會社	

坑名	昭和三年 産額	登録番號	町村名	坪數	採掘權者	鑛業代理人
大 隈	一、五、八、八七	一九三	底井野 外二	九、四、五、〇四	大隈鑛業株式會社 外一名	谷村良太
岩 崎	一、五、一、七六	一九二	香月 外二	一、三、一、一五九	岩崎伴次郎	岩崎鶴龜
高 松	五、〇、三、三四	二二二	水卷 外二	四、八、〇、五五	三好鑛業株式會社	三好孝宗
高 松	五、〇、三、三四	二二二	水卷 外二	二、四、〇、〇一八		
楠 橋	三、八、六、九	二二五	香 外二	五、三、六、三三	小林勇平	小林林平
新 緑	三、〇、四、四四	二二三	香月 外一	九、九、二、六	平野嘉平 外二名	宮地信市
深 坂	一、四、三、四〇	二一七	中間 外一	一、四、四、一七	岩崎壽喜藏	
高 江	一、三、三、三八	二一五	香月 外一	五、六、一、七〇	溝口勘太郎	
高 橋	三、三、四、三	二〇〇	底井野 外一	一、三、〇、三六〇	堂垣内万吉	田村時松
未 採		一九	浅井 外一	四、八、〇、〇〇	井手小一郎	
全		三六	香月 外一	三、五、五、〇	安田森吉	
全		三七	岡 外一	三、〇、八、六	吉田磯吉	
全		三七九	全	五、六、〇、七	野村半三郎	朝尾直一
全		四〇四	上津役 外一	一、三、一、〇〇	大正鑛業株式會社	
全		四〇四	蘆 屋	一、八、三、三七	大君鑛業株式會社	久野松次郎
全		四〇六	香月 外一	四、三、四、七	佐藤恒生	

第三章 鑛産額

第一節 組合炭鑛々別産額並に筑豊石炭採掘鑛區

未探掘	五五	上津役外一	七三、五〇五	大正鑛業株式會社	朝尾直一
全	五七	岡垣	一八四、六五五	野村半三郎	
全	六七	水卷	二四、〇〇〇	株式會社佐藤商店	
全	七六	底井野	三三、〇二八	岡崎共同株式會社	
全	七五	岡垣	八五、三五〇	細貝幸治	竹原二一
全	七八	香月	九〇、〇〇〇	桑原傳次郎	
全	八〇	水卷	一一、五六五	株式會社佐藤商店	
全	八〇	岡垣	三三、六三三	大塚源市外一名	
全	八三	淺木外一	七四、八六六	御徳炭礦株式會社	林千太郎
全	八〇	淺木	二八五、二五	株式會社麻生商店	
全	九四	折尾	九三、〇〇〇	日本鑛業株式會社	
全	九二	香月外一	五八、〇〇〇	大辻岩屋炭礦株式會社	
全	九三	蘆屋	二四、六六七	株式會社麻生商店	
全	九五	淺木	一七三、四九	南川マヌ	
全	九五	岡垣	三八、〇三	株式會社麻生商店	
全	九五	全	四八、八五三	大浦寛三郎	
全	一〇八	島門外一	五五、五九六	妹尾與志夫	
全	一〇二	岡垣	三五、六五八	株式會社麻生商店	

全	一〇五	全	三七、五〇〇	岩崎鶴龜	
全	一〇四	全	七九、〇〇〇	中島森太郎	
全	一〇四	全	六五、七三六	海老津炭礦株式會社	
全	一〇五	全	七九、五六五	廣海二三郎	柳川精四郎
全	一〇七	島門外一	六二、〇〇〇	株式會社麻生商店	
全	一〇九	島門外一	二二、一〇〇	林友憲外一名	豐田敬藏
全	一二六	中間	九六、六七	岩崎壽喜藏	
全	一六〇	中間外一	一四〇、五六八	全	
全	特六〇九	島門	八六、五六一	全	
計	一、四八、七三三		三、四〇〇、九四四	全	

鞍手郡

第三章 鑛產額 第一節 組合炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭探掘鑛區 二七

坑名	昭和三年產額	登錄番號	町村名	坪數	探掘權者	鑛業代理人
大之浦	一、四三、四〇〇	二五八	宮田外三	五、三九一、四九〇	貝島合名會社	玉井磨輔
新入	四三、二七〇	一一四〇	直方外七	二、四六五、六六五	三菱鑛業株式會社	吉田一郎
木屋瀨	三六、六六〇	一一四四	木屋瀨外二	三六五、八六〇	九州鑛業株式會社	久世五郎
		一二〇六		四、五七〇、七五		
				一、二七、九四七		

南御德	勝山	百立	木入	大成	香之浦	三笠	新目尾	小竹	鴻之巢	旭水	泉水	御德	明治	目尾
三〇四	一、六二九	一、八二四	四、一三〇	八、三九九	一五、四六八	一九、〇八二	一九、四五五	二二、四八三	二五、四二〇	二五、七三六	四四、〇〇九	一九九、三六六	二八五、六六九	三三、四二四
一〇三	八三八	一三二	八九〇	一〇五	一一五	三八二	一四二	二二五	二〇四	一〇八	一〇八	一〇六	一一一	二二六
全外一	小竹	西川	小竹	西川	西川外一	西川外一	西川外一	小竹外一	小竹外一	全外一	西川	小竹外一	直方外三	小竹外四
一五、三三九	四、一五八	七、四〇二	二、九〇〇	三、〇九四	二五、三六二	四七、八五八	七六、七三三	一九、七四〇	四八、九八八	二九、九二〇	四九、一七四	五三、七五四	一、八七三	六九、三四七
小畑秀吉	立石徳次	小久保國夫	長網好富	神澤又市	藤井與三	株式會社三笠商會	猪口淺吉	八隅清太郎	明治鑛業株式會社	井上商事合資會社	大正鑛業株式會社	全社	明治鑛業株式會社	古河鑛業株式會社
上田久吉	原口谷五郎			神澤光雄		池野謙吉	梶栗近	青柳治太郎	岩永巖	山本與次兵衛	全人	岩永巖	長谷川恭平	

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	未採掘
六六	六九九	六四九	六三三	五五五	四八三	三三三	二八八	二七六	二七六	二七六	二七六	二七六	二七六	二七六	二七六
小竹外一	宮田	直方	小竹外二	笠松	直方	宮田	小竹	西川	木屋瀬	直方	笠松外一	木屋瀬	直方外一	宮田	直方外一
三五、二四四	二〇四、九七七	五五七、三四	三、一五一、六五四	九三、六〇〇	二〇、三七七	二六、四六〇	五、七六七	一五、三八八	二七、二八	二九、七六	二六、七二	二、〇五五	九、六四〇	一三、八三七	二八、二一九
長網好富	仰木七太郎	全社	三井鑛山株式會社	井上商事合資會社	篠崎貞次郎外三名	芦立文助	大重シツ	株式會社佐藤商店	株式會社中野商店	三菱鑛業株式會社	宮川謙一	株式會社中野商店	三笠鑛業株式會社	貝島合名會社	全店
		全	不破熊雄	山本與次兵衛	古賀太助				吉田一郎			吉田一郎			堤安市

第三章 鑛産額 第一節 組合炭鑛々別産額並ニ筑豊石炭採掘鑛區 二九

未探掘	六三	直方	六四、四八〇	青木慶太郎 外六名
全	六六	全外一	三、七四〇	三井鑛山株式會社
全	七九	直方	三七、八七五	株式會社中野商店
全	七三	小竹	一、六、八〇〇	山田留次郎
全	七三	直方	一、八、三三三	三菱鑛業株式會社
全	七六	宮田外一	一九、五九六	田中慎吉
全	七五	宮田	五七、三四三	全人
全	七二	西川外二	一〇四、二九〇	宮川謙一郎
全	八三	宮田	六八、三三〇	和田繁
全	八三	直方	一〇二、一八〇	寶邊直之
全	八三	西川	二四、二五〇	古田武太郎
全	八三	小竹	一八、四〇〇	河野英良
全	九七	宮田	六〇、三四一	小野七郎
全	九八	小竹	三四、三〇〇	河野英良
全	九五	全	三五、七八四	大重シツ
全	一〇一	笠松	九七、六〇〇	株式會社三笠商會
全	一〇一	宮田	一七〇、五〇〇	高木シウ
全	一〇四	全	一五一、一〇六	中村熊太郎

三〇

計全	三、二〇、六六八					
全		一〇七	直方	八二、三六〇	田中 新外一名	川口清松
全		一〇一	西川	一四、三五九	井上鑛業合資會社	伊藤竹次郎
全		一一〇	小竹	七八、二〇〇	石原政造	
全		一一二	笠松外一	三九、四〇〇	松本亭造	
全		一一六	木屋瀬外四	一、二六、三五五	三菱鑛業株式會社	吉田 一郎

嘉穂郡

坑名	昭和三年 產額	登錄番號	町村名	坪數	探掘權者	鑛業代理人
製鐵所二瀬	一、〇七、五九〇	一〇七	幸袋外四	三、二九、三六六	商工省	林嘉雄
製鐵所稻築	一八〇、〇三三	一	大隈外一	三六、三八九	全	全
鮫田	七三九、一七三	二五	飯塚外三	二、二九、三二九	三菱鑛業株式會社	吉田 一郎
三井山野	五六一、五二一	二〇九	稻築外三	一八三、七五四	三井鑛山株式會社	富田 太郎
飯塚	五七〇、〇八八	九九	穗波外一	三七九、二〇〇	中島鑛業株式會社	西原 民平
住友忠隈	四九三、〇八八	一三三	穗波外二	四六九、四四五	住友九州炭礦株式會社	
		七八		一一、五五一		
				一、四九、二五七		

第三章 鑛產額 第一節 組合炭鑛々別產額並ニ筑豊石炭探掘鑛區 三一

上山田 <small>(含中山田)</small>	三六三、六〇四	二〇五	山田 外二	五九二、七八〇	三菱礦業株式會社	吉田 一郎
芳雄	三〇二、九〇〇	二四一	飯塚 外二	三九三、五三〇	株式會社麻生商店	野田 勢次郎
綱分 <small>(含赤坂)</small>	二九七、三四九	二一七	庄 内	一、九二、八二〇	全社	野田 勢次郎
漆生 <small>(含日之田、音無)</small>	二六六、六四〇	一〇七	大隈 外二	一、〇六七、五〇〇	久恒礦業株式會社	野田 勢次郎
下山田	一八九、四三〇	三六三	山田 田	三〇五、四七二	古河礦業株式會社	長谷川 恭平
吉隈	一八三、八七四	九三五	德波 外四	一三六、〇〇九	株式會社麻生商店	野田 勢次郎
平山	二二、四七九	二四八	桂川 外一	二〇九、三一九	平山炭礦株式會社	森脇 松一郎
大山浦	一〇〇、八〇五	一〇七	山田 外一	六八、九〇六	野上礦業合資會社	野上 寅三郎
鎮西	九七、九二一	二〇三	桂川 外一	一〇〇、七八八	中島礦業株式會社	西原 民平
豆田	六七、九七六	二一九	鎮西 外一	八、四五四	坂木 忠雄	宮崎 政雄
上山	四三、六三三	二二〇	上穗波 外一	三三、三五九	株式會社麻生商店	野田 勢次郎
		二二六	山田 外二	五四五、五二六	橋上 俊崇	
		三三六		二六六、五三七		
		六七三		一八、二〇〇		
		一〇二四		一四、三二九		

大和	四三、六三一	三三八	山田 田	四四、六七三	小島 治平	明石 友助
日吉	三五、七八七	二〇九	全 外一	九、一三五	共同石炭株式會社	
玄王	二四、六六七	二二八	山田 田	五八、四八五	田籠 寅藏 外一名	
庄司	一四、二四四	一六九	幸袋 外一	一四九、八〇〇	古野 春吉 外一名	
筑紫	二二、三七五	四三三	山田 田	一八〇、七二一	橋本 信次郎	小野 兼太郎
嘉德	七、四四一	二六四	大分 外一	一、五九四、七〇〇	嘉德礦業株式會社	松村 茂
神ノ浦	七、〇三八	九三〇	穗波 外一	五八五、七四七	中島礦業株式會社	
本大城	六、三六〇	一八四	額田 田	一〇二、九七〇	合資會社大橋商會	永井 憲三
第二寶滿	五、〇三三	二〇〇	穗波 田	七八、五六七	松岡 滿	
相田	三、〇七七	六九七	二 瀬	二九九、二六〇	吉田 俊幸	
山隈	一、八二三	八八一	大隈 田	五五、八三五	大音 加一郎	吉松 要三
大定	一、五五二	七三三	山田 田	一九九、五三三	田籠 寅藏	
天神	一、二九三	八七九	鎮西 外一	二〇八、四〇一	野見山 忠三郎	
上目尾	一、〇二七	九七七	幸袋 田	九六、八三六	猪口 淺吉	室岡 仁三郎
額田	八八四	七六三	額田 田	二二三、八三九	野村 半三郎	朝尾 直一

第三章 礦產額 第一節 組合炭礦々別産額並ニ筑豐石炭採掘區

宮之上	八七〇	幸袋	二六、九〇	寺島一郎	寺島虎男
朝倉	六〇九	山田	四三、〇九	時津竹二郎	寺島
天道	六〇三	桂川	一三、一五四	久保田ヨウ	八木檜次郎
第一上目尾	五七〇	幸袋	六、一六〇	野見山平吉	
出雲	四七三	上穂波外一	一一、四二〇	岩崎廣吉	大庭佐八郎
小富士	四五一	額田	四、九六六	横尾萬吉	
吉野	四六六	全	三三、八六七	井上松市外一名	
生野	三五五	大隈	二六、一六五	中島衛三外一名	
鹿毛	二六三	額田	一〇八、四七二	森本常太郎	上田直
白井	二二三	白井	三三、四八五	橋本謹爾	明石友助
筑前	五〇	千手外一	一四六、二〇〇	松岡作七外一名	今村健二郎
未探掘		穂波	六、九三三	株式會社麻生商店	
全		山田	二〇五、八三三	兒島完一外一名	
全		幸袋	六五、九四四	野見山平吉	
全		飯塚	二九四、七二四	榎谷平三郎	
全		全	一五、五九七	中島續業株式會社	西原民平
全		桂川	二三八、五五九	齊藤株式會社	藤木直次
全		上穂波	六〇〇、二六七	日本續業株式會社	

全	八八	大分	六五、九九五	全	社	中尾謹次郎
全	八九	上穂波外一	七四八、〇九八	全	社	全
全	九九	幸袋	三九、一三三	松本作次外一名	保	
全	二〇四	大隈外一	二四、五八五	松尾	保	
全	二二三	山田外一	一六、一九七	株式會社麻生商店		
全	三三七	穂波外一	二〇、五九九	株式會社中野商店		
全	二八六	穂波	一七、七九〇	全	店	
全	三四六	確井	三六、三三三	株式會社麻生商店		
全	三五六	上穂波	七、五三〇	神原喜代治郎		
全	三八三	桂川	一五、五〇〇	株式會社佐藤商店		
全	四〇〇	飯塚	一六、八三〇	株式會社麻生商店		
全	四〇九	大隈	八、七九	上村加久治		
全	四一九	桂川	三八、二六七	榎谷平三郎		
全	四六六	飯塚	五、七〇〇	松本作次外一名		
全	四七九	大隈	四三、三七	山口馬城次		
全	四八八	全	一六四、〇三五	長谷川ちゑ子		
全	五〇九	額田	八六、〇〇八	土肥輝雄		宮本千太郎
全	五四三	確井外一	一四七、九六〇	株式會社佐藤商店		

第三章 鑛産額
第一節 組合炭鑛々別産額並ニ筑豊石炭探掘鑛區
三五

企企企企企企企企企企企企企企企企企企企企

第三章 礦產額

第一節 組合炭礦々別產額並ニ筑豐石炭採掘區

八五五	大隈外一	一九、八四四	久恒貞雄	
八九八	内野	一五〇、五八九	吉成貫二	
九三九	碓井外一	二二一、三六〇	山口馬城次	
九六六	山田外一	五三、〇〇〇	今泉七兵衛	田江梅吉
九六六	大隈外一	二二四、二二二	株式會社麻生商店	野田勢次郎
九七〇	上穂波	三八三、五九四	日本礦業株式會社	
九七一	内野	二六、三三五	全社	
九七三	上穂波	五七、八五四	全社	
九七八	大隈外一	一一、〇〇〇	久恒貞雄	
九八四	額田外一	一一、〇五七	明治礦業株式會社	堀内敏堯
九八六	飯塚外一	五〇、〇七三	三菱礦業株式會社	吉田一郎
九八八	穂波	一五〇、二六一	株式會社麻生商店	
一〇二二	大隈外一	一八七、八〇〇	中島森太郎	
一〇二九	大隈分	一八、六四四	中野昇外一名	
一〇三四	幸袋外一	六六、六一一	千代田商事株式會社	
一〇三五	二瀬	三三、三〇〇	株式會社佐藤商店	
一一八一	桂川外一	九〇、三九〇	日本礦業株式會社	
一一九五	額田外一	五〇、一四三	久恒貞雄	

企企企企企企企企企企企企企企企企企企企企未探掘

| | | | | | | | | | | | | | | | | |

五五五	碓井	一五、〇四三	山口馬城次	
五八五	上穂波	三三、三二〇	日本礦業株式會社	
五九八	稻築外一	七、六〇〇	栗飯原正雄	
六〇四	大隈	一三、六五五	國際興業株式會社	吉田儀一
六〇五	鎮西	八三、六五〇	全社	全社
六〇五	全	六三、五〇〇	全社	全社
六〇五	上穂波	八二、五八八	日本礦業株式會社	
六〇四	大隈	八、五二一	木下徳次郎	
六八〇	宮野外一	一九、九〇〇	尼田合名會社外二名	尼田徳造
六八七	飯塚	二九、一九七	株式會社麻生商店	
六八八	全	五〇、三六〇	全	
七〇四	幸袋	一〇三、九二二	合名會社成東商會	北原喜次郎
七三八	穂波	一八、五〇〇	藤田歡治	
七五五	大分	六四、二〇〇	日本礦業株式會社	中尾謹次郎
七七〇	庄内	二九、三〇〇	株式會社麻生商店	
八三〇	稻築	七四、八七四	中山貞雄	
八五〇	桂川外一	一三、五四〇	野見山廣吉	
八五四	額田外一	五九、八九〇	森本常太郎	明石友助

坑名	昭和三年 產額	登記番號	町村名	坪數	探掘權者	鑛業代理人
三井田川	一、二六、九三七	一〇九八	大任 外六	七、九四六、九〇九	三井鑛山株式會社	不破 熊雄
豐國	五、四九、六七〇	二二八	金川 外四	九八六、五二二	明治鑛業株式會社	窪内 石太郎
赤池	四、五七、八八九	二二三	上野 外三	三、一八五、三三五	明治鑛業株式會社	相浦 鼎五
大峰三坑	三、八、二八九	一〇五九	大任	一、五五、五七三	藏内鑛業株式會社	石丸 政太郎
峰地	三〇三、〇三二	一〇六〇	添田 外一	一、三〇四、二八三	全社	全人
計	五、八三、八〇七			四五、〇七五、二二二		
全		特七七七	桂川	三四九、〇八三	榎谷 平三郎	富田 太郎
全		二八〇	全 外一	一、五六、一〇〇	石原 正一	富田 太郎
全		二七九	德波	三五〇、四五〇	中 西	富田 太郎
全		二七二	全	一七六、六三〇	三井鑛山株式會社	富田 太郎
全		二六六	稻築 外一	一、七八、六八九	株式會社 麻生商店	西原 民平
全		二六三	稻築 外一	五九、三五九	中島鑛業株式會社	西原 民平
全		二六〇	山田	三九、六八一	久恒 貞雄	西原 民平
全		二五八	庄内	一、五三、四〇〇	三井鑛山株式會社	富田 太郎
未探掘						

方城	大峰	起行小松	宮尾	糸田	大峰分坑	豐州	本添田	糸飛	後藤寺	川崎	不動	池尻	樹田
一九〇、七三三	一四七、一三三	二一九、三六六	八六、八五七	六三、〇〇八	三八、二六三	三三、九四五	一九、四四三	一六、六六三	一三、六八九	二、五〇三	五、八五〇	五、〇二二	一、四三三
一〇七三	三六三	五〇一	一四三	一八九	九五	四三八	三三	六八一	一八三	二四八	三八〇	一三三	七六三
方城 外一	添田 外二	後藤寺 外一	香春 外一	糸田 外二	添田 外一	川崎 外一	添田 外一	勾金 外一	後藤寺 外一	川崎 外二	大任 外一	川崎	彦山 外一
二、三三、五五六	五、六三、七四八	一、六九、四四三	七、八、四三八	七三、三〇〇	六九五、六五五	一四四、〇三四	五、四七、九八〇	一、六六、六六三	一、六四、〇〇〇	三、五四、七三八	一、九四、〇四九	三、四、四六七	二、五、二四六
三菱鑛業株式會社	藏内鑛業株式會社 外一名	九州鑛業株式會社	株式會社 宮尾炭礦	井上鑛業合資會社	藏内鑛業株式會社	池永 富三郎	秀村 ハル	株式會社 糸飛炭坑	北代 市治	城島 敬五郎	香春鑛業株式會社	橋上 保 外一名	權藤 峰二郎
吉田 一郎	石丸 政太郎	深川 清	香月 大藏	石丸 政太郎	石丸 政太郎	福田 定次	青柳 藤兵衛	古川 覺	稻員 眞一	伊藤 秀三郎	伊藤 秀三郎	植木 淺太郎	

第三章 鑛產額

第一節 組合炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭探掘鑛區

岩 野 福 大 高 小 位 成 未
下 田 智 昭 尼 松 登 登 探
新 坑 光 堀

一、三六三
一、三三〇
五七七
二六〇
二四三
二四二
一六二
一六二
六〇

二四一 後藤寺外一
九四四 添田
四三三 金田外一
一〇三三 川崎
九三三 上野
八六八 後藤寺
八三〇 猪位金外一
九三三 大任
六〇 金田
九七 川崎
二二二 安真木
一四四 川崎
一五五 全
二七〇 金田外三
二七五 猪位金外一
三二七 猪位金外一
三五五 添田
三四四 金田外一

三、五七
四八、五八〇
五、五五五
七五八、〇三
二五、三五〇
一五、七六八
一七、八五五
二二、九九三
九、四六七
一八、四四〇
三四、一八三
二九、八四〇
一七、五八九
六五、八四三
四七、六八〇
一四、五三三
一九、一六四
二〇、四〇八

小松 忠三 郎 緒方 三 彌
宮城 盛三 郎 明石 友 助
森本 常太郎 外一名 永松 虎之 助
尾島 義 唯 藤尾 敬 郁
日露 實業株式會社 木村 敬 一
尾島 義 唯 永松 虎之 助
植田 義 唯 植田 敬 一
池邊 爲吉 宇津 俊 吉
福田 定次 外三名
株式會社 麻生 商店
尼崎 炭礦株式會社
全社
三菱 礦業株式會社 吉田 一 郎
福田 定次 外三名
岩崎 壽喜藏 山本 信 夫
住友 合資會社 吉田 一 郎
三菱 礦業株式會社

四〇

全 全

第三章 鐵產額

第一節 組合炭鐵々別產額並ニ筑豐石炭採掘鐵區

四一

| | | | | | | | | | | | | | | | |

四九 上野 外一
四七五 方 城
四八三 上 野
五〇 添田 外三
五〇 勾 金
五六 方城 外一
五九 安真木
五九 全
六三 川崎 外一
六三 金 田
六三 全
七三 添 田
七三 添 田
七五 添 田
七五 添 田
八三 猪位金
八三 猪位金
八三 後藤寺外一
八七五 猪位金

二七三、三九三
九三、三五〇
五二五、一八九
三四一、三三〇
六三、八八七
九九、〇五
一四、九四〇
二六三、五五
七三、七〇
二七、二〇〇
七三、三九〇
四八五、三四八
八八、六七〇
二七六、五〇〇
三二、六九八
一九〇、八八八
六九、二五三
七九、〇〇〇

大友 安利子 外一名 平名 雅 平
下澤 平 太郎
大友 安利子 外一名 山本 信 夫
住友 合資會社 山本 信 夫
馬場 辨三 吉田 一 郎
三菱 礦業株式會社 山本 信 夫
住友 合資會社 山本 信 夫
身吉 秋 義 福島 全 藏
神林 虎雄 外二名
吉田 己三 外二名
吉田 己三 外二名
住友 合資會社 山本 信 夫
武田 虎次 郎 山本 信 夫
齋藤 株式會社 藤木 直 次
宮田 寅之 輔 堀 富 太郎
小森 市 太郎 窪 内 石 太郎
明治 礦業株式會社 外一名
中村 宗 一

第二節 鑛山監督局管内別鑛山別產額

四四

縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者	縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者
山口	宇部市	東見初	三九、六六	藤本 閑作	山口	厚狹	大	三四	山田 寛三
全	全	王 子	一、六四	水上寅藏外二	全	全	尻 力	一、六三	長門起業炭礦株式會社
全	全	第一笹山	一五、八七	竹中初太郎	全	全	田 尻	七、四三	宮崎 久米藏
全	全	見 初	六、五四	今井 進一	全	全	沖 田	四七〇	丸 尾 繁
全	全	沖見初	一五、八三	大倉鑛業株式會社	全	全	宮 田	五三	酒井 清造
全	全	沖之山	九〇、六九	沖山炭鑛株式會社	全	全	酒井高千穂	九、七三	長門起業炭礦株式會社
全	全	昭 和	三二	庄 晋太郎	全	全	第 二	三、九四	辻 本 恒吉
全	全	西岐波	三、六三	藤井 保	全	全	長門起業	三、九四	辻 本 恒吉
全	全	厚狹	三、六三	藤井 保	全	全	平 原	三、九四	辻 本 恒吉
全	全	小野田	三、六三	藤井 保	全	全	山陽大嶺	一〇、一七	山陽無煙炭礦株式會社
全	全	高千帆	三、六三	長門起業炭礦株式會社	全	全	有之木	三、九四	田中市次郎
全	全	厚狹	一八	今村 八郎	全	全	荒 川	一、六五	森 直記
全	全	日乃山	六四	淺積 泰藏	全	全	長 尾	一、六三	田邊 誠民
全	全	東 陽	一、三四	大道美津子	全	全			
全	全	妻崎	八、九〇	妻崎炭鑛株式會社	全	全			

縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者	縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者
山口	美禰	山 口	二五	新藤角太郎	福岡	糟屋	久 原	一三、六七	明治鑛業株式會社
全	全	大 嶺	七、七三	大嶺無煙炭礦株式會社	全	全	宗 像	三、四七〇	水原鑛業株式會社
全	全	福 岡	七、七三	大嶺無煙炭礦株式會社	全	全	朝 倉	一〇、五〇〇	寶珠山鑛業株式會社
全	全	大 田	八、三五	明治鑛業株式會社	全	全	筑 日	三、九〇〇	中村莊一郎
全	全	槽 屋	八、三五	明治鑛業株式會社	全	全	筑 日	一四、九五	府内 義郎
全	全	高 田	四、七五	明治鑛業株式會社	全	全	月 限	一、三六	東 秀 保
全	全	海軍新原	四、七五	海 軍 省	全	全	姪 濱	二、三三	姪濱鑛業株式會社
全	全	須 惠	一、五	兒玉昌太郎	全	全	福 岡	二、四三二	全 社
全	全	篠 栗	二、七〇	篠栗炭鑛株式會社	全	全	永 池	一、〇五	三菱鑛業株式會社
全	全	末 吉	二、九四	日本鑛業株式會社	全	全	楠ノ木原	一、七八	全 社
全	全	第二大谷	九、七三	櫻 羽 薰	全	全	入 野	一、七三	宮島鑛業株式會社
全	全	壽 田	二、六	田中鐵三郎	全	全	新屋敷	三、四七	古川 甚一
全	全	植木第六	四、九〇	森 春 松	全	全	住友殿木	三、八三	住友九州炭礦株式會社
全	全	龜 山	一〇、七三	東邦炭鑛株式會社	全	全	前 田	三	藤田 虎吉
全	全	昭 和	二〇、三九	山崎和三郎	全	全	菅見堂	五七	菅谷幸太郎 外一
全	全	槽 屋	一五、九三	日本鑛業株式會社	全	全	相知芳谷	四三、八八	三菱鑛業株式會社
全	全	大 谷	三、三四	大谷炭鑛株式會社	全	全	岩 屋	二九、二二	大辻岩屋炭礦株式會社
全	全	敷 島	一七、五二	尼崎伊三郎	全	全			

第三章 鑛產 第二節 鑛山監督局管内別鑛山別產額(福岡)

四五

長崎	北松浦	住友芳野浦	六、五三	住友九州炭礦株式會社	熊本	天草	鶴尾	三三	宮崎	長松
全	全	平尾力富	一、三四	力富又四郎	全	全	旭	三、九四	田中	榮藏
全	全	船越灣	三、四三	小野德重	沖繩	八重山	沖繩	三、八九	沖繩炭礦株式會社	
全	全	株式會社 麻生商店經營	一、五〇	株式會社麻生商店	全	全	琉球仲良	三、七二	河野	吉次
熊本	天草	長	三、三三	鶴田秀彦	全	全	高先	二、九六	高崎	庄三郎
全	全	大嶽	五、〇	野口正徳	全	全	琉球南風坂	九、四五	河野	吉次
全	全	新山	五、〇	日本煉炭株式會社	計	全	沖繩	二、三三	沖繩炭礦株式會社	
全	全	ソクド石	三、七	杉野外生	計	全	共立	九、五五、六六	家田綱吉外一	

大阪鑛山監督局管内

府縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者	縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者
三重	鈴鹿	伊勢	四、五	松林安熊外一	和歌山	東牟婁	尾頭	一、三九	尾崎作次郎
京都府	加佐	舞鶴	八、四	藤本甚良外一	全	全	深澤	四、八七	松澤清次郎
和歌山	東牟婁	植松	三、五七	植松新十郎	計	香川	小豆大	三、三	萬俵兵太郎外一
全	全	大前	三、三	大前陽三外一				二、八三	

東京鑛山監督局管内

縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者	縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者
茨城	多賀	大倉無煙	二、六、四五	大倉鑛業株式會社	長野	東筑摩	橫道	五、〇	橫山覺太郎外一
全	全	高萩	二、八、四	大日本炭礦株式會社	全	全	蘆澤	七、〇	楠本正慶
全	全	磯原	六、八八	全社	全	全	山田	四、五五	野口庄一郎
全	全	重内	一、三、五三	磐城炭礦株式會社	全	全	田口	三、六	信濃炭礦株式會社
全	全	山口無煙	七、〇三	山口一良	全	全	八木	三、三	伊藤米吉
全	全	千代田	一、〇、一七	磐城炭礦株式會社	全	全	桂野	九、五九	野口庄一郎
全	全	華川無煙	一、四七	日支炭礦株式會社	全	全	下野	一、四九	大橋龜吉
新潟	北蒲原	赤谷	三、八六	東洋物産株式會社	計	岐阜	武儀	七、三、四七	平野六之助
長野	小縣	池田爲作經營	一、六	池田爲作					

仙臺鑛山監督局管内

縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者	縣名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者
山形	西田川	由良	九、〇	石塚宗一	山形	北村山	川前	四、四	大日本炭礦株式會社

第三章 鑛產額 第二節 鑛山監督局管内別鑛山別產額(大阪、東京、仙臺) 四九

山形	北村山	大浦赤繩	六五	伊藤真治外一	福島	石城	不動澤	三、二七	不動澤炭礦株式會社
全	全	大石田	八、九三	中川脩	全	全	磐前	三、九〇	山崎ミツ
福島	雙葉	淺見川	四〇五	今幡西衛	全	全	磐前	八、八六	磐城炭礦株式會社
全	全	高倉	七、六六	田野元次	全	全	入山	四〇五、一八五	入山探炭株式會社
全	全	廣野	二、六六	入山探炭株式會社	全	全	小田第二	一〇八、一三六	小田炭礦株式會社
全	全	伊勢	二、九二	箕田長三郎	全	全	川瀨	三、九〇九	川瀨幸治
全	全	好間	一、八〇、五三	古河鑛業株式會社	全	全	品川赤井	六、五六	品川白煉瓦株式會社
全	石城	小田隅田川	四、九〇一	小田吉治	全	全	大倉	七、〇	井上武八
全	全	磯	二、八〇七	島田磯	全	全	東海	一、三六四	大日本炭礦株式會社
全	全	磐城神奈川	四、四三	矢郷倉藏	全	全	廣部	四、三五四	廣部鑛業株式會社
全	全	浪花	一〇、七〇	關又一外一	全	全	王城第二	二、八三七	王城炭礦株式會社
全	全	越賀	三、三六五	橫武	全	全	帝國	一、三三一	井上武八外一株式會社
全	全	本島	二、七五	本島甚吉	全	全	勿木	一〇五、一九九	大日本炭礦株式會社
全	全	宮島	四、六	東日本炭礦株式會社	全	全	小野田	二四、九三	磐城炭礦株式會社
全	全	朝鮮	一五、八七一	朝鮮炭礦株式會社	全	全	湯本	一四、九四九	三井鑛山株式會社
全	全	王城	四、〇	王城炭礦株式會社	全	全	川田無煙	一、九三〇	北村民也
全	全	王城第三	三、八三一	全	全	全	全	全	全

五〇

福島	石城	富士	三、九五	鳳城炭礦株式會社	福島	石城	岡田	六、四	岡田力松
全	全	法田	四、七四	全	全	全	大平	二、八九	谷澤ふよ
全	全	喜久多	五、三八	全	全	全	福島	七、五五	福島炭礦株式會社
全	全	植田無煙	一、六八五	全	計	全	全	二、二八、四〇	全

札幌鑛山監督局管内

國名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者	國名	郡市名	坑名	昭和三年 鑛產額	鑛業權者
後志	古宇茅	沼	三、七〇	深口汽船鑛業株式會社	石狩	空知	住友唐松	一四、九九	住友坂炭礦株式會社
全	全	住友歌志内	六、七三	全	全	開北	九、三五	株式會社南昌洋行	
全	全	幌内(幾春別)	一、七、四三	北海道炭礦汽船株式會社	全	全	上歌志内	一六〇、九九七	住友坂炭礦株式會社
全	全	幌内(木坑)	三、二、六三	全	全	新美	一四、七二	德田與三郎	
全	全	豐田	四、九元	豊田炭礦株式會社	全	全	美流	三、〇八	北海道炭礦汽船株式會社
全	全	空知	四、八、八七	北海道炭礦汽船株式會社	全	全	彌生	六、二七	東邦炭礦株式會社
全	全	幌内太	一、七、七	吉岡萬藏外一	全	全	新赤平	五、六	高倉安次郎

第三章 鑛產額 第二節 鑛山監督局管内別鑛山別產額(札幌)

五一

台北文山	全	內	一五	基隆炭礦株式會社	台北文山	全	益田	三、三六	益田万太郎 外一
全	全	雙興	一、九五	台陽鑛業株式會社	全	全	三八	日東鑛業株式會社	全
全	全	余克讓經營	八、四〇	余克讓	全	全	五、四三	林治	全
全	全	何清風	三、〇〇	何清風 外一	全	全	二、五五	益山炭礦株式會社	全
全	全	林阿熱經營	七、五	林阿熱	全	全	一、七六	益田万太郎	全
全	全	張謝氏愛經營	二、七二	張謝氏 愛	全	全	三、四一	俞石堂	全
全	全	林紅毛經營	二、〇〇	林紅毛 興	全	全	五、三三	持木茂	全
全	全	柯子崙	一、〇四	何承興	全	全	一、〇四	益田万太郎 外二	全
全	全	牛埔基隆社	五、五	基隆炭礦株式會社	全	全	四、六	蘇成福	全
全	全	牛埔賀田	八、五二	株式會社賀田組	全	全	一、六六	陳炳成	全
全	全	株式會社	三、五〇	全	全	全	三、六九	山本義信	全
全	全	鶯山炭礦株式會社	六、四	鶯山炭礦株式會社	全	全	九、三	劉鳳鳴 外一	全
全	全	治水	三、〇	台灣炭業株式會社	全	全	四、五〇	姜振	全
全	全	南勢角	一〇、八一	古岩井宇伊智良	全	全	二、九	王氏紅嬰	全
全	全	周再思經營	一、五三	周再思	全	全	八	胡錫鄉 外三	全
全	全	板橋	七、五〇	株式會社	全	全	五、八	長瀨信二	全
全	全	林開郡經營	四、六	賴簡氏 蓮 外一	全	全	二、八六	林添富	全

五八

台北海山	全	嶺	四、六	賴簡氏 蓮 外一	新竹大溪	全	曾天生經營	三、六	曾天生
全	全	苑姜羅	三、七〇	苑姜羅 外四	全	全	四、八	楊漢龍經營	全
全	全	洪丕基	九、三	洪丕基 外二	全	全	一、〇五	全人經營	全
全	全	蕭厝	二、三	林添富	全	全	五、五	昭和商會	全
全	全	海山	二、七六	海山炭礦株式會社	全	全	一、七七	合資會社振昌商行	全
全	全	苑新梅經營	二、五八	苑新梅	全	全	四、七四	大溪炭礦株式會社	全
全	全	東成	一、七三	陳旺同	全	全	四、六四	楊漢	全
全	全	陳海樹	一、八〇	陳海樹 外一	全	全	五、四	葉福照 外二	全
全	全	楊證經營	一、〇七	楊證	全	全	一、四三	蘇先致 外一	全
全	全	王天送經營	一、二〇	王天送	全	全	五、九六	林玉	全
全	全	姚國興	二、七	姚國興 外一	全	全	六、四六	基隆炭礦株式會社	全
全	全	黃阿桂	三、四	黃阿桂 外一	全	全	二、五五	林啓興	全
全	全	計	一、五三、七九		全	全	三、九六	展南拓殖株式會社	全
全	全	計	一、五三、七九		全	全	四、四	楊王吉經營	全

第三章 鐵產額 第四節 臺灣總督府管內鐵山別產額

五九

第五節 樺太廳管内鑛別産額

郡名	鑛名	昭和三年		鑛業權者
		鑛産額	産出割合	
川上	川上	二〇三、二九二	九三〇	樺太廳
東白浦	東白浦	一七、〇〇九	六、六五七	樺太工業株式會社
知取	知取	二〇四、一八〇	一四二、四八一	全
櫻保	櫻保	五、九六五	五三三、五二三	全
計	計	五、九六五	五三三、五二三	

第六節 全國(朝鮮、台灣、樺太ヲ除ク)及組合炭鑛累年産額

年次	全國産額		組合炭鑛産額		産出割合
	全産額	産出割合	全産額	産出割合	
明治三十一年	六、七四九、六〇二	三、六三四、六四四	五、四〇〇	二、五四二、三九七	五、〇三
全 三十二年	六、七五五、七七一	三、四六〇、五五三	五、一〇二	二、九三〇、一〇三	四、九七
全 三十三年	七、四八八、八九一	四、〇七、五三一	五、三六	三、八三三、九六九	五、〇二
全 三十四年	九、〇七、三五五	四、八五五、二四七	五、三八	四、八五、三三三	四、九六
全 三十五年	九、七〇、六八一	四、九〇、四〇九	五、〇八	五、〇四八、一三三	四、九八
全 三十六年	一〇、〇八八、八四五	五、〇五六、三五五	五、〇一	五、六八一、三四	四、九八
全 三十七年	一〇、七三、七九六	五、三八七、四七三	五、〇三	一七、六三三、七二〇	四、九四

年次	全國産額		組合炭鑛産額		産出割合
	全産額	産出割合	全産額	産出割合	
大正元年	一九、六九、六五五	九、四九五、三八九	四、八四	二六、三〇、六七	一〇、六八九、二〇九
全 二年	二二、三五、九六三	一〇、五七、〇七三	四、九三	二七、七〇、七三二	一一、二四一、一八七
全 三年	三三、二九、四一九	一〇、三四、四〇七	四、六四	二八、九四八、八二〇	一一、六八四、七〇三
全 四年	二〇、四九、七四七	八、七六九、五五八	四、二七	三〇、一〇、八二六	一一、三四五、一五
全 五年	三三、九〇、五八〇	九、八四五、六七二	四、二九	三二、四九九、四二五	一一、七四六、七五六
全 六年	三六、三六、四三〇	一一、三三、九三三	四、二六	三三、四五六、五四九	一二、七八八、二五
全 七年	二八、〇三、九四五	一一、六三、六八八	四、一五	三三、五三〇、六〇七	一二、三五〇、六六二
全 八年	三三、二七、〇九三	一一、七九九、九五二	四、一一	三三、八六〇、一八一	一二、一九二、五七七
全 九年	二九、三四、三八四	一一、六八九、七四	四、〇〇	三三、八六〇、一八一	一二、一九二、五七七

第四章 鑛夫

第一節 組合炭鑛年別鑛夫調

過去五年に遡り各年別に示せば左の如し

昭和四年六月末 九〇、五三四人 昭和三年六月末 九八、五三〇人 昭和二年六月末 九九、三八一人

昭和元年六月末 一〇〇、三〇六人 大正十四年六月末 一〇四、七二四人

主なる坑別に示せば左の如し

鑛名	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
大之浦	八、六七	八、八一	九、四〇	九、七五	九、七八
三井田川	七、〇三八	七、五五〇	八、〇八五	七、四九三	九、四二六
飯塚	四、五八八	五、六五九	五、七七八	四、九八五	五、七三九
忠隈	四、三六五	四、三三七	三、九四九	三、九八七	三、七九四
鯉田	四、〇九三	四、三九四	四、七三四	三、六九七	四、一五〇
三井山野	三、四九二	三、七八二	三、八〇四	三、六二六	四、〇九九
大峰	三、三二六	四、〇二二	四、八七二	五、四七〇	五、一〇四
芳雄	三、三三三	二、八五三	二、三七六	二、一六二	三、三三五
上山田	二、八〇〇	三、四六三	二、三八三	二、四五二	二、七五三
大辻	二、七四五	二、五四六	二、四三三	二、五一一	二、六〇六
赤池	二、六六三	二、八七一	二、九三四	二、九五七	二、七三三
中鶴第一	二、六五五	二、七三六	二、五九三	二、二八五	二、三三五
新入	二、五七九	二、七三三	二、九八一	四、六八七	四、六八八
方城	二、五七〇	二、七二一	二、七三二	二、四九四	二、七七八
木屋瀬	二、五三〇	三、一九〇	二、六九八	二、三八五	二、六六七
豐國	二、三八三	二、六四九	二、七〇四	二、九五七	三、一〇四
吉隈	二、〇一八	一、六九六	一、四九七	一、二一六	一、八四
目尾	一、九七七	三、一四三	二、八七一	二、四七四	二、四三八
高松(含高尾)	一、八七三	一、六九二	一、三二一	一、三三一	九八五
明治	一、七九九	二、〇九一	二、〇四二	二、〇六六	二、〇九八
峰地	一、六五三	一、九三三	一、九六三	一、八五〇	一、五五四
漆生	一、三五四	一、三九三	一、四四七	一、二七九	一、三二一
金丸集丸	一、二五九	九、〇四	四、二二	一、七五三	一、八二九
下山田	一、一七一	一、六〇五	一、五四〇	一、四七七	一、〇〇九
網分	一、一六六	一、一四四	一、〇五六	一、〇二六	一、〇三六
赤坂	一、一〇一	一、一〇一	一、〇三三	九八五	一、〇三七
大君	一、〇五二	二、〇〇七	一、六六三	一、〇三三	九七七
大隈	一、〇四二	九〇七	七五七	八五五	八七八
中鶴第二	九〇四	九六〇	八〇九	七三三	七三三
起行小松	九〇〇	七七四	一、〇二二	一、一五六	一、七一九
山田	八八九	七三五	七二五	一、一七〇	一、一三三
海老津	八二〇	一、二七一	一、二四二	一、一七〇	一、一三三
岩崎	七六七	七七七	六七〇	六六七	五三七
宮尾	七四〇	一、〇五五	五五六	四二三	四五六

鑛名	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
島廻	六四八	六三三	六五六	六三三	六七九
豆田	六〇三	五四〇	四八八	三四九	四九九
鎮西	五八五	六二八	五三二	五〇六	五〇五
深坂	五〇〇	(新坑)			
嘉穂	三七七	(全)			
泉	二九九	二八八	二八六	三六六	二八七
旭水	三三二	三三七	三二七	二四一	一七七
中鶴第三	三三九	三三四	三六三	三九二	三六三
小竹	二〇八	二二二	二二九	二〇八	二二二
日吉	一九二	二六九	二六九	一九二	二六九
香之浦	一五二	二〇〇	二〇〇	一五二	二〇〇
三笠	一三〇	二五八	二五八	一三〇	二五八
新目尾	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七
合計	三二〇	三二〇	三二〇	三二〇	三二〇

第二節 組合炭鑛作業別鑛夫調 (昭和五年三月末現在)

鑛名	探炭夫	支柱夫	運搬夫	選炭夫	機械夫	工作夫	雜夫	合計
大之浦	三、〇〇三	二、八〇五	七〇七	六六	五五	三六六	八四八	八、九一〇
三井田川	一、九五〇	一、七六六	四九三	二五四	九七七	一六三	九八一	六、五八四
忠隈	一、六六四	五九五	二九三	二〇〇	二〇四	二〇一	六七四	三、七七一
飯塚	一、六五四	五三八	二四〇	三九	一七九	一六二	五四五	三、六四七
三井山野	一、二二〇	八二二	三六五	二〇〇	一六八	二九一	五〇四	三、五三〇
鯉田	一、四四三	七三	二六四	二〇	一九四	三二一	九九五	三、五三三
芳雄(山上)	一、八六五	三九八	二四九	一九八	二一八	一〇五	二九二	二、三三五
大峰	一、〇一九	七九五	二〇五	一七三	一四三	一六一	二九四	二、七八九

第四章 鑛夫 第二節 組合炭鑛作業別鑛夫調

赤坂	四七六	一八七	三五	八三	五	五	一四六	一四六	一四六
中鶴第二	四九五	八五	三五	九八	二四	二四	二二	二二	一三三
大君高尾	五三三	一〇八	四三	六七	二	二	二	二	八三六
大隈	三三三	一五八	四九	六七	一	一	一	一	七四三
起行小松	三八四	一三三	四八	五八	二	二	二	二	七三九
宮尾	四三七	七	五五	四	二	二	二	二	八六三
岩崎	四八一	二四	一五	九六	二	二	二	二	六六九
島廻	二九八	三三	六	一四七	二	二	二	二	六四四
豆田	四〇七	一六	三三	三三	二	二	二	二	六二五
海老津	二九三	五	三三	三三	二	二	二	二	六〇一
深坂	四六八	四	一五	七	二	二	二	二	五九〇
末吉	三三七	三	二六	三	二	二	二	二	四九一
嘉德	三三六	一五	二二	三	二	二	二	二	四八四
上山	二七八	四	二二	三	二	二	二	二	四三三
鎮西	二八八	四	二二	三	二	二	二	二	四三七
楠橋	二三八	三	一六	二	二	二	二	二	三三三
泉浦	一九〇	三	九	一	二	二	二	二	三〇九
香之浦	一六九	三	〇	〇	二	二	二	二	二四九

第四章 鑛夫 第二節 組合炭鑛作業別鑛夫調

六五

中第鶴一	一、四〇三	四六	三三	二四	一五九	六四	二四六	二、七八三
大辻	一、二〇八	四三	三二	二四	二〇〇	九五	三九七	二、六二六
木屋瀬	一、七三五	二〇六	一七八	二二	一〇九	四四	一〇二	二、五八六
新入	八三三	三六	三三	一六〇	一〇九	四四	七六八	二、四三七
上山田	八八四	三五	九	三九	一九	一〇三	六六一	二、四一九
方城	三六五	三九七	二〇七	二六六	一五九	八九	六五六	二、二五六
赤池	九二一	二六六	一九〇	二二	一五三	八九	二六	二、〇三〇
吉隈	一、一三六	二七七	六六	六一	九〇	一七三	一六	一、九五九
高松本	一、〇〇一	二八一	八二	二四	一七	八四	五	一、八八三
豐國	六五五	三五三	二〇六	一九四	一七	一七	一八〇	一、八六一
目尾	五九七	五二	八八	一三九	六六	一七	一八〇	一、五二二
金丸集丸	八七七	三〇七	五八	四六	六六	一七	一八〇	一、四七一
峰地	五九九	二八三	一三三	一四六	五八	一六	一四二	一、四三三
明治	八四三	一	九三	一四六	六六	一六	一四二	一、三〇九
漆生	六五六	三四三	五七	一八	九	一六	一四二	一、二五三
下山田	三七〇	三八	七三	二二	六	一三	一七三	一、一八四
山田	七四六	八六	五	八九	一	一三	一三	一、一四四
網分	六八八	一〇	五	四六	五	一六	九七	一、〇九四

第五章 運炭

第一節 概説

鐵道開通前の筑豊炭の輸送機關は炭田を貫流する遠賀川本支流に於ける艀船なりしが、明治二十四年筑豊興業鐵道の直方若松間、二十八年には豊州鐵道の小倉伊田間開通し年々運炭を延長せらるゝに及び時間的に又經濟的に不利不便なる艀送炭は逐年減少し今日に於ては只地理的關係にて獨り高橋垣生炭坑の運炭を有するに過ぎざるに至れり。其の全盛期の艀数は約六千五百隻を算せしが現在には僅に二百を數ふるのみ石炭を滿載して降下するもの、順風に帆をあげて逆航するもの絡繹たりし往時の盛觀を回想すれば轉今昔の感切なるものあり。

鐵道運炭の沿革に就ては既に其の概要を第一章に掲げしも左に發達の一斑を年別に示さん。

筑 豊 線
田 川 線

- 明治二十四年 八月若松直方間開業、九鐵本線亦本年より折尾にて接續す
- 全 二十五年 十月小竹驛開業
- 全 二十六年 二月金田驛及堀川貨物驛、七月鯉田、飯塚兩驛及鯉田芳雄貨物驛、十一月筑前植木の各驛開業、十二月底井野、筑前植木間複線開業
- 全 二十七年 十月新入第三、第四の貨物驛、十二月幸袋驛、及庄司高雄の貨物驛及折尾中間、直方筑前植木間の複線開業す
- 全 二十八年 四月白井驛開業

- 全 二十九年 四月若松折尾間複線開業
- 全 三十年 八月新入貨物驛開業、全筑豊興業鐵道を九州鐵道に合併す
- 全 三十一年 二月大隈、下山田、中泉各驛、三月忠隈、平恒、藤棚、日燒の各貨物驛、十一月直方勝野間複線開業
- 全 三十二年 二月本洞貨物驛、八月二島驛開業
- 全 三十三年 十一月伊岐須貨物驛、九月楠驛、大城第一、第二の貨物驛、十一月渡野貨物驛開業
- 全 三十四年 六月上山田驛、十一月大辻貨物驛、十二月天道、長尾驛開業
- 全 三十五年 二月勝野、桐野の兩驛、六月鹽頭、上三緒、山野の各貨物驛開業
- 全 三十六年 四月豆田、十一月目尾、赤池金田各炭坑の貨物驛開業
- 全 三十七年 十一月菅平田貨物驛、勝野小竹間複線開業
- 全 三十九年 四月方城貨物驛開業
- 全 四十一年 二月枝國貨物驛、室本線各驛開業、七月岩崎、香月、各貨物驛開業
- 全 四十三年 十月第二菅平田貨物驛開業、十二月中鶴貨物驛開業

第五章 運炭 第一節 概説

◎各礦主要驛間籽程及運賃(一吨當)表

所屬驛	炭鑛名	若松驛 籽程運賃	戶畑驛 籽程運賃	門司驛(葛葉) 籽程運賃
折尾	大君高尾	一〇、八	一三、九	二九、二
高尾三		一〇、八	一三、九	二九、二
高尾尾		一〇、八	一三、九	二九、二
高松本		二〇、一	二六、二	三八、五
海老津		二〇、一	二六、二	三八、五
泉老津		二〇、一	二六、二	三八、五
新延	新目尾	三三、二	二五、三	四〇、六
大新	成	三三、二	二五、三	四〇、六
八尋	旭山	二四、四	二七、五	四〇、八
百立		二四、四	二七、五	四〇、八
室木	三笠	二六、二	二九、三	四四、六
香之浦		二六、二	二九、三	四四、六
中鶴第一		一五、八	一八、九	三三、三
中鶴第二		一四、九	一八、〇	三三、三
中鶴		一五、八	一八、九	三三、三
新多	第二目尾	三四、四	三七、五	五二、八
本入		三四、四	三七、五	五二、八
鹽頭	小竹	三三、六	三六、七	五二、〇
香拔二		三三、六	三六、七	五二、〇
梶原		三三、六	三六、七	五二、〇
勝山		三三、六	三六、七	五二、〇
鯉田		三五、四	三八、五	五三、八
鯉田炭坑	本大城	三五、四	三八、五	五三、八
飯塚		三九、四	四二、五	五七、八
忠限		三九、九	四三、〇	五八、三
新平恒飯塚		四〇、九	四四、〇	五九、三
平恒飯塚		四一、六	四四、七	六〇、〇
吉限		四一、六	四四、七	六〇、〇
樋口		四六、四	四九、五	六四、八
金丸		四六、四	四九、五	六四、八
末吉		四六、四	四九、五	六四、八
上山田		五三、八	五八、三	七二、二
大隈		四九、〇	五三、一	六七、四
日谷		四九、〇	五三、一	六七、四
日ノ出		四九、〇	五三、一	六七、四
嘉門		五三、八	五八、三	七二、二
中山田		五三、八	五八、三	七二、二
下山田		五三、八	五八、三	七二、二
上田		五三、八	五八、三	七二、二
上田		五三、八	五八、三	七二、二
上田		五三、八	五八、三	七二、二
大紫		五三、八	五八、三	七二、二
大和		五三、八	五八、三	七二、二
大隈		五三、八	五八、三	七二、二
樋口		五三、八	五八、三	七二、二
安倍		五三、八	五八、三	七二、二
三正		五三、八	五八、三	七二、二
朝倉		五三、八	五八、三	七二、二

第五章 運炭 第二節 鐵道運賃

所屬驛	炭鑛名	若松驛 籽程運賃	戶畑驛 籽程運賃	門司驛(葛葉) 籽程運賃
新多	第二目尾	三四、四	三七、五	五二、八
本入		三四、四	三七、五	五二、八
鹽頭	小竹	三三、六	三六、七	五二、〇
香拔二		三三、六	三六、七	五二、〇
梶原		三三、六	三六、七	五二、〇
勝山		三三、六	三六、七	五二、〇
鯉田		三五、四	三八、五	五三、八
鯉田炭坑	本大城	三五、四	三八、五	五三、八
飯塚		三九、四	四二、五	五七、八
忠限		三九、九	四三、〇	五八、三
新平恒飯塚		四〇、九	四四、〇	五九、三
平恒飯塚		四一、六	四四、七	六〇、〇
吉限		四一、六	四四、七	六〇、〇
樋口		四六、四	四九、五	六四、八
金丸		四六、四	四九、五	六四、八
末吉		四六、四	四九、五	六四、八
上山田		五三、八	五八、三	七二、二
大隈		四九、〇	五三、一	六七、四
日谷		四九、〇	五三、一	六七、四
日ノ出		四九、〇	五三、一	六七、四
嘉門		五三、八	五八、三	七二、二
中山田		五三、八	五八、三	七二、二
下山田		五三、八	五八、三	七二、二
上田		五三、八	五八、三	七二、二
上田		五三、八	五八、三	七二、二
上田		五三、八	五八、三	七二、二
大紫		五三、八	五八、三	七二、二
大和		五三、八	五八、三	七二、二
大隈		五三、八	五八、三	七二、二
樋口		五三、八	五八、三	七二、二
安倍		五三、八	五八、三	七二、二
三正		五三、八	五八、三	七二、二
朝倉		五三、八	五八、三	七二、二

天	道	第二寶滿	四三、三	二一〇	四五、四	一一七	六〇、七	一五〇
長	尾	豆田	四五、三	二一七	四八、四	一二四	六三、七	一五〇
豆	田	豆田	四五、七	二二七	四八、八	一二四	六四、一	一五〇
目	尾	目尾	三、五	九一	三六、六	九七	五、九	一三三
庄	司	庄司	三六、七	九七	三九、八	一〇四	五、一	一四二
二	瀬	瀬西	三八、九	一〇四	四三、〇	一一〇	五、七	一四二
芳	雄	芳雄山内	三七、六	九七	四〇、七	一〇四	五、〇	一四二
上	三	三緒	四〇、七	一〇四	四三、八	一一〇	五、九	一四二
赤	坂	赤坂	四〇、六	一〇〇	四五、七	一一七	六、〇	一五〇
鴨	生	三井山野三	四〇、八	一一〇	四六、九	一二七	六、二	一五〇
漆	生	三井山野四	四〇、二	一一七	四九、三	一三四	六、四	一五〇
大	城	第一	三〇、八	八五	三三、九	九一	四九、二	一三四
赤	池	赤池	三三、七	九一	三六、八	九七	五、一	一三三
新	池	新赤池	三三、七	九一	三六、八	九七	五、一	一三三
堀	川	堀川	三五、三	九七	三八、四	一〇四	五三、七	一三三
方	城	方城	三五、七	九七	三八、八	一〇四	五四、一	一三三
上	穂	上穂	三八、七	九七	四〇、八	一〇四	五六、一	一四二
香	春	香春	四八、一	一三四	五二、二	一三三	六六、五	一五九
夏	吉	夏吉	四三、七	一〇〇	四六、八	一一七	五七、七	一四二
伊	田	伊田	四六、〇	一一七	四九、一	一二四	六〇、〇	一四二
後	藤	後藤寺	四一、〇	一〇四	四四、一	一一七	五九、四	一四二
南	行	南行	四三、六	一一〇	四六、七	一二七	六二、〇	一五〇
起	行	起行	四四、〇	一一〇	四七、一	一二四	六二、四	一五〇
池	尻	池尻	四四、三	一一七	四七、四	一二四	六三、七	一五〇
川	崎	川崎	四五、八	一二七	四八、九	一三四	六四、二	一五〇
第	一	第一大任	四八、三	一三四	五一、四	一三三	六六、七	一五九
島	廻	島廻	四九、二	一三四	五二、二	一三三	六七、六	一五九

第二大任	大峰一	五〇、二	一三三	五三、三	一三三	六六、六	一五九	
添	田	峰地二	五二、九	一三三	五五、〇	一三三	七〇、三	一六八
庄	峰	地一	五三、九	一三三	五六、〇	一四二	七三、三	一六八
大	藪	三井田川二	四六、六	一三七	四八、七	一三四	六四、〇	一五〇
豐	國	豐國	四六、九	一三七	五〇、〇	一三四	六五、三	一五九
◎九州	鐵	業線						
木	屋	木屋瀬	二二、四	八六	二六、五	九三	四、九	一三三
野	面	木屋瀬	二六、四	九三	二九、五	九六	四、八	一三三
◎九州	産	業線						
赤	坂	炭坑	四六、六	一三六	四八、七	一三三	六四、〇	一七六
◎小倉	鐵	道線						
所	屬	炭	鐵	名	東	小	倉	驛
上	香	春	宮	尾	五	三	七	〇
新	宮	尾	三	七	〇	九	六	

第三節 總送出高類別

筑豊炭の總送出高は組合創立の翌年即ち明治十九年には僅に三十萬噸に過ぎざりしに現在に於ては約千二百萬噸を算するに至れり、左に此送出高を郡別、送出先別、炭種別にしたる年別表を掲げ参考に供することとせん。

第四章 運炭 第三節 總送出高類別

今	任	香	春	四三、〇	一一二																			
梅	田	大	峰	三	四七、〇	一一八																		
伊	原	大	峰	一	五〇、〇	一二五																		
特	定	運	賃																					
大	峰	一	坑	側	線	發	二	限	リ	一〇五														
特	定	運	賃																					
上	添	田	峰	地	一	五三、〇	一二七																	
備	考	高	驛	海	岸	に	於	て	荷	卸	す	る	も	の	に	對	し	て	は	一	疋	五	錢	の
附	海	陸	聯	絡	線	料	を	徴	す															
歸	運	賃	(大	正	十	一	年	一	月	改	定)													
炭	鐵	名	若	松	迄	ノ	運	賃	(一	萬	斤	當)												
高	橋	垣	生	七	四	錢																		

◎筑豊五郡總送出炭郡別年別表

年次	遠賀	鞍手	嘉穂	田川	企救	合計
明治十九年	四三、七二〇	一四二、七二二	八三、六三八	三九、八三九	—	三〇九、八九九
全二十年	四四、六八〇	一八九、三五二	二四、七七六	六一、二七五	—	四一〇、〇八二
全廿一年	八七、四三三	二二一、九四九	一五六、九九六	九五、二六〇	—	五五一、六七七
全廿二年	一三一、九六七	二二三、〇六五	二二九、八一	九五、二二三	—	六六九、九五六
全廿三年	一三八、八五七	二五六、〇一九	二七九、七七九	一一二、九三六	—	七八七、五九一
明治廿四年筑豊興業及九州鐵道石炭運搬開始						
全廿四年	一五七、七四九	二六二、四六三	三三三、七四三	一八六、四五六	—	九二〇、四一一
全廿五年	一三三、七四四	三三七、三〇五	三三九、九四九	二二九、七七九	—	一、〇三九、七七七
全廿六年	一四〇、三七四	四二四、二六一	三七二、二五九	二九七、一八四	—	一、二三四、〇七八
全廿七年	一七五、七三五	五八二、四三五	五四二、五〇二	四一〇、二三五	—	一、七二〇、八八七
明治廿八年豊州鐵道石炭運搬開始						
全廿八年	二二三、〇六二	七九六、〇四〇	六八一、六四一	四四五、八七三	—	二、一三六、六一六
全廿九年	二三八、三三〇	八二三、三三三	六六六、六六五	六二四、二四五	—	二、三四二、五六二
全三十年	三〇〇、三〇〇	八九五、〇一八	六三六、一六五	八九五、二一九	—	二、七二六、三四二
全卅一年	五二〇、三六六	九九八、三二二	七九八、五〇一	一、〇八三、九四六	—	三、四〇〇、七九四

明治卅二年企救郡各坑組合に加入

全卅二年	五二一、三三三	一、〇七、九〇一	九六一、六七五	一、〇一八、〇八三	—	二四、三七八	三、五三三、三五〇
全卅三年	五二一、五七一	九九三、八四六	一、〇三〇、五二七	一、四五〇、八八〇	—	六〇、四四〇	四、〇八七、二五四
全卅四年	六二八、五四一	一、二九一、四三四	一、二五八、三三三	一、五五〇、六四七	—	五二、七七七	四、七六一、六三二
全卅五年	六〇〇、二六九	一、四九九、一一一	一、三五六、八八六	一、五三三、二一九	—	六四、一六三	五、〇四三、五四八
全卅六年	五九八、五三三	一、五七六、五四四	一、四九七、八一〇	一、四八四、二五三	—	七、五五五	五、一六四、六八四
全卅七年	五三五、八八三	一、七三三、五三八	一、四六四、五四七	一、六三八、五七五	—	四三、九九七	五、三八六、五二九
全卅八年	五五五、〇三九	一、六三九、〇八四	一、四六四、六四三	一、七七五、一一三	—	六三、六四九	五、四五七、五二八
全卅九年	六九五、四一九	一、四六八、三五七	一、八七九、三七九	一、九五四、〇七六	—	三九、七〇〇	六、〇三六、九六一
全四十年	七七〇、七三八	一、六四一、〇九一	二、一三三、五八五	一、八九六、九七七	—	二一、〇七二	六、四六二、四六三
全四十二年	八七六、〇七二	一、六七〇、九五四	二、三三一、四三七	二、〇三〇、八八五	—	一五、三三三	六、九〇二、六三六
全四十四年	八七一、五三四	一、五九〇、六一六	二、二七三、四〇二	二、二一〇、四七一	—	—	六、八六九、六一九
全四十四年	九八七、三〇四	一、七九三、四四五	二、六六〇、八五〇	二、四七〇、七八五	—	五、四四四	七、〇六九、八二六
大正元年	一、〇八〇、六三三	一、九三七、七六六	二、七四七、四五二	二、八九一、六九六	—	一四、七六八	八、六七二、九〇四
全二一年	一、三七一、五八一	二、〇九八、二〇五	二、九四一、六三五	三、一一〇、三四三	—	一三、〇六八	九、五三三、八二二
全三年	一、二六八、八九二	二、〇九八、七三七	三、〇〇二、五九〇	三、〇六一、九七六	—	一七、七七〇	九、四四九、九六五

第四章 運炭 第三節 總送出高類別

大正四年小倉鐵道石炭運搬開始

年次	若松驛	戶畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	若松(水運)	芦屋(水運)	小倉(水運)	合計
大正四年	1,036,011	1,783,036	2,601,870	2,554,047	2,815,878	2,554,047	2,554,047	2,554,047	2,554,047	2,554,047	8,003,131
五年	1,355,061	1,859,011	3,047,710	2,875,155	1,977,000	2,875,155	2,875,155	2,875,155	2,875,155	2,875,155	9,036,928
六年	1,534,884	2,008,866	3,462,143	3,208,580	2,733,717	3,208,580	3,208,580	3,208,580	3,208,580	3,208,580	10,231,729
七年	1,586,346	1,872,049	3,736,694	3,292,654	3,517,607	3,292,654	3,292,654	3,292,654	3,292,654	3,292,654	10,377,746
八年	1,637,415	1,999,465	4,110,831	3,517,607	3,903,238	3,517,607	3,517,607	3,517,607	3,517,607	3,517,607	11,306,605
九年	1,335,700	1,779,430	3,903,238	3,455,473	2,919,366	3,455,473	3,455,473	3,455,473	3,455,473	3,455,473	10,453,777
十年	1,261,839	1,709,733	3,508,779	3,166,387	2,919,366	3,166,387	3,166,387	3,166,387	3,166,387	3,166,387	9,647,011
十一年	1,406,149	2,111,809	3,704,950	3,033,470	2,919,366	3,033,470	3,033,470	3,033,470	3,033,470	3,033,470	10,256,378
十二年	1,369,136	2,205,378	3,756,011	3,101,422	2,584,000	3,101,422	3,101,422	3,101,422	3,101,422	3,101,422	10,434,631
十三年	1,434,136	2,403,183	4,072,777	3,209,812	2,584,000	3,209,812	3,209,812	3,209,812	3,209,812	3,209,812	11,139,604
十四年	1,473,719	2,441,427	4,330,334	3,432,847	2,678,317	3,432,847	3,432,847	3,432,847	3,432,847	3,432,847	11,678,377
昭和元年	1,409,473	2,507,173	4,552,890	3,528,382	2,700,000	3,528,382	3,528,382	3,528,382	3,528,382	3,528,382	11,700,917
二年	1,597,544	3,001,834	4,331,633	3,258,866	2,584,000	3,258,866	3,258,866	3,258,866	3,258,866	3,258,866	12,090,453
三年	1,567,730	2,833,278	4,321,291	3,218,532	2,584,000	3,218,532	3,218,532	3,218,532	3,218,532	3,218,532	11,672,410
四年	1,558,859	2,666,684	4,357,161	3,156,184	2,584,000	3,156,184	3,156,184	3,156,184	3,156,184	3,156,184	11,691,408

◎送出炭年別仕向先別表

年次	若松驛	戶畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	若松(水運)	芦屋(水運)	小倉(水運)	合計
明治十九年											
二十年											
二十一年											
二十二年											
二十三年											
二十四年											
二十五年											
二十六年											
二十七年											
二十八年											
二十九年											
三十年											
三十一年											
三十二年											
三十三年											
三十四年											

第四章 運炭 第三節 總送出高類別

明治三十四年	二、二五五、二四五	一、一三四、二八〇	一、一七六、四三四	一、〇七三、三六	二、四〇、〇三一	九、六三、〇五三	四、八、五五六	五、三、七〇七	四、七、六一、六三三
全三十五年	二、三六一、二一七	一、二四六、八三五	一、一五六、二三四	一、五三、二七六	四、六、〇三三	九、六八、六六六	四、七、三〇四	六、四、一六三	五、〇、四三、五四八
全三十六年	二、八五四、五二二	一、〇九三、二六六	一、四〇、二八六	八、六、六三七	五、七、一六八	九、〇、八八九	五、三、六二	七、五、六五	五、一、六四、六八四
全三十七年	三、三四四、三九九	九六、〇八五	一、三三、四四一	一〇九、三三三	七、一、四五六	七、七、九三二	五、〇、五六	四、三、九七七	五、三、八六、五一九
全三十八年	三、三八二、四九八	七九六、二七八	二、三三、〇五九	二〇五、六九五	六、四、六一〇	八、八、九二二	二、八、七	六、三、六四九	五、四、五七、五二八
全三十九年	三、四三三、二五三	九五〇、三八六	九九、七〇二	三九七、二七九	六、八、〇六一	一、〇、四〇、四四二	九、一、一八	三、九、七三〇	六、〇、三六、九六一
全四十年	三、九〇九、三四七	九〇四、七八八	七三、七九七	三四〇、六二八	七、三、三〇	一、二、七、六九九	二、九、六三	二、〇、七二	六、四、六三、四六三
全四十一年	四、四二二、八五二	九四四、〇四七	六二、二七八	三四三、六〇五	六、四、〇三二	一、〇、四七、七九四	二、七、一六	一、五、三三三	六、九、〇三、六三六
全四十二年	四、五七七、九六一	九九八、二二二	七、二、六〇二	三七八、九九九	七、二、二三	七、六、八〇七	一、七、六一	—	六、八、六九、六一九
全四十二年	四、六三七、一三五	九九七、三七七	八四、六七三	五二、七二九	九三、一三五	七、九、〇二六	三、三、〇七	五、四、四一	七、〇、六九、八二六
全四十四年	五、五四一、五九九	九九八、一六三	八五、九九九	四三三、三三五	一、〇、三三二	七、四、二、七五	二、〇、八二	一、四、三九八	七、九、二六、七八二
大正元年	六、二八二、一七六	一、〇四九、七八九	九一、九九九	四三六、一九五	一〇、六、三八一	六、八、七、九三	二、八、二四	一、四、七六八	八、六、七、九〇四
全二年	六、八四八、〇九八	一、〇六四、四九七	一一二、七二四	六二四、五五五	一三五、四七八	七、四、五、四二〇	一、〇、〇三	一、三、〇六八	九、五、三三、八三三
全三年	八、九三三、九九九	八九、九九九	九八、六四七	七八二、五六二	二、七、一七九	六、〇、三、三八〇	三、五、三〇	一、七、七七〇	九、四、四九、九六五
全四年	六、〇六、四四六	六〇、六四八	—	九八、三五二	七、六、七〇	二、九、四八二	二、八、五、四六五	二、三、六九	二、八、五八、一一三
全五年	六、六〇〇、〇三〇	六二、一八七、二三〇	七五、四六七	九〇〇、二八四	一三八、六五八	四、四、〇、〇三	二、八、五七	六、六、二	九、〇、三六、九二八
全六年	六、八八八、六八三	八五九、六四四	三三三、一〇一	一、二四八、四三三	一四九、〇八四	五、六、八、二五	二、一、三八	—	一〇、二、三三、七三九
全七年	六、八四九、九九九	八六九、七〇三	四四五、四六六	二八、一四五	一、二八、二、四一	一、九、九、五六四	五、九、八、九七〇	三、八、三〇	一〇、三、七、七四六

全八年	七、四八八、五四〇	九〇一、四七六	五二七、八九一	一、三六、六九九	一、四、五、一、二六六	二、二、五、六四〇	五、八、八、八九五	六、二、六、八	一、一、三、〇、六、六〇五
全九年	六、九三八、一四七	八七三、五八一	四〇一、七六七	一〇九、九六四	一、四、七、〇、八六	二、四、九、六九九	四、四、八、八二四	四、七、四九	一〇、四、五、七七七
全十年	六、六五二、八七三	六七七、八六〇	四二二、六六〇	七〇、五六八	一、二、三、三七九	二、三、七、七四八	三、八、八、六四七	四、二、八、六	九、六、四、七、〇二一
全十一年	七、一六七、四五〇	七四五、四九八	三八〇、二七二	八四、四九五	一、二、五、五四九	二、四、一、七九	四、〇、六、三、八	五、〇、六、七	一〇、二、五、六、三七八
全十二年	七、二九一、五四二	七四九、二二二	三三三、九三九	九八、〇五一	一、三、六、五、五四五	二、八、六、三三〇	二、六、五、七〇二	四、二、二〇	一〇、四、三、四、六三二
全十三年	七、九八二、七三五	七八五、〇八七	四二二、三四〇	七五、二四八	一、三、七、一、七二	三、三、三、六八七	一、八、六、三、三九	二、四、六、七	一一、一、三、九、六四
全十四年	八、五七、八七八	七〇三、七九九	五六一、八四〇	九、五、七、八	一、二、九、六、五七九	三、九、一、七七	一、三、三、一、八八	一、三、四、〇	一一、七、〇〇、九二七
昭和元年	五、五二〇、九六三	七二九、九三三	六三九、〇〇五	一一三、九〇二	一、四、四、三、六八〇	三、九、九、〇、七三	一、三、三、八、八一	一、三、三、五	一一、七、〇〇、九二七
全二年	五、六三七、九五二	七五六、三二一	六三二、七八四	九八、八三三	一、五、三、三、〇〇	三、九、三、六八六	九、七、三、三四	二、七、七	一一、〇、九〇、四三二
全三年	五、五二六、五四二	七二二、六六四	六三六、〇七〇	八二、三四五	一、五、四、〇、九八	三、九、〇、四、四五	一、八、六、三、九	二、一、九、四	一一、六、七、二、四〇〇
全四年	五、六二二、〇七二	六四〇、〇二二	五七二、五七六	七八、八二四	一、四、六、九、八七四	三、九、〇、七、三三	一、七、七、五	一、六、三、二	一一、六、九、一、四〇八

◎鐵道「其他各驛」別送出炭年別表

前表「其他各驛」數量中昭和四年に於て五百噸以上の送出先驛名を左表に示し其の過去十年間の消長を窺ふことせり。

驛名	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年
大里	四、〇三六	三、〇四九	六、〇三六	三、八七〇	五、八八三	六、〇、八〇三	五、九、七八	七、五、二、六八	六、九、三、八九	九、七、三、六二
梅田	五、一八二	六、一八〇	六、八四〇	一、三〇五	—	—	七、三〇	七、五	—	—

枝光	一二七、九四四	二四、一九九	一一三、七五五	一一三、三三三	一一三、四五四	一〇八、二五〇	八九、八六〇	七八、八九九	七四、七七八	七一、六五七
八幡	一一、六五四	二〇、九六六	四九七、四二二	六三三、〇九〇	五九三、七七八	五六八、〇二〇	五四三、八九九	四七二、三三三	四〇六、三二八	五〇三、二八二
西八幡	六五九、四六五	七三三、四三〇	一九〇、九八四	—	—	—	—	—	—	—
黒崎	二五、二七七	二五、三三〇	三三、五九三	二七、六八二	三三、〇七八	一七、〇六三	一六、四六三	一四、三三〇	一〇、九三八	一一、〇七七
折尾	二、四六五	二、〇五八	一、五二二	一、四三三	一、三〇五	七〇八	五三四	六五〇	四九二	二、八八一
遠賀川	六〇七	六八一	七二四	八七三	五七七	八八五	九六七	八二二	四三七	四一九
新延	九七七	六四三	九〇	八五	二三四	一、一六六	五八六	五八	一三	一五
室木	六六九	二二五	六〇七	一五	一三六	—	—	—	—	—
福岡	六九五	七八三	一、一四五	一、四二七	九六八	八八二	八五七	六五五	一、三三六	一、三六三
古賀	九五八	七二五	九七五	一、〇八二	九四三	一、三四〇	九八二	一、四八六	一、一四九	八九三
名島	一七、六五〇	一九、八二〇	一五、一三九	二四、四九六	二七、〇六六	八、〇三三	—	—	—	—
箱崎	一、二二七	五四三	九四三	二八〇	二六九	三八〇	—	—	—	—
吉塚	九、三三二	一七、六六三	二五、〇二二	二五、六三三	三三、四一七	三四、三六四	五二、一九六	五八、三一九	五六、三五八	三八、七〇二
博多	七、四三三	二、五六二	—	—	—	—	—	—	—	—
博多	四、九六二	六、〇五〇	七、三六五	八、一三二	六、一三七	四、六三三	三、五五六	三、四七七	七、六八二	六、七八三
南博多	六九五	四二八	一三三	三五	—	—	—	—	—	—
鳥飼	六六七	四八七	二六〇	三〇	—	—	—	—	—	—
竹下	一、二二〇	一、八四三	二、三四五	一、四三四	九四〇	一、四五一	五四九	一四六	四八	—

二日市	二、〇三三	七四八	一、〇〇七	一、二二三	六五三	一、二三五	一、五七七	一、四八六	二、七三六	三、八八八
鳥栖	一、一五五	七九五	三八九	二、八六八	四二九	二七五	一〇〇	五六	四一七	二、六九九
佐賀	一、八二七	一、五二二	一、〇四八	一、〇六三	九二〇	一、一〇三	九二〇	五六二	一、〇八二	一、〇八二
牛津	二、五七四	一、二二〇	一、四八四	一、一三四	五六三	二六三	七六	二四	二四三	五三三
武雄	一、三五四	二、三三三	二、一九九	二、五九〇	一、〇八七	一八一	三三	一八	—	—
上有田	三、三三六	三、三三八	三、八四四	四、二五三	三、二二四	三、二〇七	二、六五七	一、五九二	一、三三三	一、五八〇
有田	二、〇〇〇	一、五七九	一、二六四	一、一三三	一、〇四九	一、三三八	一、八八二	二、二九九	二、二四九	二、四六九
伊萬里	九二八	五八	五五八	三五二	一六	一五	—	九	八	—
長崎	七二五	三三一	二五	四〇	一五一	三六	八六	一九九	一一九	五六八
久留米	九、八七八	九、〇三七	八、五三二	七、七九四	五、六〇〇	六、九七三	七、七三〇	三、〇四〇	五、五四五	四、九五一
南久留米	一、四〇三	一〇	—	—	—	—	—	—	—	—
荒木	六〇四	一九九	一三三	一、四五六	七九四	六六九	一、七八五	三、一〇四	三、三四六	七九二
羽犬塚	一、八七三	四八七	一、七八〇	八六五	九四六	一、〇三一	二、六五八	一、三四二	二、〇一一	一、二四四
矢部川	六四八	二九八	三九〇	二六二	一〇九	三五九	四一五	八八	三九〇	八二六
大牟田	八二二	一一、四二八	四六、五六六	四二、九七二	四五、五二七	五五、五二七	七七、九五六	五九、四三三	一三、五〇五	二〇〇、五〇一
高瀬	九、九三九	二、三三七	五、一一七	一、九五五	二、五三六	八五六	九七二	六九二	一、二七四	一、二二四
木葉	二、九五〇	二、九六八	二、六五五	一、九一一	一、五八三	一、五三九	一、三九七	一、五四五	一、二八八	二、〇〇七
肥後豊田	六三六	九六	八〇三	一、一五四	一、二三一	一、〇〇九	一、二二三	一、三七〇	一、〇九一	九九八

第四章 運炭 第三節 總送出高類別(各縣送出炭年別)

山鹿	五九一	七二六	七五六	一、三八六	六三三	六八	八四	五、八五七	五、七六三	五、八三三
上熊本	六、〇四三	六、九九七	八、四七七	四、八七四	三、三五	三八七	五、四八七	五、八五七	五、七六三	五、八三三
立江	一、一〇三	一五三	一五九	一、四七四	三、三五	三八七	五、四八七	五、八五七	五、七六三	五、八三三
高江	八二四	一五九	一五九	一、四七四	三、三五	三八七	五、四八七	五、八五七	五、七六三	五、八三三
隈府	九三二	五四〇	一〇、四一五	一〇、五七〇	九、七八	七、七三	六、〇三八	六、八二二	六、〇五〇	一〇、五二一
熊本	一、一九九	九、六〇三	一〇、四一五	一〇、五七〇	九、七八	七、七三	六、〇三八	六、八二二	六、〇五〇	一〇、五二一
春竹	三、七五一	三、二六六	二、二〇一	二、四二二	二、七二四	三、六四	二、五五五	二、四〇六	二、〇七二	三、六六五
御船	六〇三	一、〇二八	一、〇七二	八三四	九九五	五八六	四七四	四一八	七二二	七二八
甲佐	八〇〇	九九九	一、〇七〇	七四八	七四一	四九〇	一一六	一、四一八	二、三〇二	九八五
犬飼	一、四七九	一、五七四	一、四七五	一、六三四	一、六三四	一、四五四	一、二四六	一、五六九	二、三〇二	九八五
宇土	七三三	七五七	八六九	六九五	八〇四	四二一	四一九	三七六	二八九	四一六
三川	七、八一九	六、九二二	四、三七七	九、一七〇	七、三九三	四、二二	五、九六一	四、三〇二	四、四一	二、二五七
小川	一、四一三	九六八	三三	一八二	二五九	一三六	一八五	七八	二二七	三七〇
八代	八五	四八四	五六八	五九八	八〇三	五〇八	七七六	八三九	二六四	九八三
人吉	六〇七	六六九	五七五	一、三四五	一、三七	一、三四七	八五二	六三〇	八八	二七九
重富	五五五	一三三	三八四	三七三	四二五	二二八	二八	九五	八八	二八〇
鹿兒島	六、六八六	五、四七七	一四、九八	一五、二〇一	一三、三七九	一六、七二二	二五、五三二	二四、九六八	二五、五八三	三五、五七六
加世田	四、〇七四	二、四七六	三、六四	三、四六五	二、二二二	一、三七二	一、二二五	一、二五七	二、六四九	三、一〇六

都城	二、七五二	二、〇〇三	二、七八	三、四八三	三、五三四	二、五三二	二、五七九	四、九二	二、三四一	二、七四〇
西都城	七六〇	一、一五六	一、八七四	一、七六三	一、七九四	一、七〇一	九五〇	八三	八六六	一、〇三八
大淀	三、一三三	三、〇〇〇	二、九五八	二、六四七	一、〇二八	九四四	九四三	八三	八六六	一、〇三八
宮崎	六、九一五	六、〇三三	五、八三六	五、四五六	四、七五〇	三、八六一	二、六一七	三、三三三	二、四一九	二、三三六
花ヶ島	二、六一三	二、三九六	一、二三八	一、六六一	一、五二〇	一、三七一	一、二七一	一九六	二二六	四七八
高鍋	一、四一八	一、六〇三	一、三〇〇	一、〇〇六	九一七	四五七	五三三	九一七	六六八	九七
南延岡	三、六七四	二、四六一	二、九九	一、九二四	一、四二一	一、〇九一	一九二	四一	四一	四一
延岡	一、八九五	二、一〇四	一、七〇二	一、四九七	九三三	一、二五〇	八〇	七	七	七
海崎	三、四二九	二、七六六	八、五〇五	七三五	一、三三二	二〇、五七	一五、五九八	一九、七六二	一六、八五二	二一、一七五
津久見	九、三七六	一、七四五	一、九、四四一	一、四四〇	一、二五七	一、二四二	一、六八五	一、二二六	九二	五七九
白杵	一、八九二	一、七四三	一、六五四	一、四四〇	一、二五七	一、二四二	一、六八五	一、二二六	九二	五七九
坂ノ市	九一一	七〇〇	七〇九	七四一	七四三	七八三	七九三	五八七	四六三	四七五
鶴崎	一、六三〇	一、六九五	二、〇〇三	一、六五一	一、四五三	一、二〇〇	九五七	一、三八五	一、四六〇	六三六
大分	一、八八一	一、七七五	一、六九八	一、五八二	一、三八〇	一、三三〇	一一、三〇三	一四、三四〇	一〇、八九八	一一、一六四
西大分	三、七七二	四、八七七	一〇、〇一一	九、九九三	一〇、一七〇	一一、八四三	八、六八二	一一、八四五	一一、六五〇	二〇、六九九
別府	四、六九七	四、〇三九	三、四四四	三、四二二	三、二四四	三、五二二	二、九四三	三、一三〇	一、八五六	一、五七三
日出	二、四三〇	一、七九〇	一、六三四	一、五〇五	一、四七八	一、〇八八	一、〇六七	一、〇八〇	六三二	七五七
杵築	一、二三六	一、二二六	一、四〇一	一、四四六	一、〇五一	一、三三九	九四四	五三七	三四七	三三〇

第四章 運炭 第三節 總送出高類別(各縣送出炭年別)

年次	塊炭	粉炭	切込炭	硬炭	煽石	無煙炭	骸炭	石殼	合計
明治十九年	一七五、三四	一九五、六九	—	—	三八、七六	—	—	—	三〇九、八九
全二十年	三三、六三	一三、五四	—	—	五四、六七	—	—	—	四〇〇、八二
全二十一年	三七、六九	一九、八七	—	—	八、七二	—	—	—	五五、六七
全二十二年	五七、一五	九九、〇六	—	—	四、七二	—	—	—	六六、九六
全二十三年	五二、〇三	八八、四五	—	—	四、九六	—	—	—	七八、五九
全二十四年	六五、四九	二六、八八	八四、五三	六、五七	四、四二	—	—	—	九〇、四二
國府津	一、九二	一、三〇	—	—	—	—	—	—	—
沙留	三、三九	二、七三	—	—	—	—	—	—	—
千葉	九六〇	七九八	—	—	—	—	—	—	—
甲府	五五四	四四五	—	—	—	—	—	—	—
田端	二、〇七五	一、六四四	—	—	—	—	—	—	—
大宮	二、〇三三	一、八七三	—	—	—	—	—	—	—
小山	五五五	五五	—	—	—	—	—	—	—
水戸	八九四	八五	—	—	—	—	—	—	—
宇津宮	八七〇	八五	—	—	—	—	—	—	—

◎送出炭年別炭種別表

年次	塊炭	粉炭	切込炭	硬炭	煽石	無煙炭	骸炭	石殼	合計
明治二十五年	六七、四四	三三、六九	—	—	—	—	—	—	一〇三、九七
全二十六年	六九、七〇	二七、三四	—	—	—	—	—	—	一、三四、〇七八
全二十七年	九四、三四	三三、〇四	—	—	—	—	—	—	一、七〇、八八七
全二十八年	一、〇三、五四	五八、七三七	—	—	—	—	—	—	二、三六、六六
全二十九年	一、三〇、九四	八八、三三四	—	—	—	—	—	—	二、四三、五三
全三十年	一、三九、八三	五七、五五	—	—	—	—	—	—	二、七六、三三
全三十一	一、六四、四三	六八、八七	—	—	—	—	—	—	三、四〇、七九
全三十二	一、七四、五六	七九、〇五	—	—	—	—	—	—	三、五三、三五〇
全三十三	二、一五、九八	八六、九四	—	—	—	—	—	—	四、〇八、七五四
全三十四	二、三九、八六	一、〇三、〇八	—	—	—	—	—	—	四、七六、六三三
全三十五	二、三九、九六	一、〇五、五四	—	—	—	—	—	—	五、〇四、五八
全三十六	二、〇一、〇三	一、三五、四四	—	—	—	—	—	—	五、一六、六八四
全三十七	二、〇四、七九	一、三五、五二	—	—	—	—	—	—	五、三八、五九
全三十八	一、八三、九三	一、三三、三六	—	—	—	—	—	—	五、四七、五八
全三十九	一、八五、四三	一、四三、三四	—	—	—	—	—	—	六、〇三、六六一
全四十	二、〇三、九〇	一、六四、〇六	—	—	—	—	—	—	六、四六、四六三
全四十一	二、〇六、七八	一、八〇、二八	—	—	—	—	—	—	六、九〇、三六六
全四十二	一、八三、八四	一、九八、〇九	—	—	—	—	—	—	六、八六、六一九

第四章 運炭 第三節 總送出炭類別(年別炭種別)

明治四十三年	一、九六六、六五五	二、一九〇、七〇〇	三、七二七、二九〇	三三、三九九	六六、八三三	六六、九四八	一六、七九〇	一、三二一	七〇六九、八一六
全四十四年	二、一七七、七〇〇	二、五七三、五五一	二、八九〇、七九一	六五、二一〇	二、五七四、四	七四、三四七	一八、三四五	一、一六四	七、九三六、七八一
大正元年	二、四〇三、四九九	三、〇三七、四一七	二、八七六、四五三	一六三、八四九	九五、〇一九	七八、九九七	一五、六〇二	一、三三八	八、六七一、九〇四
全二年	二、八四〇、一三一	二、九六六、〇八九	三、二八三、八〇九	三三〇、四七五	一三三、四三九	八五、三九五	一六、八三四	一、六七〇	九、五三四、八三三
全三年	二、六六三、八〇九	三、八七六、七三三	三、五三七、五五三	二〇一、七四五	八〇、五八〇	八一、九四九	一五、三〇五	二、〇〇三	九、四四九、九六五
全四年	二、二七八、五三三	二、五九一、三三三	二、八〇六、四二七	二六、〇一一	九四、二五	八〇、五三四	一三、八三五	三、三三四	八、〇三三、一三三
全五年	二、五六九、五五五	二、九五七、八九〇	三、〇三三、九五二	二五九、七二六	一〇五、二二五	九二、三四一	一八、〇五九	三、三〇一	九、〇三六、九三八
全六年	二、七二二、五二六	三、一九九、〇五八	三、七九五、八四五	三八七、三二〇	九七、五三三	八〇、七六六	一六、二二九	二、四七三	一〇、三二一、七三九
全七年	二、六三七、五二九	三、一五三、八〇五	四、〇三三、二二〇	三六五、三九三	一二二、七四	八一、三八九	一、〇六二	一、三六七	一〇、三六六、六〇五
全八年	二、八四一、〇四八	三、五八一、三〇〇	四、四七七、一〇八	三三四、六九九	九八、三六	八一、七六五	一、〇六二	一、三六八	一〇、四三三、七七七
全九年	二、八三三、六五二	三、三六四、五八	三、九八五、一九二	一三九、七三二	五五、七五六	七三、〇六七	二、五三	一、六〇八	一〇、二五六、三七八
全十年	二、七八八、三四	三、三九八、八一	三、一九三、一三九	一三〇、五二二	七二、七八七	六二、三四六	二、三三三	二、三三六	一〇、二五六、三七八
全十一年	二、九七六、五二	三、五五五、四八九	三、四八二、〇五六	九〇、三三二	一一八、七四七	六七、九〇四	七〇、〇九九	一、四四三	一〇、四三四、六三二
全十二年	三、〇八九、七九九	三、七九七、四四一	三、三三二、一一二	三三、七四三	九一、五九五	七五、八一四	一、九〇三	一、九〇三	一一、三九六、〇四
全十三年	三、一六五、九三三	四、二二三、三五五	三、五五七、二六一	三三、七四三	七五、五四二	八六、八一	一、二〇三	一、二〇三	一一、六七八、三三七
全十四年	三、二九九、〇七六	四、七四三、八八七	三、四一六、七三三	五五、七五	七五、五四二	八六、八一	一、二〇三	一、二〇三	一一、七〇〇、九一七
昭和元年	三、〇三三、七九九	五、〇三三、三三三	二、九七六、四三三	一三三、三〇〇	一三三、六五一	二九、三〇八	一、五三	一、五三	一二、七〇〇、四二二
全二十年	三、〇四三、七九六	五、〇六八、三三三	三、〇五六、七四六	九四、三四四	一三三、九六九	一三三、六四八	一、六四七	一、六四七	一二、〇九〇、四三二

全三年	二、九七三、七〇二	五、五五六、六八	二、七二六、三三	一七三、五六二	二七、〇五〇	二六、一六九	一六六	二、六七二、四一〇
全四年	二、八六三、四五七	五、八三三、一〇三	二、三九〇、四五六	三四五、一九六	一四五、四六〇	二二五、七三六	一、二六九	二、六九一、四〇八

第四節 炭鑛別送出高類別

◎炭鑛別送出炭表

鑛名	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年
大之浦	一、二二七、七三一	一、四〇〇、〇〇〇	一、二七、七九二	一、一九八、五六六	一、二四四、〇三二	一、二四三、二六	一、〇四二、〇六	九〇、五〇〇	七四九、五八九	七四二、五四四
三井田川	九三七、三五二	九〇〇、一三二	九五三、三〇五	九〇〇、一五四	九七八、二七八	八五〇、〇三三	九〇二、二三	八〇八、三八	九〇五、九四三	九四二、四八七
三井田	六三〇、五五三	六四四、六七九	六五〇、三六五	五二〇、一三四	五〇三、四六九	四四三、三三七	四一七、〇五〇	四〇九、五〇四	三九八、二九	四一七、九七〇
三井山野	五六一、八〇四	五四四、五七〇	五七二、一八七	五五九、三三五	五四〇、〇二六	四四三、三三七	四一七、〇五〇	四〇九、五〇四	三九八、二九	四一七、九七〇
飯塚	五四八、九〇一	五九一、六六七	六三三、一六七	五八九、八五〇	五四五、六五七	五三七、五九四	四五三、〇六二	四〇三、二二四	三八〇、一四〇	四〇〇、九三二
豐國	五二七、一九五	四六〇、九一七	四八九、三八一	四八五、五八九	四六六、二五二	四四九、九〇九	四〇三、六六五	三七二、〇四二	三二一、五八六	三五三、四五七
新入	四四一、二三九	四二〇、四三七	四二三、〇一五	五四一、四一八	五一九、四五二	五〇五、八三三	四三〇、一七一	三七七、〇七五	三三八、〇四四	三三三、四五五
忠隈	四二八、八七三	四二六、八八六	三七五、〇四四	三七二、二七	三七七、二七	三七七、二七	三九九、四三五	二九九、九八二	二四四、二二二	二五五、五四五
大峰	四一〇、九二四	四三九、二七六	四五五、九三九	五〇二、〇九六	五三九、六九八	五〇七、〇〇〇	四九九、三三九	五二一、九三九	三八三、〇九一	二八七、二三八
赤池	三六八、一八八	三六二、三三八	三四四、九六〇	三二四、二七	二九五、四六四	二〇七、四〇五	一五〇、六三七	一一五、九九三	一一〇、九三〇	一一二、〇〇〇
上山田	三五六、三九五	二八七、二五	二五四、四三八	二五八、九八八	二五〇、一八〇	一九九、三三一	一七八、四九九	一七九、二八三	一七八、〇六〇	一九四、〇五五
大辻	三三〇、一四二	三〇八、七八六	三三八、三三	二八八、四一四	三〇六、〇八四	二六〇、七二五	二五九、三五四	二六九、五九六	二五三、九二七	二七六、三七四

第四章 運炭

第四節

炭鑛別送出高類別(炭鑛別年別送出炭)

方城	三二、七五五	二六二、七四	二九八、五五五	三〇九、九六〇	二七五、三八〇	二七三、八〇六	二三四、三〇五	一七二、二〇二	一八二、七九	一八四、〇八一
中鶴第一	三二、七〇七	三二、五五〇	三〇七、五八九	二八四、〇七三	二九一、八二四	二八四、三二六	二〇五、八一	二二六、〇七六	二〇三、九一七	一七七、三五
芳雄	二八六、三五五	二六三、一五	二四三、五七六	二四四、六七九	二四一、五九七	二三三、〇七八	一九一、五二二	二〇九、七七九	一九七、三六〇	二二〇、二八
木屋瀨	二六三、九三二	三三〇、九七〇	二八二、九六六	二七三、九九七	三三八、〇五八	三三三、一〇六	三五七、七二〇	三五六、六四四	三〇六、一四七	一五九、三四三
明治	二三四、六四七	二五三、〇六〇	二六四、〇六九	二五三、〇四一	二六九、六四五	二五三、一二二	三三、一〇三	二三八、六七八	二三八、八二七	二四四、六四一
目尻	二二五、八五七	二四九、三三〇	三〇四、七〇一	二九一、二三五	二七〇、三九六	二五、四九九	二〇八、九五	二二一、五六四	二四八、六八六	二六三、一四〇
峰地	二二、三三三	二〇、三七七	二四八、一六〇	二二五、六五七	一七七、六七四	一七〇、二七八	一六五、八三四	三三五、〇八一	三八八、五七九	四六八、六四六
高松本	二〇〇、二八一	一五七、五二七	八五、二〇九	二二、一六七	一〇一、五七八	九五、五六	八一、五五八	六七、四七八	六〇、三五六	八四、六五三
吉隈	一七六、九七八	一五五、七二二	一四八、四三四	一三二、九九一	一〇一、五七八	九五、五六	八一、五五八	六七、四七八	六〇、三五六	八四、六五三
下山田	一六三、七六六	一五六、七九七	一五六、〇五一	一四七、五九	一三三、八〇七	一三八、〇六〇	一〇八、七七六	九四、七六五	一三八、〇九九	一三三、五八二
赤坂	一五六、八二四	一五五、五二五	一五七、七五	一四九、九七	一三八、三七八	一三七、一七五	一二、五八四	九七、二六〇	九三、八五八	八〇、七〇三
漆生	一五四、二四	一五一、〇九	一七四、〇三二	一六八、一三五	一七二、六五九	一四九、三六四	一二三、〇四八	一二八、五二〇	一二六、一九一	一二四、七六五
山田	一三二、三三〇	八三、〇三	八三、四六四	四五、八五七	二、八三三	一〇七、八六〇	五五、七〇四	三五、五六八	四、三九六	四、三九六
中鶴第二	一三六、五九九	一〇一、〇六二	一二三、三三三	一〇四、〇六八	二二、五三四	一〇七、八六〇	五五、七〇四	三五、五六八	四、三九六	四、三九六
網分	一二五、六三四	一二六、五四六	一二八、三四七	一二三、三六九	一〇三、六八三	七四、〇一〇	四三、三七	三五、九〇四	四八、五〇六	四四、六五
金丸集丸	一二四、六二五	一〇一、七四七	九七、五五二	一三五、一六二	一四三、〇六三	一七〇、四九五	一七八、八三	二六、三三八	一六四、二八三	二四八、一九九
起行小松	一〇六、八七〇	一一二、二五六	九、四八九	一三三、一〇六	一六五、九七六	一六二、八六三	一二七、九八七	八八、八〇八	六、五〇三	一四一、五八四
嘉穂	一〇〇、六四四									

大君高尾	九八、一〇四	六八、五二二	三八、六九一	九一、五四一	八一、二二	七八、四六九	八九、五三三	一〇〇、〇七三	八〇、八八三	六八、八九九
大隈	九八、二二六	一〇四、六九九	一〇八、一八二	九一、五四一	八一、二二	七八、四六九	八九、五三三	一〇〇、〇七三	八〇、八八三	六八、八九九
岩崎	九二、九九〇	一〇七、一三三	九六、五七一	八六、五三三	七五、六二六	五、五五四	六五、三〇六	八二、七四	六三、一八〇	八五、八五
海老津	八二、八七〇	一二七、三五〇	一三四、三八七	一一八、九八〇	一一四、〇五〇	一一〇、六八八	七七、五七〇	七三、六八二	六八、二八四	六六、一九〇
島廻	八〇、三九三	七四、七八	八〇、二六	八三、三七七	七七、〇八〇	六九、四七七	六二、二七一	五七、七四	五四、三六	六二、八七二
宮尾	七二、〇〇七	八二、三三	五三、五八四	三五、四七六	三七、六〇八	四六、九九七	七七、九七〇	九五、九二	九一、一七九	九五、二六六
豆田	七〇、六一九	五六、九五五	五五、〇七八	六三、一五	六三、一五	八二、六〇〇	七五、八七七	八五、七五三	一〇〇、三五九	一〇〇、三五九
御徳	六五、八七八	一五八、九九七	一六九、四八	一五四、八五一	一五、五〇七	二八、四八五	二九、八八〇	一三七、五三	六三、五二	六三、五二
深坂	五四、四六八	一一、六七								
鎮西	五〇、五八〇	五〇、〇九〇	四九、八九六	五二、八〇二	四八、八九三	四八、四四五	三四、七二	二〇、四〇一	一八、八〇一	一五、七五八
高尾	四四、四九〇	四四、〇一八	六六、七五三	六二、四八三	四六、五四	六三、七五八	一〇四、八三七	一三六、三三四	一四〇、五三三	一二七、四七七
末吉	三八、五〇一	六、六四一								
楠橋	三八、四七八	三八、四六七	三八、四二三	三一、六二六	三六、六六八	四、〇三九				
上山	三八、三八八	四三、三四四	三七、〇五六	二〇、三六五	九、九五	二、二四	二〇四	二、七〇三	一五	四七
泉水	三六、五四	二五、七八〇	三五、八九五	五九、三四五	五〇、八六八	四六、三四五	三六、八〇三	五、二四五	五二、二九六	六〇、〇四四
豊州	三五、四四五	三、一四四	二四、〇六	二七、五八	三〇、六七四	二〇、八六三	三〇、五八〇	三三、三四四	二四、三二七	三七、三五六
日之出	三三、〇一一	二七、四九八	二二、〇七八	二二、〇〇〇	三五、二三〇	三四、一五二	二九、三四七	三二、二八三	二六、六六九	二六、二六四
日吉	二九、八七八	二九、四〇二	三三、三八八	四四、七八〇	三九、九五〇	四三、三八九	二六、八三三	七三九		

第四章 運炭

第四節

炭鑛別送出高類別(炭鑛別年別送炭)

大和	三九、〇〇二	三五、〇七三	三七、一四四	二四、六〇五	一四、三二二	二二、一三五	五、九六二	八、九三三	一、八五七	二、四二二
高尾三	二九、一三六	一〇九、一〇七	一七四、七八六	一九三、一〇九	一七〇、六九九	一六六、一七九	一九五、二六一	一四三、五四六	二一六、五八八	一四三、五四七
小竹	三三、六四四	三三、三三二	三二、〇三二	一四、一八八	一四、八二八	二〇、八二四	一八、四三三	六、二七二	二、九八八	一八、八三三
旭之浦	三三、七九五	二二、八三三	三三、七三三	二四、九四七	八、七八二	一四、四〇七	五三、一六五	六、八三五	四三、七六五	六〇、四四三
香之浦	二〇、五六六	一九、三七二	二、八五四	二四、七二二	三三、八九四	二七、二七六	三三、六七三	四四、〇五四	六二、九九一	五三、三二二
本口	一八、一一二	二、六五一	二、七五四	二、七五二	二、七五二	二、七五二	二、七五二	二、七五二	二、七五二	二、七五二
本口	一六、七四五	二、七八二	二、七八二	二、七八二	二、七八二	二、七八二	二、七八二	二、七八二	二、七八二	二、七八二
香拔二	一六、五四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三
糸田	一四、四三三	三、四九八	五、五〇五	三、四四六	二七、九七八	三三、一五六	五三、〇二四	六三、九三八	四九、〇二四	五五、二四九
新田	一三、六三五	二、四九八	六、四六九	二九、九一八	二四、〇五	三五、二八五	三七、四三八	七〇、四〇六	七五、六二四	七三、三九四
新目尾	二、六九七	一九、三三〇	一九、〇七〇	二九、九一八	二四、〇五	二六、一四一	二二、七二二	二九、三六六	三三、六六六	四六、七二五
三笠	二、四二五	一四、九三〇	二六、二二五	三〇、六六七	二二、二四九	四、九四七	二二、七二二	二九、三六六	三三、六六六	四六、七二五
糸飛	二、一九五	二二、〇五八	六、七八	七、五八七	二二、二四九	七三、八六六	五三、〇二九	七三、九八七	八四、八七一	九三、三九二
中尾	二、二八六	二〇、三三八	三、四七〇	四〇、九九九	五〇、二六二	七三、八六六	五三、〇二九	七三、九八七	八四、八七一	九三、三九二
支那	二、二八一	一六、八三三	二、四六八	二四、六五八	七、二〇五	七、五二五	五、六九六	五、九六六	三、〇四	三、二
筑紫	二、〇八四	一〇、一六六	二、四二八	二四、二一八	一〇、二九七	二、二八一	二、四〇六	一九、九九一	一七、八二九	一三、六四九
安倍	九、三五五	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四	七、三〇四

庄司	九、〇五一	二二、五七六	一七、〇五九	六、〇三六	三、三八	四、五八	五、六四四	八三二	五、三二一
中御德	八、九六一	一五、一七六	二、七二二	八、九三三	二五、八二二	一三、〇二二	一九、二七三	一四、〇一五	一四、四二二
本添田	八、五三三	一八、四九五	一五、八九九	九、六五五	一〇、四七七	一七、六三三	一九、二七三	一四、〇一五	一四、四二二
宮山	六、二三〇	七、四九六	七、七三八	三、六〇〇	一、三二二	五八七	二、七二八	二、二九二	五〇二
本入	六、二三〇	三、九九八	三、六〇〇	一、三二二	二、五三	二、七二八	二、二九二	五〇二	一、四五三
大黒	五、九七〇	九、七四一	二、六三三	六、三三五	六、七六七	八、七二六	二、一五〇五	二、二六九	五、八三〇
大谷	五、四一六	五、五六七	六、七八二	六、三三五	一四、八五〇	一〇、一九三	四、一八五	二、二六九	七、七五七
豊州六	四、八三八	二、八六二	一五、一五五	二、四七〇四	一四、八五〇	一〇、一九三	二、九七六	二、三九一	二、三六八
本大城	四、八三三	七、三五七	七、六五八	二、七三七	一、二三四	一九、五五〇	二、九七六	二、三九一	二、三六八
花瀬	四、一八七	二〇、九九二	二四、二三七	二、四三六八	一八、八九九	一〇、三七八	二、三九一	二、三六八	二、三六八
白山	三、六六八	四、一二九	三、九二四	二、四三六八	一八、八九九	一〇、三七八	二、三九一	二、三六八	二、三六八
日之出二	三、二二三	一八、〇四七	一九、三三〇	二五、五三七	一一、九八八	二〇、九九八	二、三九一	二、三六八	二、三六八
大成	二、六八七	七、九七四	一七、三二五	一五、〇五五	一三、八九〇	二〇、九九八	二、三九一	二、三六八	二、三六八
勝山	二、五三〇	一、五八九	六四五	六四五	六四五	六四五	六四五	六四五	六四五
香下	二、四六三	四、三二九	四、三二九	四、三二九	四、三二九	四、三二九	四、三二九	四、三二九	四、三二九
第一寶満	一、七〇四	五、六六一	九、八三三	四、四一七	八〇四	六、八五五	二五、三五八	二七、三九一	一七、七四三
川崎	一、六三五	三〇、〇九三	七三、三七七	五、四、九六一	五八、三三九	七五、九九九	六六、〇三三	七三、七二一	八二、六一九
高橋垣生	一、五二一	二、六六九	三、三一九	八、五五二	二五、四〇五	二九、七三七	三五、四九八	三八、〇二五	三七、八〇六

第四章 運炭

第四節 炭鑛別送出高類別(炭鑛別年別送出炭)

大昇	岩崎後藤寺	伊原金谷	野田	藤本	上高雄	遠賀雜	鞍手雜	嘉穂雜	田川雜	合計
5,559	3,039	774	608	389	90	791	762	4,681	1,704	2,977
2,004	2,425	661	494	39	75	4,681	1,704	9,967	1,889	1,517
7,233	30,933	4,884	1,157	3,200	4,885	2,589	1,889	1,902	1,889	6,346
10,932	53,433	4,951	1,157	3,200	4,885	9,967	1,889	1,902	1,889	18,235
19,810	46,074	4,884	4,481	4,885	2,266	1,889	1,902	7,446	7,446	5,344
4,334	43,733	6,333	1,006	9,969	1,305	1,527	1,902	1,889	1,889	6,346
4,154	77,521	7,848	1,006	9,969	1,305	1,527	1,902	1,889	1,889	6,346
4,154	77,521	7,848	1,006	9,969	1,305	1,527	1,902	1,889	1,889	6,346

◎炭鑛別仕向先別送出炭表 (昭和四年中)

鑛名	若松驛	戸畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	計
大之浦	5,640,084	3,723,997	1,513,394	9,968	1,95	1,23,833	300	1,21,731
三井田川	5,875,555	1,93,377	97,570	53,076	10,087	27,994	—	937,351
鯉田	3,510,888	1,640,014	21,331	3,208	—	91,033	—	630,553

三井山野	飯塚	豐國	新入	忠限	大峰	赤池	上山田	大辻	方城	中鶴第一	芳雄	木屋瀬	明治	目地	峰地	高松本	吉限
266,521	175,564	265,857	181,581	293,853	97,163	169,572	204,945	185,414	161,862	193,807	127,480	201,443	144,443	126,859	47,249	21,607	—
86,355	137,509	142,455	140,131	59,877	12,739	104,272	86,360	90,722	97,151	104,291	82,903	36,759	64,645	40,003	3,437	148,252	3,588
40,559	57,580	10,525	253	14,141	40,641	27,440	9,809	4,189	14,352	4,915	4,075	3,858	3,574	3,033	1,967	105	7,873
35,211	4,800	4,280	23	148	17,739	—	11,933	10,359	260	5,602	1,100	2,894	1,5	10,396	8,280	2,527	9,433
415	—	210	—	—	2,900	75	—	—	—	—	2,933	—	—	2,493	175	—	—
100,779	60,069	93,998	10,834	58,504	74,073	26,123	39,380	48,140	9,722	33,394	18,762	2,666	18,035	43,907	1,907	14,527	—
31,964	113,379	8,335	2,190	12,661	—	—	—	—	—	36,551	—	—	—	25,834	67	—	—
561,804	548,901	517,195	442,139	410,914	368,188	356,395	330,142	331,775	327,07	286,355	263,932	234,647	235,857	211,333	200,281	176,978	—

第四章 運炭 第四節 炭鑛別總送出高類別(炭鑛別仕向先別送出炭)

101

下山田	二〇、一〇八	三五、六三三	六三二	五、一四四	一六〇	一四、八六五	七六	一六三、七六六
赤坂	二〇、六三三	一九、三三六	八〇九六	三、六二三	一三、一〇三	一三、一〇三	一九、〇〇一	一五九、八二四
漆生	七〇、〇四一	四六、二二九	六、二九五	一八九	三、九八七	三、九八七	一〇、六八七	一三三、三三〇
山田	四三、三三六	五八、九四三	四	四五九	九、六八七	二、四一三	一〇、六八七	一三六、二五九
中鶴第二	四四、五七三	六九、九九三	四	九、二三七	二、四一三	六、〇七八	一〇、六八七	一三五、六四四
網分	九三、八七四	二六、〇二九	三五三	七五	六、〇七八	五、四	五、五二九	一三四、六五
金丸集丸	五七、二五七	五三、七五八	八、三五七	一九〇	二、七五	二、七五	三、八八七	一〇〇、六四四
起行小松	八三、六〇三	二、四九二	一	二、六七六	二、九八三	一、三七一	一〇、三三〇	九八、二二六
嘉穂	四三、一九四	三三、六六〇	六、八三一	一六、二八四	二、九八三	一、三七一	一〇、三三〇	九八、二二六
大君高尾	六、四三三	七三、三四〇	一、〇三六	六〇	八、三七三	一、三七一	一〇、三三〇	九八、二二六
大隈	六〇、九二四	三、四八四	一、〇三六	五、九三八	二、九八三	一、三七一	一〇、三三〇	九八、二二六
岩崎	五七、〇四三	一一、三三八	一、〇三六	四、四六六	二、九八三	一、三七一	一〇、三三〇	九八、二二六
海老津	五、三八一	一七、五九三	四〇、一七	二、五	三〇、五七三	三〇、五七三	二〇、五五八	八二、八七〇
島廻	八、六二三	一七、二九一	五三〇	一、〇〇	五、〇三七	五、〇三七	一〇、三三〇	七、〇〇七
宮尾	二、四二一	二、五三一	一一、二九五	四九、六七八	五、〇三七	七、〇八四	一〇、三五五	七〇、六二九
豆田	三三、〇七四	二九、三三六	八〇	四、五	七、〇八四	一三、三五二	一〇、三五五	六五、八七八
柳德	四七、〇三五	四、二九	六五	一四八	一、四八	一三、三五二	一〇、三五五	六五、八七八
深坂	二四、九七	一、八六〇	六五	二、五八五	六、四六一	六、四六一	一八、〇〇〇	五四、四六八

一〇二

鎮西	一五、〇八七	九、四〇三	七七六	三三八	四、九七〇	二二九	一九、九七七	五〇、五八〇
高尾	四、三八九	三三、一五三	一	七、五二二	一	四四六	一	四四、四九〇
末吉	二、八二〇	一三、〇七七	四四	一九八	一	一、〇二五	二、三三七	三八、五〇一
柿橋	二六、四八九	六、〇五四	三〇	三、八三三	一	二、〇九二	一	三八、四七八
上山	二、五六一	二〇、六四四	五九	二、五九九	一	二、四七九	四	三八、三八八
泉水	一八、五三三	一一、五〇八	八六七	一〇〇	一	五、五二七	一	三六、五二四
豊州	三、二二九	一〇、二七五	一八九	七九八	一	六、五三一	二、九四二	三五、四四五
日之出	一五、一〇〇	九、三五四	一八九	一〇〇	一	一、五	一五	三三、〇一一
日和吉	四、三六九	四、八〇七	六五	三、七八	三、八四〇	一三、六一九	一	二九、八七八
大和	九、七九六	一八、八六三	一	一	一	八四三	一	二九、五〇二
高尾三	二、三七四	六、六四八	三〇	一四、四二一	一、〇九五	四、五七八	一	二九、一三六
小尾竹	五、七五〇	一、四八一	二、七九五	五五	三〇五	五、二六二	七、九九六	一三、六四四
旭浦	二、八二七	六、五三七	一	三九一	一	三、〇四八	一	二二、七九三
香之浦	五、〇三二	六、二二八	一	三、五五二	一	五、八九五	一	二〇、五八六
樋口	一四、五九九	三、〇〇一	一五	一三五	一	三六一	一	一八、一二二
本緑	一三、四二三	三、九七三	一	一五	一	三四四	一	一六、七四五
香拔二	四、二二一	三、九三三	二、四六一	三五三	一	五、六八五	一	一六、五四二
糸田	六、五八一	六、〇六八	一四五	一五	三〇	一、五九九	一五	四、四五三

第四章 運炭

第四節 炭鑛別送出炭高類別(炭鑛別年別送出炭)

一〇三

礦名	塊炭	粉炭	切込炭	硬炭	燧石	無煙炭	計
第一上目尾	15				13		187
朝倉					104		184
見立					9		30
吉原					15		15
榎田					164		164
遠賀雜					15		5767
鞍手雜					2907		26279
嘉德雜					125		38179
田川雜					1633		22692
合計	56373	60023	75276	78344	147155	390783	1126924

◎炭鑛別炭種別表

(昭和四年中)

礦名	塊炭	粉炭	切込炭	硬炭	燧石	無煙炭	計
豐國	19930	30465	13333	2806			57795
新入	26844	24355	16915				44214
忠限	14355	28457					42812
大峯	7442	19031	5252	8170			41094
赤池	13006	19925	36997				36818
上山田	6302	17794	2265	134			35639
大辻	12704	18134	1289	2045			33042
方城	12300	15813	3913	1261			33275
中鶴第一	17488	10764	35085				37767
芳雄	12461	9430	16025	1549			28635
木屋瀨	4787	5645	1617	158			2633
明治	5649	1562	357				33467
目尾	4807	1499	2125	493			33587
峯地	1107	7549	736	4702			21333
高松本	10625	9830	1005	232			20021
吉隈		2410		2883			16978
下山田	4883	939	2781				16766
赤坂	3053	9059	2849	373			15684

第五章 運炭 第四節 炭鑛別送出高類別(炭鑛別炭種別)

六月	二九,四一〇	三九,四三〇	二五,九〇四	一六,〇九五	三〇,三三五	三〇,八二一	三三,四九九	一〇七,三六一	七七,九三二
七月	二八,七五〇	三九,四三〇	二二,七五九	一五,〇五七	三〇,三三七	三九,五五九	一九,四四〇	八二,三二六	九四,八三八
八月	二六,〇六五	四〇,七七九	一六,一八八	一三,九三〇	四一,七四五	四一,一八七	二五,六八三	六〇,一六一	一〇一,一八四
九月	二八,七二二	四三,二四一	一七,八三三	一五,八三三	三五,六三八	四八,四七三	二八,〇六九	三二,一五二	六四,六七三
十月	三〇,二七六	四二,九四七	一八,〇四六	一八,七〇三	三三,八〇九	四八,〇八七	二四,三九八	三〇,八四一	五七,三三五
十一月	三九,一八四	三五,〇二一	二八,三四四	一七,一九二	二八,五〇一	三九,四六八	二四,四二〇	三六,三七九	三七,六四四
十二月	三八,三二〇	二五,八八三	三九,九三〇	一四,五二六	二五,六八六	四〇,一四八	二二,〇八三	二八,六四三	三三,七七九

◎山元月末貯炭年別表

一月	四三,四〇〇	二二,一〇〇	三二,一四〇	三八,六〇〇	三〇,一九〇	四三,八四二	三五,四五六	二六,六八九	三〇,四三九〇
二月	三九,一〇〇	三三,七七五	二二,〇〇〇	三三,四〇〇	三〇,一九〇	三八,五〇四	三五,二五四	二二,四八三	二九,〇七九〇
三月	三五,四〇〇	二五,〇九五〇	一六,〇〇〇	二九,一〇〇	二九,三七八〇	三六,四〇〇	二八,七二六	一九,一六三	二九,四三〇
四月	三三,一五〇	二五,八七〇	一三,四九〇	二九,〇〇〇	二九,七五〇	三三,八〇〇	二六,二八九	一九,四七八	二七,〇三三
五月	三三,二五〇	二九,六二五〇	一四,五五〇	二九,五三〇	二四,七一一〇	二六,九二〇	一九,四九一	一八,九三三	二六,六三〇
六月	三四,七〇〇	三三,三〇〇	一五,五二〇	二〇,九七五〇	二八,八九五〇	二五,五四〇	一七八,八八八	一七八,〇五三	二六,八八〇
七月	三六,一〇〇	三三,七八〇	一六,五二〇	二〇,六〇〇	二五,九〇五〇	二八,三〇〇	一八七,九三八	一五九,一四九	二八,九〇〇

八月	三四,〇二五〇	三四,二〇〇	一六,二〇五〇	二二,〇六〇	二八,九七五〇	二八,一五〇	一九二,〇四一	一四六,七三五	二七,四一三〇
九月	三五,二〇〇	三五,七六四	一五,七三〇	一九,五四〇	三〇,〇六〇	二四,一七五	一六〇,七五〇	一三三,四四八	二九,九四四
十月	三〇,〇五〇	三九,七五〇	一五,八一五〇	一九,六七〇	三〇,九六五	二〇,二五〇	一七三,八九九	一一五,七七二	二二,八三〇
十一月	二八,八六〇	四二,一五〇	一六,九〇〇	二〇,八三〇	三三,七〇五	二四,六六〇	二二九,五七七	一四四,三〇七	二〇,九六〇
十二月	二八,〇六〇	四二,一七五〇	一九,〇二五〇	二六,〇三〇	三六,四三三	三三,八四〇	三三四,二八九	二二二,三三九	二二,九五五

◎若松、門司兩港頭及山元月末貯炭年別表

一月	六四二,六九九	四二七,四六〇	四三四,七二九	八五七,七二五	五二四,九五四	六三九,八六	四六二,〇三	四三七,七九三	八三五,六〇〇
二月	五八四,八八四	四九四,九三二	三〇九,九〇九	七三四,〇九五	五五八,四三五	六二六,八九一	四二,四七五	三三二,三〇一	八三,五二二
三月	五八四,六七六	五五〇,八七四	二五九,八七〇	六七四,五七五	五六九,七〇八	五三三,二六三	三八三,二六三	二九一,九三九	八五四,五六三
四月	六〇七,五六七	五七五,二二三	二二九,一七〇	六九三,三六五	五五五,四七二	五四三,〇七一	三七九,五八九	二二六,七六八	八二〇,五五七
五月	六七八,五三三	六三六,三〇一	二四三,〇四九	六九一,八三七	五二〇,〇六八	五七〇,五八六	三八五,六四九	二六二,五五〇	七九二,八七九
六月	七三六,八四三	七〇六,四〇六	二九二,五七一	五五八,七三九	五七四,三七二	五五九,七四六	三六三,六二九	二五九,四四四	七三九,一五六
七月	七四四,二五三	七九四,四四八	三三三,七四九	五八八,二七三	五七四,三三二	五九三,三六三	三六七,七一四	二五六,一三二	七三九,一五六
八月	七四七,七六二	八二一,八九八	三七八,五七四	五〇八,九九三	七八五,六七七	六〇三,一〇三	三七二,八四六	二五二,九五二	六〇一,五九七
九月	七〇八,五七九	八三二,〇六六	二七四,一三八	四六五,〇〇八	八三二,九四八	六三六,九六〇	三五八,五七七	二二九,〇七八	五三三,六一

第六章貯炭、船積設備及手數料、船舶運賃 第一節貯炭 (若松、門司兩港頭及山元貯炭年別表) 一一五

十月	六四、九四〇	八〇、三九九	二七八、四二〇	四三、七七七	七六、九三六	五四、四六五	四〇、一八六	三三、一六五	四八四、七七八	七九四、五八一
十一月	六九、九七七	七三、七三一	三三〇、一九九	三七、四八七	七五、五五六	五七、〇三九	四三、六八〇	二六、〇九五	四三八、六六五	七五四、〇三八
十二月	六二、八二二	六七、〇八六	三八九、二五六	三九、六六七	八三、七〇八	五九、四八一	五六、九〇五	三四、八三三	三八三、七九九	七九一、〇二七

第二節 貯炭場の面積及使用料

○若松之部 (昭和五年四月末現在)

貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)	貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)
牧山	一、四二四	自用	門司之部	一三五、八二四	
葛島	一〇、八六二	自用	葛葉	一一、八二九	自一、二二錢
新川	一七、八七〇	自一、八錢	外濱	一八六	自一、八錢
築港濱	一、四七〇	自用	江ノ浦(彦島)	一、一三一	自一、一三錢
二島	五、〇〇〇	自用	弟子待(彦島)	二、〇八八	自一、〇八錢
中島	二、四〇七	自用	計	一五、二三四	
新棧橋	二五、八〇一	自一、二二錢	東小倉之部		
藤木	七〇、〇〇〇	自八、五錢	棧橋	八、八五〇	自二、〇〇錢
舊棧橋	九九〇	至一、六錢	地平線	一、五九四	至二、五錢
		二五錢	計	一〇、四四四	一二錢

第三節 船積設備及手数料

○若松港

若松驛に「ホイスト」と「クレーン」を各一基、戸畑驛に「プラットフォーム」三基の設備があるが、前者は岸壁先水深の關係で、三百噸以上の汽船荷役は困難なため和船荷役ばかりを取扱ひ、後者は専ら汽船三百噸以上の大形帆船の荷役に充當されてゐる。各機的作用は石炭を炭車から一旦機械附屬の「バケット」に收容し、積込船の船艙口上に至り「バケット」の底を開き石炭を落下するもの、又は炭車の吊上げ、炭車の底を開いて漏斗を通して船積するもの等の別があるが、各機一日の荷役能力は三千噸乃至四千噸である。尤も戸畑の「ホイスト」積は繫船岸壁の關係上汽船積引受能力は一日八千噸を限度としてゐたのであるが、近時本機を使用して汽船積を爲す數量が逐年累増の傾向にあるので、豫て繫船岸壁延長工事施行中の處本年二月完成した結果(在來の八百尺岸壁は一千尺となりたり)三千噸級船迄は同時三艘の繫船荷役可能となつたので、三月一日から一日一萬噸迄の汽船積引受を實施した。尙本機を使用して汽船積をするものに對しては、一定の料金を戸畑驛構内に到着した石炭を貨車積の儘留置する所謂車上貯炭を認め、尙必要に應じて山元から列車を指定して輸送する優先輸送の制度を設け、海陸連絡費の軽減に資してゐる。又日常荷役量の最も多い和船積の、約七割を占むるは若松驛に於ける藤の木棧橋であつて、此の棧橋は岸壁に併行し延長二千二百三十五呎高さ十九呎一時あり、棧橋に裝置したる漏斗を経て炭車から和船に直積みするものであるが、作業の容易と能力の點に於て和船荷役としては「ホイスト」「クレーン」等の機械力に比して遙に優つてゐる。其の一日の作業能力は一萬五千噸に達して居る。其の他若松驛には貯炭場に地平線の引込みがあり、又戸畑驛には新川貯炭場に延長千八百呎、高さ十四呎の貯炭棧橋の設けがある。尙貝島商業會社では戸畑沿岸に自社専用の炭積機を設けて居る。

以上は陸積設備なるが、沖積を爲す場合は三井、三菱兩社の沖積用積込機に依る外他は貨物炭はウインチ捲、燃料は仲仕の手を以て船積するを例とせり。

○若松港に於ける一噸當り諸手数料左の如し。但し特約あるものは例外なり。 金拾五錢
 若松、戸畑兩驛着後（着驛後六時間を経過せしもの限り、）一噸に付
 貨車留置料（毎十二時間又は其の未滿毎に科する金額）

◎解船運賃表

區別	單位	貨金	日待	滞船料	金
自若松	一噸に付	六五〇	〔着船二日用拾三日目より五日目迄金六錢五厘六日目より金七錢八日目より八錢〕	但し門司行は積掛三日用拾積切迄港内日待を支拂ふ	
自若松	汽船燃料一噸に付	五七〇			
自若松	石炭一噸に付	五四〇			
至小倉	全	二六〇	〔日待積掛三日用拾四日目より六日目迄金三錢七厘七日目より金五錢五厘九日目より金六錢十五日目より金七錢〕		
至延命寺	全	二八〇			
至若松	全	三四〇			
自若松	全	三九〇			
自若松	全	三七〇			
自若松	全	〇六五	日待二日用拾三日目より金九厘八日目より金壹錢壹厘		
自若松	全	〇三二	日待二日用拾積掛三日目より金五厘八日目より金八厘		

（備考）
 一、荷主の都合による端數には「下ダノ」を支拂ふ事
 二、特約あるもの本表に依る限にあらす

◎仲仕賃金最高標準表

作業別	單位	現行賃金	新機橋下、陸上、下、替	單位	現行賃金
汽船荷物搬込貨（穴繰貨共）	一噸	四二九		一噸	二五一
汽船荷物搬込貨（全）	全	四八四		全	二二二
汽船燃料積込貨（全）	全	五五九		全	〇八五
解より解又は帆船瀬取貨	全	二六五	檢量	全	〇九五
雇日役	一人	一、六二〇	貯炭場より汽船直下（穴繰貨共）	全	三四〇
解陸上貨	一噸	二二七	繰替	全	一九二
解陸下貨	全	一九〇	機橋より汽船積穴繰貨	全	〇四三

第六章貯炭、船積設備及手数料、船舶運賃、第三節船積設備及手数料（仲仕賃金最高標準）二九

作業別	単位	現行賃金	作業別	単位	現行賃金
新橋西部	壹噸	〇三一	川解陸上	壹噸	一九四
全中部	全	〇三一	コルクス	噸積込百斤入	一俵
全東部	全	〇三一	吹作り	百斤入	全
新線クレーン	全	〇三一			〇三二
戸畑橋	全	〇三三			

- (備考)
- 一、汽船荷物夜業燃料夜業燃料片サイド持越は各當該賃金の四割増とす
 - 二、陸仲仕夜業は各當該賃金の三割増とす
 - 三、貯炭場は廿五間を以て一層とす
 - 四、塊粉篩分賃は解陸上貨解陸下貨の合計に金三錢を加ふるものとす
 - 五、補助機附の帆船積込賃(穴繰賃共)は汽船積込積より二割五分引きの事
 - 六、鐵道省より指定されたる橋荷卸場所着炭噸数が一ヶ月四萬噸に充たざる場合は特に賃金の割増を要する事
 - 七、特約あるものは本表に依る限に非ず

◎門司港

門司港の荷役設備としては、現在門司驛に堤附式高架橋延長千八百八十呎(外に假設六〇〇呎がある。此の高架橋は將來二千七百呎に延長することになつてゐる)の設けがあるが、之は貯炭場卸を目的とするもので、汽船積取りは貯炭場から更に解を介して沖荷役をするのである。而して貯炭場内の繰替及解積用として豫て門鐵局に於て建設中であつた炭積機「アリツチ、トランスポーター」二基は昭和四年十二月竣成せるが其の成績良好で、一基一時間百三十噸の能力を發揮して居る。尙此の外日本郵船會社に於ても自社専用の炭積機を設けて居る。(貨車停滯料若松に全じ)

◎門司港石炭解船賃金最高標準表

(大正十年三月十一日より實施)

作業別	単位	賃金	作業別	単位	賃金
港内解運賃	壹屯	二九七	船料	壹屯	〇五〇
但滞船料は二日用捨(荷役不能の日を除く)三日目より一日に付					

◎門司港石炭仲仕賃金最高標準表

(大正十三年七月十一日より實施)

作業別	単位	賃金	作業別	単位	賃金	
陸上	壹屯	四〇九	替	全	二七六	
陸下	全	三二一	撰	全	五一〇	
全夜業	全	三割増	撰	百斤	一五六	
高架橋橋除	全	二五四	作	百斤入一呎に付	〇五二	
汽車卸	全	三五五	作	八十斤入一呎に付	七二四	
解瀨取	全	三九五	本船燃料積	壹屯	七二四	
但し水面より「テツキ」迄二十四呎以上の船舶にして積込みに依り全呎迄降下する迄は船舶の高低及荷役の難易に依り壹割乃至四割の増賃を支拂ふ事あるべし						
荷物賃々使用積	壹屯	七二四	全無賃々積	全	六五二	
但し水面より「テツキ」迄二十四呎以上の船舶に一少量の積荷をなす場合は便宜増賃を支拂ふ事あるべし						
全夜業	壹屯	五割増	穴	綠	壹時間	一七七

第六章貯炭、船積設備及手数料、船舶運賃 第三節船積設備及手数料(門司港解船及仲仕賃標準表)二二

第四節 帆船運賃 (若松港—各地間)

仕向地	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
東京府東京									5.00	5.50
愛知縣伊勢灣									3.75	4.15
三重縣鳥羽									3.60	4.05
和歌山縣勝浦									4.10	4.55
和歌山縣御坊									2.80	3.15
和歌山縣和歌山									2.80	3.15
大阪府岸和田	2.70	3.45	2.70	3.65	2.70	3.60	2.80	3.55	2.80	3.70
大阪府堺	2.70	3.45	2.70	3.65	2.70	3.60	2.80	3.55	2.80	3.70
大阪府大坂	2.50	3.35	2.50	3.55	2.50	3.45	2.60	3.50	2.45	3.40
尼崎	2.20	3.15	2.20	3.35	2.20	3.30	2.30	3.40	2.25	3.35
西宮	2.20	3.15	2.20	3.35	2.20	3.30	2.30	3.40	2.25	3.35
神戸	2.20	3.15	2.20	3.35	2.20	3.30	2.30	3.40	2.25	3.35
明石	2.20	3.15	2.20	3.35	2.20	3.30	2.30	3.40	2.25	3.35
兵庫縣二見	2.20	3.15	2.20	3.35	2.20	3.30	2.30	3.40	2.25	3.35

仕向地	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
高砂	1.95	2.90	1.95	2.90	2.00	3.05	2.00	2.95	1.90	2.95
飾磨	1.95	2.90	1.95	2.90	2.00	3.05	2.00	2.95	1.90	2.95
網干	1.95	2.90	1.95	2.90	2.00	3.05	2.00	2.95	1.90	2.95
赤穂	2.05	3.00	2.05	3.00	2.10	3.15	2.10	3.10	2.00	3.05
洲本	2.15	3.10	2.15	3.10	2.20	3.25	2.20	3.20	2.10	3.15
由良	2.30	3.25	2.30	3.25	2.35	3.40	2.35	3.35	2.25	3.30
片上	1.95	2.90	1.95	2.90	2.00	3.05	2.00	2.95	1.90	2.95
西大寺	2.00	2.95	2.00	2.95	2.05	3.00	2.05	2.90	1.95	2.90
岡野	2.00	2.95	2.00	2.95	2.05	3.00	2.05	2.90	1.95	2.90
宇野	1.95	2.90	1.95	2.90	2.00	3.05	2.00	2.95	1.90	2.95
日比	1.95	2.90	1.95	2.90	2.00	3.05	2.00	2.95	1.90	2.95
味野	1.85	2.80	1.85	2.80	1.85	2.85	1.85	2.80	1.75	2.80
下津	1.85	2.80	1.85	2.80	1.85	2.85	1.85	2.80	1.75	2.80
玉島	1.85	2.80	1.85	2.80	1.85	2.85	1.85	2.80	1.75	2.80
笠岡	1.75	2.70	1.75	2.70	1.75	2.80	1.75	2.75	1.65	2.75
福山	1.80	2.75	1.80	2.75	1.80	2.80	1.80	2.75	1.70	2.75
尾道	1.60	2.55	1.60	2.55	1.60	2.60	1.60	2.55	1.50	2.55
糸崎	1.50	2.45	1.50	2.45	1.50	2.50	1.50	2.45	1.40	2.45

第六章貯炭、船積設備及手數料、船舶運賃 第四節帆船運賃(帆船運賃)

第六章貯炭、船積設備及手數料、船舶運賃 第四節船舶運賃(帆船運賃)

一二五

宮崎縣	大分縣	高知縣	德島縣	香川縣	愛媛縣	長津濱	三津濱	高濱	今治	壬生川	西條	新居濱	川之江	坂出	高松	撫養	小松島	德島	高知	日出	佐賀關	津久見	宮崎縣
三、一五	一、五五	三、〇五	二、一〇	一、八〇	一、九〇	一、四〇	一、五五	一、五〇	一、五〇	一、九〇	一、九〇	一、七五	一、七五	一、九五	一、八〇	一、九五	二、一〇	二、一五	三、〇五	一、五五	一、五五	三、一五	
三、九五	二、三〇	三、八〇	三、一五	二、七五	二、七〇	二、三〇	二、三〇	二、二五	二、二五	二、七〇	二、七〇	二、五五	二、六〇	二、八五	二、七五	二、九〇	三、〇〇	三、一五	三、八〇	二、三〇	二、三〇	三、九五	
三、一五	一、七〇	二、九〇	二、一五	一、七〇	一、八五	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、八五	一、八五	一、六五	一、七五	一、八五	一、七〇	一、九五	二、〇〇	二、一五	二、九〇	一、六五	一、六五	三、一五	
三、九五	二、五〇	四、〇〇	三、二五	二、七五	二、八〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、八〇	二、八〇	二、六五	二、七五	二、九〇	二、七五	二、九〇	三、〇〇	三、一五	三、九〇	二、四〇	二、四〇	三、九五	
三、二〇	一、七〇	三、一〇	二、三五	一、八五	一、八五	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、八五	一、八五	一、七五	一、八五	一、九五	一、八五	二、〇〇	二、一〇	二、二五	三、二〇	一、六〇	一、六〇	三、二〇	
四、一〇	二、七五	三、九五	三、三〇	二、八五	二、九〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、九〇	二、九〇	二、八〇	二、九〇	三、〇〇	二、八五	三、一五	三、二〇	三、三五	四、一〇	二、七〇	二、七〇	四、一〇	
三、五〇	一、八五	三、〇〇	二、三五	一、九〇	一、八五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、九〇	一、八五	二、一五	二、二〇	二、三五	三、五〇	一、八〇	一、八〇	三、五〇	
三、九〇	二、三〇	三、八五	三、二五	二、九〇	二、八五	二、三五	二、三五	二、三五	二、三五	二、八五	二、八五	二、九〇	二、九〇	三、〇〇	二、九〇	三、一〇	三、一五	三、三五	四、一五	二、一〇	二、一〇	三、九〇	
三、一〇	一、六〇	一、四五	二、三五	一、八五	一、七五	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、六〇	一、六〇	一、七〇	一、七〇	一、八五	一、八五	二、一五	二、二〇	二、三五	三、三〇	一、四五	一、四五	三、一〇	
三、七五	二、二〇	四、一五	三、〇〇	二、九〇	二、七〇	二、一五	二、一五	二、一五	二、一五	二、七〇	二、七〇	二、五五	二、五五	二、七〇	二、七〇	二、八〇	二、八五	三、〇〇	四、一五	二、〇〇	二、〇〇	三、七五	

新潟縣	富山縣	石川縣	福井縣	京都府	鳥取縣	島根縣	山口縣	阿賀原	吳品	宇品	岩國	徳山	三田尻	萩	濱田	松江	境	舞鶴	敦賀	七尾	伏木	新湊	宇和島	八幡濱	
一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、五〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五
二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、五〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五
一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、六〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五
二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、六五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇
一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、七五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇
二、八五	二、八五	二、八五	二、八五	二、八五	二、八五	二、八五	二、八五	二、七五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇
二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、九〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五	一、九五
二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、七〇	二、六〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五	二、六五
一、七五	一、七五	一、七五	一、七五	一、七五	一、七五	一、七五	一、七五	一、六五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇
二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、四〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五	二、四五

一二四

鹿兒島縣 鹿兒島
長崎縣 長崎
朝鮮 釜山
木浦 鎮南浦

◎汽船運賃

仕向地
神奈川縣 橫濱
靜岡縣 清水 江尻
愛知縣 蒲郡 伊勢灣
大阪府 大坂
兵庫縣 神戶
鳥取縣 境
京都府 舞鶴

仕向地	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
鹿兒島縣 鹿兒島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎縣 長崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
朝鮮 釜山	二、一五	三、〇五	二、三〇	三、一五	二、四〇	三、二五	二、四〇	三、二五	二、三〇	三、一五
木浦	三、三五	四、二五	三、五〇	四、二〇	三、八五	四、五五	三、九五	四、六五	三、九〇	四、六〇
鎮南浦	二、三五	三、三五	二、五〇	三、三五	二、六〇	三、四〇	二、四五	三、二〇	二、四五	三、二〇
神奈川縣 橫濱	一、八五	一、九〇	一、一〇	二、〇〇	一、七五	二、一五	一、〇〇	一、八〇	一、二〇	二、〇〇
靜岡縣 清水	一、一五	二、二〇	一、三〇	二、三〇	一、五〇	二、五〇	一、三〇	二、二〇	一、二五	二、二〇
江尻	一、一五	二、二〇	一、三〇	二、三〇	一、五〇	二、五〇	一、三〇	二、二〇	一、二五	二、二〇
愛知縣 蒲郡	一、一〇	二、二〇	一、三〇	二、三〇	一、五〇	二、五〇	一、三〇	二、二〇	一、二五	二、二〇
伊勢灣	〇、八五	一、九〇	一、〇〇	二、〇〇	一、一五	二、一五	一、〇〇	一、八五	一、〇五	二、〇〇
大阪府 大坂	一、〇〇	一、三五	一、〇〇	一、三五	〇、九〇	一、四〇	一、〇〇	一、四〇	一、〇〇	一、四〇
兵庫縣 神戶	一、〇〇	一、三五	一、〇〇	一、三五	〇、九〇	一、四〇	一、〇〇	一、四〇	一、〇〇	一、四〇
鳥取縣 境	一、二〇	一、七五	一、四〇	一、九〇	一、六〇	二、一〇	一、五〇	二、〇〇	一、五五	二、〇〇
京都府 舞鶴	一、三〇	一、七五	一、五〇	二、〇〇	一、七〇	二、二〇	一、六〇	二、一〇	一、六五	二、一〇

仕向地	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
福井縣 敦賀	一、三〇	一、七五	一、四五	一、七〇	一、三〇	一、八〇	一、五〇	二、〇〇	一、五五	二、三〇
石川縣 七尾	一、三〇	一、九五	一、五五	一、九〇	一、四〇	二、〇〇	一、六五	二、二〇	一、六〇	二、五〇
富山縣 伏木	一、三〇	一、九五	一、五五	一、九〇	一、四〇	二、〇〇	一、六五	二、二〇	一、六〇	二、五〇
新潟縣 直江津	一、三〇	二、〇〇	一、七五	二、三〇	一、八〇	二、四〇	一、七〇	二、三〇	一、七〇	二、三〇
釜山	〇、九〇	一、〇五	〇、九〇	一、〇五	〇、九〇	一、〇五	〇、九〇	一、〇五	〇、九〇	一、〇五
仁川	一、一五	一、四〇	一、一五	一、四〇	一、一〇	一、四〇	一、一〇	一、四〇	一、一〇	一、四〇
木浦	一、四〇	一、七〇	一、四五	一、七五	一、四〇	一、七〇	一、四〇	一、七〇	一、四〇	一、七〇
鎮南浦	一、四〇	一、八〇	一、四五	一、八五	一、四〇	一、八〇	一、四〇	一、八〇	一、四〇	一、八〇
元山	一、六〇	二、二〇	一、八五	二、四〇	一、七〇	二、三〇	一、六〇	二、二〇	一、六〇	二、二〇
上海	〇、九〇	二、〇〇	一、三〇	二、四〇	一、〇〇	二、一〇	一、一〇	二、二〇	一、一〇	二、二〇
廣東	二、一〇	四、五〇	三、一〇	五、五〇	二、三〇	四、七〇	二、四〇	五、〇〇	二、三〇	四、七〇
蕪湖	〇、九〇	二、〇〇	一、三〇	二、四〇	一、〇〇	二、一〇	一、一〇	二、二〇	一、一〇	二、二〇
漢口	二、八〇	三、六〇	三、三〇	四、一〇	二、九〇	三、七〇	二、九〇	三、七〇	二、九〇	三、七〇
青島	一、三〇	二、三〇	一、四〇	二、四〇	一、三〇	二、三〇	一、三〇	二、三〇	一、三〇	二、三〇
香港	一、七〇	三、〇〇	二、三〇	三、六〇	一、九〇	三、二〇	一、六〇	二、九〇	一、六〇	二、九〇
新嘉坡(英)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新嘉坡(米)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬尼刺(米)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
海峽殖民地	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
比律賓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第六章貯炭、船積設備及手數料、船舶運賃 第四節船舶運賃(汽船運賃)

第七章 内外仕向高

筑豊炭の需用地を便宜上内外二途に區別す。尤も需要地に對する仕向高の外若松門司兩港に於て内外汽船燃料として直接供給せしものは其汽船の所屬により之を内外に分ち前記仕向先に合計し以て内外別の需要總高を見るの便に供すること、せり

第一節 内地輸送高

(一) 若松、門司、小倉、宇島四港より海路内國各地に輸送せしもの (二) 各坑より鐵道により直に各驛(若松、門司、小倉、宇島を除く)に送出せしもの (三) 水運によりて蘆屋及小倉に送出せしもの (四) 鐵道の燃料として供給せしもの (五) 若松、門司兩港に於て内國汽船燃料として供給せしもの (六) 若松、戸畑、門司、宇島の地元消費高を總計し作表すれば別表の如し。
前記輸送炭に就き地方別、主要仕向地別に列記すれば左の如し

◎内國海路輸送先別表

(各地昭和四年千噸以上の分) 附内國船燃料供給高

	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年
大阪府	二、一九〇、〇七	二、〇七四、六四	二、七三、七六	二、〇四九、三六	一、九六、二四	二、〇七、六五	二、二四、六〇	二、〇八三、二二	一、九五、五三	二、二六、五九
大阪	二、〇三、九七	一、八八、一五	一、九七、五六	一、八三、〇三	一、七八、四九	一、八〇、〇七	一、九二、三九	一、八六、三三	一、七〇、九八	二、〇六、八〇
岸和田	七六、九五	九四、三六	一〇四、七六	一〇六、二四	一一、六九	一〇六、八三	一一四、三五	一一四、九〇	一〇一、八〇	八二、四〇

第一節 内地輸送高

(一) 若松、門司、小倉、宇島四港より海路内國各地に輸送せしもの (二) 各坑より島を除く) に送出せしもの (三) 水運によりて蘆屋及小倉に送出せしもの (四) 鐵兩港に於て内國汽船燃料として供給せしもの (六) 若松、戸畑、門司、宇島の地前記輸送炭に就き地方別、主要仕向地別に列記すれば左の如し

◎内國海路輸送先別表 (各地昭和)

大阪府	昭和四年	二、一九九、〇七	昭和三年	二、〇七四、六四二	昭和二年	二、七三三、七〇六	昭和元年	二、〇四九、三六六	大正十四年	二、〇七三、六五四
大 阪	昭和四年	二、〇三五、九三七	昭和三年	一、八八一、一五九	昭和二年	一、九六七、一五六	昭和元年	一、八五二、〇九一	大正十四年	一、八三〇、〇七五
岸和田	昭和四年	七、八九五	昭和三年	九四、三三七	昭和二年	一〇四、七三六	昭和元年	一〇六、二四四	大正十四年	一一、六八九

◎内地輸送類別及内國汽船燃料炭年別表

(鐵道各驛送りに若松、戸畑、門司、小倉、宇島驛を含まず)

年 別	海 路				高 地				内 國 船 供 給 高				
	若松港	門司港	小倉港	宇島驛	小 計	鐵 道 各 驛 送 り	水 運 蘆 屋 送 り	水 運 小 倉 送 り	門 司 鐵 道 局 用 炭	以上合計	若松港	門司港	小 計
明治三十一年	?	四一六、六六六	?	?	四一六、六六六	四八、〇〇四	二四九、三六八	?	?	七三三、九八八	?	?	?
全 三十二年	四三八、八七	五七七、一八四	?	?	一、〇八七、四三〇	三七、四九三	七、七五七	二四、三七八	?	一、一五七、〇五八	?	?	六三、七八九
全 三十三年	九五四、三三	六四八、二三	?	?	一、六六三、九五〇	六六、一六三	一、六〇〇	六〇、四四〇	三七、三九四	一、八三九、五七七	?	?	一一三、〇
全 三十四年	一、一四〇、六三〇	四八二、五九四	?	?	一、七九三、〇四四	一〇七、三三六	四八、五五六	五三、七七七	二四、〇三二	二、〇四八、八四四	?	?	一三三、六六九
全 三十五年	一、一九四、八五六	五四四、四三	?	?	一、八七三、七九九	一五三、七七六	四七、三三四	六四、一六五	四六、〇三三	二、一八四、四七五	?	?	一六七、〇五三
全 三十六年	一、三四九、七九	五六二、六七〇	?	?	二、〇〇二、二五八	八六、六三七	五、三六一	七、五五九	五七、一六八	二、〇〇一、三〇九	?	?	二二二、〇
全 三十七年	一、五三三、二八	四六八、五〇七	?	?	二、〇〇一、二五八	一〇九、三五三	五、〇五六	四三、九七七	七、四五六	二、〇三二、一〇〇	?	?	一、四九九
全 三十八年	一、七六八、五二	五〇三、五三六	?	?	二、二七二、〇五八	二〇五、六九五	二、八二七	六三、六四九	六四、六〇〇	二、三六九、二九八	?	?	五、九八
全 三十九年	一、七六八、五二	七七八、四六七	?	?	二、五四六、〇一七	三九七、二七九	九、一八	三九、七二〇	六八、〇六	二、六四四、四三	?	?	一三、八二二
全 四十年	一、九七四、三四	八四四、一九六	?	?	二、八一九、五三六	三四〇、六二八	二、九六三	二、〇七三	七二、三〇〇	三、〇三四、三三三	?	?	一五、七九〇
全 四十一年	二、二六六、五六七	八〇〇、〇五〇	?	?	三、〇六六、六一六	三四三、六〇五	二、七六	一五、三三三	六四、〇三	三、二二〇、六一八	?	?	二二、五二八
全 四十二年	二、五六二、二六三	七三二、一八一	?	?	三、二九四、〇四四	三七八、九九九	一、七六一	?	七二、一三	三、四六六、一八二	?	?	二七、三三七
全 四十三年	二、九六五、一八〇	五九二、〇八九	?	?	三、五五七、二六九	五一、七二九	三、三〇七	五、四四四	九三、一五	四、〇九〇、三三	?	?	五二、五四〇
全 四十四年	三、六八六、〇六七	六〇八、一九九	?	?	四、二九四、二六六	四三三、三三	二、〇八二	一四、三九八	一〇、三三二	四、四〇四、八七〇	?	?	八三、〇九五
大 正 元年	四、二八五、七八	六七八、一三七	?	?	四、九七三、九一〇	四三六、一九五	二、八二四	一四、七六八	一〇、六三	五、〇六六、〇六八	?	?	一四五、八二七
全 二年	四、六七一、九六四	四八七、四三六	?	?	五、一五九、四〇〇	六四、五五五	一、〇〇三	一三、〇六八	一三、五四七	五、二九三、〇〇七	?	?	一七八、九二二
全 三年	四、〇〇六、一六四	四〇〇、四〇五	?	?	四、四〇六、五六九	七八二、五三三	三、五三〇	一七、七七〇	二七、一七九	四、六七八、七〇九	?	?	一九九、七八〇
全 四年	四、四八八、八七六	三五八、五九四	?	?	五、〇四七、四七〇	七三六、二七〇	二、三六九	二八、一五八	二九、四八三	五、三三九、八三九	?	?	一五八、九七三
全 五年	五、一七二、六八七	四七九、六四九	?	?	五、六五二、三三六	九〇〇、二八四	二、八五七	六、六二二	一三八、六五六	六、〇三三、九〇一	?	?	一六七、〇二二
全 六年	五、九七七、五五〇	四八二、五八九	?	?	六、四六〇、一四〇	一、三四八、四三三	二、三三八	二、一〇三	一四九、〇八四	六、六〇九、五一七	?	?	一八六、四三三
全 七年	六、二五〇、二九	四三七、九五〇	?	?	六、七〇〇、二四〇	一、三二二、一四一	三、八三〇	?	一九九、五六四	七、〇一九、七九四	?	?	一九九、三三三
全 八年	六、四二二、八二三	三九四、八二七	?	?	七、〇一七、六六〇	一、四五一、三六六	六、二六八	?	二二五、六四〇	七、二四三、三〇〇	?	?	二〇〇、四三八
全 九年	五、九〇七、一三〇	二四七、六三七	?	?	六、一五四、二六七	一、四七二、〇八六	四、七四九	?	二四九、六五九	六、四〇三、九二六	?	?	一八四、八四三
全 十年	五、七九三、〇八九	一一一、二五七	?	?	五、九〇四、三四六	一、二二二、三七九	四、二八六	?	三二七、七四八	六、二三二、〇九四	?	?	二七六、三七〇
全 十一年	六、三三六、四二六	一〇八、八七八	?	?	六、四四五、二一四	一、三三三、五九四	五、〇七	?	二四一、七二九	六、六八七、〇四三	?	?	一、〇七五、六八九
全 十二年	六、三八〇、五四三	一一三、一五八	?	?	六、五九三、七〇一	一、三六五、五四五	四、三〇〇	?	二八六、三三〇	七、〇〇〇、〇三六	?	?	一、〇三三、七六五
全 十三年	六、六四七、九七六	九一、〇六八	?	?	六、七三九、〇四四	一、三九七、七〇一	二、四七七	?	二八六、三三〇	七、〇三六、〇七五	?	?	一、〇七六、八八九
全 十四年	六、三三七、一七六	七五、二四〇	?	?	六、四九四、四一六	一、二九六、五九七	一、三四〇	?	三一九、一七七	六、六三三、六一三	?	?	一、〇六四、八九九
昭 和 元 年	六、七〇一、〇四七	九九、四四	?	?	六、七〇〇、四九一	一、四四三、六八〇	一、三三五	?	三五九、〇七三	七、〇三九、七六三	?	?	一、一六三、五八五
全 二 年	六、八六五、三三	七五、二〇五	?	?	六、九四〇、五三六	一、五〇三、一〇〇	二、七二七	?	三九三、六八六	七、三三三、二二二	?	?	一、二四二、三三
全 三 年	六、八五四、〇七三	七六、六八	?	?	七、〇二〇、七五二	一、五〇四、〇九八	二、一九四	?	三九〇、四四五	七、四一五、二四七	?	?	一、二〇〇、二六五
全 四 年	六、八六五、九六六	九一、八五一	?	?	七、一〇六、九六一	一、四六九、八七四	一、六三一	?	三九〇、七八三	七、五〇六、七五七	?	?	一、二四二、三三

堺 野 佐 野 貝 塚 岡 田 樽 井 尾 崎 吉 見 谷 川 兵 庫 縣 神 戶 飾 磨 尼 崎 高 砂 洲 本 網 干 西 宮 由 良 坂 越

四八、一八四	四四、七七七	四二、三七六	四五、二三三	四五、〇四〇	五四、六〇四	四八、九九八	六〇、四六二	六六、八七三	五二、八三六
一〇〇、五二	一〇、五六一	一一、六七七	九、八六一	六、五六〇	四、〇四五	五、六五四	六、八八五	四、〇六一	五、一〇一
九、三六七	九、七七四	一四、六二〇	一〇、七三三	一一、六八九	九、一五八	一一、一六八	一三、一五九	六、一八五	九、〇六二
八、八一九	八、三五六	七、四四〇	二、五三〇	五、八九三	三、四三三	四、二二七	三、五二一	一、八四四	—
五、四〇六	八、四四五	九、二二九	八、二三四	七、六八五	七、五三六	六、九三五	三、〇三二	三、二四六	一、八五
四、八六一	四、六六六	四、六二一	四、八九九	一、四三八	九、三九	—	—	—	—
四、〇〇一	七、〇六〇	八、六七九	七、八七一	八、八〇一	八、〇六二	八、八三三	一〇、五五六	七、五三三	五、九四〇
二、二九九	一、九九九	二、〇〇六	一、一四四	—	—	—	—	—	—
一、〇三八、〇九九	一、〇八七、八九九	一、二九、九二〇	一、一五〇、六三四	一、一〇八、五〇六	一、三〇七、一六七	一、二二、四三二	一、二八、七五六	九〇〇、一九〇	一、二六、〇三三
三六四、九九四	四九、二二三	四五、七七七	五三、一三六	五〇七、七六三	五九三、九八〇	五五八、〇六四	五三、四九三	四九三、六〇九	六四、一二五
二五六、五五六	二六二、四三九	二四九、〇九六	二二七、九六五	二〇二、八五〇	二二九、二七七	二〇五、三〇〇	一七七、七四四	一六、〇二五	一三七、九七四
八六、六五一	七九、五三〇	七五、四九六	六九、九五〇	九七、四三〇	一〇四、〇三五	一〇七、六六四	一〇九、二五二	九、八五七	一〇三、四八一
七、五七一	八二、一六七	八八、一七	七五、三三五	七六、九九〇	七五、九八一	八二、七五九	六二、五六一	六〇、四六八	六三、九〇六
四九、八八九	五、九八三	五、八四九	四、二九四	四三、五二〇	四五、四一	三七、九三九	二七、三八九	三、〇二一	一九、四三八
四〇、八七一	三三、八二七	三、四四〇	三三、一七九	三五、九二	二二、四七六	二〇、五二三	九、八五五	八、六八一	九、六三二
三九、三九九	三八、七八六	四〇、七〇六	三九、九七六	三八、四九五	六五、七七	五九、四四八	四五、六七六	三三、四三三	一八、七四二
二六、八〇九	一四、四二五	一〇、二六九	六、五三三	二、五七八	二、八八	—	—	—	—
一四、五九〇	一四、〇八五	二、六五四	七、三八一	三、一七四	二、四八〇	二、四四八	四、六二二	四、六三〇	一、八三三

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別) 一二九

赤穂	一四、五三三	一二、一八〇	七、八八三	一九、二七三	四、九三三	五、〇四四	四、〇六三	九、三五六	二、四〇五	四、七七七
二見	二二、九一九	一三、一八七	一三、一〇六	一三、六九四	一三、七三三	一三、二四四	一三、三三〇	九、五六〇	六、一五五	二、五九〇
明石	一一、〇四一	一二、九三三	三三、七八六	二六、七三三	三三、五六〇	二七、四二一	二四、二六三	三三、九八一	一九、五二八	一四、九三六
那波	七、四四五	六、二九八	八、四二四	八、二六一	一〇、八〇二	三、〇五三	一〇、九八〇	一四、八八九	二、六五三	一、九二四
福良	七、〇七四	七、七六四	四、九八一	五、六五三	四、〇七一	四、九〇〇	三、七二〇	二、七九七	二、七九七	一、〇九五
曾根	四、五五三	六、〇八七	四、五四二	五、五七八	四、〇五一	五、六六六	四、一七七	一、二二九	一、二二九	三、六
相良	四、〇五一	五、一七四	二、七〇九	二、八〇四	三、三六五	三、三六四	一、五二四	一、五二四	一、五二四	一、五二四
假屋	三、八一九	九、八七	二、一〇三	一、六四八	六、三三	八、八四	一、四二七	一、二九一	一、二九一	三、八五五
阿萬	三、五四三	三、二九〇	三、九九九	五、一〇七	四、八九九	四、九三	四、四三三	五、一三八	四、四三三	三、六七一
魚崎	二、三三六	二、〇九六	二、七五	一、六七四	二、七三	三、三七七	三、〇三二	一、九〇三	二、五六六	—
木場	二、二六五	三、八四七	二、三六二	二、九六〇	一、七六八	三、二七七	二、二一七	二、五三三	—	—
別府	一、八八四	三、七七八	四、八四三	四、七九三	八、三八〇	一〇、七九三	七、九八〇	七、七七五	五、五二四	—
湊	一、八四三	二、三三五	三、六七一	三、三六六	三、三六六	二、一六五	三、〇三五	七、二六	—	—
大鹽	一、五四八	七〇	二、三〇	九八	—	一九四	—	三、六	—	—
御影	一、〇八八	三七二	三八一	一、二六六	八〇三	一、七九九	二、〇三七	二、〇七四	—	—
津井	一、〇〇八	一、八八八	六、七三七	五、三三八	三、五七五	二、五五三	三、二四八	四、四九	—	—
愛知縣	七九九、五〇三	七六〇、九六三	七五三、八九〇	七四七、四二三	六七四、六七一	六六三、四六九	五七三、六四三	五四五、九七三	五〇六、三三三	三四三、五八八
名古屋	五九四、〇六五	五七八、〇六八	五六六、六七〇	五四四、三七七	四八二、九四一	四三九、九九七	三八二、六一一	三七五、八五七	二四七、六六一	二六三、八九一

半田	二五、四四四	九六、一八八	九九、三五六	一〇八、五六一	一〇八、三三三	一一三、四三七	一一二、一六〇	九七、五八六	八八、八九六	三四、七七四
蒲郡	八四、四五四	七四、九三四	七三、七〇四	八〇、四二二	五九、七四六	六三、三〇七	五一、九四三	三四、三九九	三六、六八	五、二八
三谷	五、五六〇	一一、七七三	一一、三三七	一一、八五〇	一一、三五四	一一、四〇五	一一、五六一	三〇、九〇二	一一、九九九	一一、八八八
神奈川縣	五〇六、九九〇	四三〇、七〇三	五六九、八三三	五〇三、六一一	四七三、三六五	四七三、七七三	四六五、九〇一	五四二、〇二六	四〇九、三三六	三八三、九九八
横濱	四六六、〇〇二	四三〇、七〇三	五六九、八三三	五〇三、六一一	四七三、三六五	四七三、七七三	四六五、九〇一	五四二、〇二六	四〇九、三三六	三八三、九九八
川崎	四〇、九三八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山縣	三四九、八三七	二九三、〇三三	二七八、三〇二	二七〇、六九一	二三八、〇〇六	三二一、九三三	二四一、八五三	二五三、一三四	二二四、五八二	二五三、七七三
岡山	二八、九九三	一〇六、八八四	一〇三、八八五	一〇四、三三三	八七、〇四三	七三、七四九	七八、七六四	九六、九九三	七六、四八四	九二、六三一
宇野	二八、一七五	八五、四三〇	八三、六九二	七三、一九二	五四、八五四	六四、九五四	八二、三九二	六九、三〇一	五四、七八二	七四、九五四
片上	三三、六八三	二九、四三〇	三三、九七三	三三、五四〇	一五、八三〇	一三、九八七	九、二八二	七、八九七	四、八八七	八、二七七
笠岡	二七、四二一	一五、五二七	一六、三三五	一五、三三九	一一、三三二	一四、一〇六	一一、九七七	一一、〇〇七	一〇、四八四	八、八七五
玉島	二二、七七七	一一、六六六	一四、二二三	一四、六三三	一四、六三三	一三、四五一	一四、二六三	一五、四六三	一四、一七〇	一〇、〇〇〇
宮浦	一一、〇九三	五、六三五	三、四四六	五、六六五	一〇、一一三	一〇、九九九	三、五九二	四、九二七	二、六九二	一一、二〇〇
幸西	七、一六〇	五、八〇八	六、二七五	二、七八〇	—	—	—	—	—	—
田ノ口	六、六三四	六、〇六三	四、九六三	三、〇三三	二、八七〇	二、五五四	二、五五四	三、五〇四	二、六三六	一、二三四
味野	五、一四四	四、四九八	四、六二九	五、七〇五	七、一六七	九、六〇四	八、六七九	八、七八四	六、九四七	七、八〇二
西大寺	四、七四〇	五、五〇〇	三、〇一三	六、九三二	七、三三二	一四、一八三	九、九三三	一三、一八〇	四、七九三	六、一五四
玉	二、七五二	三、一三八	二、四三四	二、八七四	一、九三八	二、二〇〇	四、八〇八	三、二六三	—	—
日比	二、一六二	二、九三三	七、八五	八、五三	一、〇七七	四、九〇	—	一、〇五三	一、四四	二、〇九四

下津井	一、三八六	一、八〇三	一、三六五	一、三三三	一、七五三	一、五五六	一、四四八	一、六五二	一、三〇〇	一、〇六六
久々井	一、〇九〇	六九六	八五五	五三七	—	—	—	—	—	—
阿津	一、〇三二	一、六三三	一、八八八	—	—	—	—	—	—	—
廣島縣	三〇、八七五	二九八、五五四	二九二、四三六	三三、〇八七	三五〇、三七八	四六六、六九四	四六八、三五九	五二、五九三	五六、三三五	五九六、七四四
宇品	五六、〇七八	七九、〇一五	九九、七〇九	一〇四、六四一	一〇七、三三七	一四六、三七七	一三三、五九九	九六、七三〇	五六、九九五	四九、六二七
糸崎	四四、四四五	三五、四〇三	一五、二八九	一八、七五六	一九、三三三	二四、五五五	二四、五五五	三二、七四三	一三、九六三	四四、七三三
坂	四〇、二八八	一八、一四六	四、六八九	三、一五三	一、〇五二	—	—	—	—	—
尾道	三三、八六六	二二、〇五四	三五、〇四八	三四、九六六	三四、七二二	三〇、五五六	三四、二九九	二六、四〇一	一三、七五一	一四、五三五
福山	二八、二二四	二七、二〇一	三一、一七〇	二八、五七六	二二、四七六	二七、七八	三三、八二五	二二、五二七	一九、四二九	一四、三七一
吉浦	二二、六三三	二二、二八七	二四、五〇一	二五、五九八	四一、八七七	六七、五五五	六〇、九八五	四九、八二七	四三、九二〇	二〇、八三三
廣島	一八、二一九	一七、二四〇	九、四七九	五、三四六	六、八二四	一一、九八五	三、六二一	二四、二〇七	一九、七六七	二〇、六九九
阿賀	一三、三九三	三三、七〇四	二二、〇五八	三八、二八七	五四、二七一	八九、四九七	一〇〇、一八〇	一七、八九六	三三八、五二八	三六三、五九九
阿賀	八、二四五	七、二四三	七、九六二	七、九七〇	六、三三六	六、四九八	一八、六二六	一八、八七六	二、六五一	一、七三三
三原	六、九九五	五、八〇三	五、三六八	五、九〇七	四、三八五	九、七〇四	一八、〇三九	二六、四九九	一四、二四	三〇、八八八
能美島	五、九二四	四、五七〇	四、一八三	四、九七七	四、五八〇	四、〇三六	二、五三五	一、四三九	一、六九	一、六五
海田市	四、四七三	三、五二二	一、四九六	六、五九三	六、五三三	八〇七	—	七、六一	五、八二	四、八七
新	二、七九二	二、五八二	二、三六六	一、九二二	一、四二九	二、八〇九	二、三三二	二、九三九	一、六四八	六五二

三津	二、四四三	二、三六一	一、九五三	一、八八三	一、〇四六	一、九二九	三、〇二八	三、三六四	一、〇二二	一、七八三
三津口	一、七九九	二、一九五	一、八五〇	一、六四三	六〇二	二、〇二五	一、九二三	一、三五五	—	一、三三〇
倉橋島	一、六六六	一、二七三	一、三九一	一、一四三	一、七九三	九四二	一、四〇八	—	—	—
仁方	一、五九〇	二、二八五	二、〇四三	一、八六四	一、五九四	一、四八九	一、二三四	一、二〇二	一、三三〇	七四二
廣島	一、五六四	九七一	九八四	五六四	五七九	五七三	四三九	六九七	—	—
松永	一、四四〇	一、七〇三	一、四七五	二、〇七五	一、六九七	一、六五五	一、二三四	二、二四六	一、二七九	一、九〇五
蒲須島	一、三九四	二、五九〇	一、六九四	一、六七九	二二	五七	四三七	四九四	六三二	三五一
瀬戸田	一、三六〇	一、一三三	六〇三	五六七	一、二八〇	五六七	二八七	一、四〇六	四〇九	二七三
江田島	一、三三七	一、二七三	一、〇〇五	一、五七七	九七八	一、〇四三	六八七	三八六	七六二	七七〇
竹原	一、一八七	一、九六九	二、一五〇	二、九二二	二、七二〇	四、一六七	二、五二〇	五、九〇三	三、五五八	三、四〇四
山口縣	三〇〇、七七七	三三九、八二六	三四〇、四四四	三四六、一八八	二九〇、六八三	二六一、五二一	二五四、九四五	二八〇、七九一	二八九、一三五	二八四、九〇六
下關	九四、八四五	一三〇、九四五	一四〇、一三九	一二三、八五三	一二七、五六六	一〇一、八二五	一一五、三三三	一四一、〇三三	一五七、三七八	一四八、七〇〇
小野田	六六、〇四〇	七五、九八一	六七、五六七	七三、一五三	五六、二一五	四七、〇八九	三三、六〇〇	二八、一九二	二六、六九〇	二二、七〇〇
前田	三二、二九五	四〇、六八五	二五、六九八	三四、九四三	二六、四三〇	二二、二六一	一八、二七八	一七、一五八	七、三九二	—
岩國	二九、〇一八	三二、五五五	一六、五三四	一二、四五九	九、二九一	九、八四〇	八、七〇一	七、三九二	九、九五	六、六六一
彦島	二〇、九三三	一七、五三〇	一八、八五七	三三、二八七	三〇、五二八	二八、四三八	二五、七五六	一九、五二七	三一、〇四四	二八、三三〇
徳山	一三、八四三	二一、〇三二	二二、六一五	一三、四六二	一一、七四六	一〇、七七五	一二、八三八	二二、一六七	一五、三七五	三三、四〇六
宇部	八、〇四八	六、七四〇	七、〇〇九	四、七六一	五、〇七〇	一、八二二	一、二五六	一、九二八	六三	一、六九九

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

厚狹	五、〇九九	四、四六四	四、五九七	三、五八五	二、三五	一、三三四	一、八三二	一、九三二	一、九三二
三田尻	四、二二八	六、三九三	四、四一五	四、〇九七	七、四〇九	二、八六三	九、〇九七	一、〇八九	八、九三二
下松	四、〇八九	四、〇九三	三、八一	四、二八六	三、九九七	四、一三二	四、一三二	五、九八六	七、〇二九
柳井	三、一五五	二、三三一	二、五四一	二、七六八	二、五三五	三、六五五	四、〇五四	三、八二三	四、九九三
萩	二、七五〇	二、七〇七	一、三〇三	一、五三四	二、〇三三	二、五四四	三、三六五	二、三七四	一、四九二
笠戸島	二、〇二五	一、六〇五	一、六九	一、二九五	三、〇六	一、四〇五	一、七三二	一、七三二	六、五四
富田	一、八七七	二、三九八	三、三〇	二、八六八	一、四五二	一、四〇五	一、二六九	一、七三二	七、二
永田	一、六二二	一、五四七	一、四三四	八、六	九三〇	四六二	七九	一、二六九	七、二
平生	一、五八六	一、〇六一	一、五七四	二、七七一	二、二一七	三、五三〇	二、三三〇	三、八九一	三、七三三
吉田	一、五三六	一、八六	二、七四	一、五三六	九〇七	一、六六四	二、〇八二	二、二二八	一、九三八
小松	一、一七三	二、七四	五、四	七、四	四四八	三五六	六五八	一、三三六	九九六
長府	一、〇二二	五、七九	七、四	七、四	二四〇、八六六	二二四、六七三	二二〇、六四一	一九三、三九九	二〇一、〇五一
愛媛縣	二、五七七	二、八三三	二、九七	二、六四七	二、四〇、八六六	二四六、六〇四	二二四、六七三	二二〇、六四一	一九三、三九九
今治	四、七、二七	四、九、六五	五、五、四八	四、三、九四	三、三、二四七	三、六、五三二	三、三、三三	三、三、三三	二、五、六四九
高濱	三、七、五五	四、一、〇八	四、四、二九九	三、六、二九三	三、六、九三三	三、〇、一〇七	二、七、一八六	二、三、六八七	二、五、七五二
宇和島	三、三、六二	三、八、七五七	四、二、二三八	三、八、八七九	三、四、〇九二	四、七、三三	三、六、四三三	三、三、四四〇	二、六、四九六
新居濱	二、三、〇九	二、〇、二七	一、三、五七四	一、〇、七九七	八、〇〇〇	四、七、三三	一、〇、三九一	二、四、六五	二、〇、六三
菊間	二、二、八九	一、三、八〇	一、三、八三	一、二、六〇三	四、九、四三	一、三、二八	一、〇、三九一	二、四、六五	二、〇、六三

八幡濱	二、三、三三	二、三、九四〇	一、四、八三四	一、三、五八五	一、二、八四一	一、二、五三二	一、二、六二六	八、七九六	七、五九七	六、四四一
長濱	二、一、八九〇	一、四、三三五	一、三、五九三	一、二、六七八	一、三、〇九八	一、〇、八四三	一、一、三七〇	一、一、八五一	一、一、〇六一	七、七二七
三津濱	二、一、五七一	二、二、六六八	二、一、七五九	二、一、二〇〇	一、四、二〇〇	一、四、六五六	一、五、一八五	一、五、〇三九	一、〇、〇六	七、四一六
四坂島	二、〇、一四三	一、四、六三〇	二、六、八五六	二、四、九五二	三、四、二七九	二、九、九九八	三、〇、八〇〇	四、一、八〇三	四、〇、〇〇	四、〇、〇〇
三島	九、五、五六〇	九、三、八九	七、一、七四	四、一、六七	四、九、七三	三、九、六一	四、五、七八	四、一、八九	三、〇、五四	三、〇、五四
川之石	九、四、四九	八、五、三三	八、四、一六	九、四、四五	八、五、八二	二、一、七〇三	九、一、三三	九、一、三三	二、一、六八	一、一、四三七
西條	九、三、七八	八、八、五一	八、九、四九	九、〇、四九	七、九、七四	九、一、五二七	九、一、三三	七、四、八二	四、九、六三	四、九、六三
吉田	四、二、九八	四、六、六〇	三、六、八九	二、八、三九	一、五、九八	二、五、二二	八、四、六	一、〇、三八	二、三、七〇	二、三、七〇
川之江	三、四、二七	四、二、三三	三、五、五二	二、五、四〇	四、一、九二	二、七、〇〇	三、七、五二	三、八、〇七	一、四、七三	一、四、七三
壬生川	二、六、四九	三、八、二五	三、一、二〇	三、三、四一	二、四、七八	二、六、三四	二、九、九一	二、〇、〇〇	一、二、六七	一、二、六七
郡中	一、六、三一	二、八、〇一	二、九、九〇	二、八、四四	三、三、六八	三、六、五五	二、九、七六	二、六、三九	四、四、三四	四、四、三四
多喜濱	一、六、一五	三、三、二六	二、三、八七	二、九、三三	二、四、八〇	三、一、六〇	七、八九	二、九、九七	三、六	三、六
堀江	一、四、五四	一、六、〇四	一、六、〇四	六、八	一、八、四、六三	一、六、七、九三	一、七、八、三五	一、六、三、〇五	一、五、二、八五	一、六、一、七六
和歌山縣	二、七、二五	二、〇、三四	二、二、〇四〇	一九四、九七七	一八八、四六三	一六七、九三三	一七八、七三五	一六三、三〇五	一五二、二八五	一六六、一七六
和歌山	二、四、六九六	一、八、〇、五五	一、四、九、八〇三	一、三、三、四九	一、三、〇、六六八	一、一〇、三四八	二、九、九九三	一、三、〇、一七一	二、六、七五九	一〇三、九五四
由良	一、五、一三四	一、六、五三八	一、〇、五三七	一、三、六六八	一九、七二二	一四、四三三	二一、七九一	六、七九一	八、三六八	五、五八〇
鹽津	一、三、三四四	二、〇、八九七	二、三、三二	二、五、〇八二	三、〇、三七七	一九、五四二	一七、一六三	六、八三三	一、六、五五	一、四〇一
冷水	八、六、五四	五、四、四七	六、四、〇四	三、三、三四	三、〇、八七	二、五、八五	一、三、五	一、六、五五	一、六、五五	一、四〇一

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

高松	六四、四三六	七三、〇六五	五三、七五四	六七、三二九	五九、四八六	六一、五〇九	四一、五三七	五三、三三〇	二八、七二一
香川縣	一三〇、五七五	一三四、八五〇	一〇三、三八六	一三八、五八	一二三、八五二	一二七、九三三	四九、四三二	九三、六三〇	五三、三六六
清水	五四、三八三	四三、八七五	四三、八六九	四八、六四四	四三、一九三	三三、五六六	四六、三三七	四六、三三三	二七、九七
江尻	八二、九九六	五六、三四一	六五、七二八	五〇、八三三	七〇、三六六	三三、五八三	四九、三三七	四六、三三三	二八、三五七
静岡縣	一三六、三七九	一〇〇、一四三	一一〇、一三七	九九、四〇〇	一一三、一六七	九五、一五八	七三、四六五	六九、六〇七	五八、八一七
魚大津	一、一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
鎮南浦	三、八八〇	二、三二二	三、〇四五	二、二五二	四、五五五	一、三六二	二、五三三	三、一七四	六、八〇〇
木浦	四、四〇〇	四、三〇七	五、七八二	六、七四九	九、六四三	一一、四五七	七、三四三	四、五九一	五、八〇七
西湖津	四、九九六	八、〇一〇	—	—	—	—	—	—	—
群山	五、五八三	三、六四四	四、二六六	五、〇六七	二、七八一	一、九三三	六、一四	一、七五四	五、五〇
馬山	一〇、〇三八	四、四二七	二、七三三	三、七三九	三、五三八	三、四一四	二、八五八	二、七六九	一、八七七
仁川	三六、三五二	四七、五六六	四一、八三三	三、七三九	三、五三八	三、四一四	二、八五八	二、七六九	一、八七七
釜山	八二、八八六	六八、六五一	五六、一五六	五三、三三三	三四、四七五	四三、四八九	五〇、五九九	五〇、四三八	五九、六三四
朝鮮	一六〇、四五七	一四二、五四三	一二七、四三六	一二六、三三四	〇〇、五七五	一一七、三三八	一一七、九八八	一〇八、八八四	一五八、五九七
湯淺	三、六七四	三、〇二二	二、五六〇	一、七四一	八八三	二、二二三	一、六七三	一、九〇七	一、八八九
田邊	四、三三六	三、二六五	五、三八四	四、六七三	二、四〇八	一、四〇四	一、〇〇九	九二〇	四三三
勝浦	五、九五六	四、六三八	四、五八六	四、六七七	一、二七九	六、三七四	八、五〇六	四、四五二	五、六八八
御坊	八、〇五八	五、三六六	七、〇三六	六、三四四	三、三三五	四、二四六	二、七九〇	四、五二三	三、三六六
一三六	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

坂出	一二、九九九	一三、六〇六	一〇、〇五一	八、八〇八	七、八五五	一〇、〇六二	六、六四二	九、八九〇	七、四九八	八、四七七
小豆島	八、七五九	一〇、五三九	九、八五八	七、九八	六、五九二	五、四五八	四、六四四	四、六四三	七、五〇六	三、六八
多度津	七、三九七	二、二六一	一、三三九	一九、九四〇	一七、六〇〇	一六、三八三	一〇、一三六	九、三四九	五、四四四	五、七四
林田	六、三三三	七、二四二	五、四一六	一三、八三八	一三、八三三	一三、四七四	一、七五〇	一、五三四	—	—
觀音寺	四、四八三	三、四三四	三、八四九	三、〇三八	三、六九九	四、一五八	四、〇二〇	三、九三七	二、三四	二、〇五二
仁尾	四、二六八	三、二八七	二、九三三	二、一七六	二、二二三	一、二二六	二、三二	六、七五	—	九〇
直島	四、〇七三	三、二四六	九八	四、九九〇	一、〇七〇	二、六〇〇	二、三二二	三七三	—	八九
土庄	三、七三三	四、五五六	二、八二二	—	—	—	—	—	—	—
丸龜	三、三四九	三、一六四	三、四一三	三、六三三	三、八七五	四、三三六	二、一六四	二、九二二	—	二、〇三三
豐濱	二、七七三	二、七九一	一、九四一	一、〇五一	一、一九五	五九一	五三六	—	—	—
詫間	一、六四五	一、九五〇	四〇五	六三三	七二一	二、九四八	二、〇九七	二、〇六一	—	七〇六
粟島	一、五六五	一、七九七	一、六八一	六五一	三〇七	二四	二六〇	—	—	六〇九
宇多津	一、四七八	一、九七八	一、二五六	一、八五七	一、九九三	一、六六九	二、九三	二、一〇二	—	一、三七四
高知縣	二六、八九二	二二、九三五	一一〇、一六六	一〇五、七四二	九〇、一七六	九九、三七三	八五、二二九	八五、四七九	六三、四三三	五三、九〇一
高知	一〇七、五三三	一〇五、五〇八	九四、三五五	八二、三三五	六八、一七五	八〇、六三三	七二、〇二一	六八、七三三	五〇、九九三	四〇、六九三
須崎	三、二五五	三、二六四	四、五四七	三、〇〇六	三、一九八	二、四九一	—	—	—	—
大分縣	一〇六、六六九	九八、五三三	一一〇、一三三	九九、七三八	七四、四七一	六四、五五五	五三、七九〇	五三、六〇二	四七、三二一	三九、五四九
津久見	三、七九〇	二六、二三五	三三、一八三	一八、〇九二	一八、一三〇	一三、八七七	五、四八〇	四、七三三	五、七五六	三、七七八

德浦	三九、一〇一	二四、八九一	一六、八六四	一六、五五五	一五、四九三	二、五三二	一〇、四七二	七、七七一	九、三〇八	一〇、七〇七
大分	一六、七四三	一九、一七三	一四、九二四	一〇、六〇三	九、二九六	四、四四四	八、八〇六	一、五〇五	二、七六五	二、七六五
佐賀	一六、六六九	一八、四五五	一三、五五四	二四、一九三	一八、五三九	一、九三九	一六、一三三	一六、二六五	一〇、七九	一〇、七九
高田	二、三五六	二、一〇四	一、〇五八	一、二五五	一、九五二	一、三五八	七、八	一、三三五	八、七	八、七
日出	一、〇四三	九、五三	八、六六	一、二〇六	二、〇七七	一、五九七	一、一三三	八〇三	—	—
三重縣	一〇〇、五七一	九、八〇一	一三、〇二四	一四三、〇六三	二六、五八七	二九、五九四	二四、三八〇	九九、五三五	八四、二八〇	五、六九六
四日市	六〇、七三五	五、三〇三	七、三五六	九八、九二	八九、九一七	八、一九三	八五、三五二	九〇、八二九	七五、一四八	四、一三七
鳥羽	三八、六九六	三五、三八一	三九、三〇五	四二、九八八	三五、五六三	三六、一九一	二八、八七九	七、九七八	七、四八六	七、三六八
德島縣	八九、三四三	一〇、七五九	八六、五六一	一〇二、〇一五	八三、五一	九八、五八九	八九、四三〇	七九、〇四二	六七、〇五一	六、四八四
小松島	四一、〇八八	四六、三三〇	三六、〇三八	三三、〇三一	三三、二八七	三三、三六〇	四〇、七五七	三七、六三二	三四、一七二	三、四三三
德島	二五、九九三	二七、七三	二五、九三二	二八、五四四	二五、九〇一	二五、五九一	二三、〇二二	一六、九三九	一〇、九三三	一〇、九三三
撫養	一八、一八九	二七、八八八	二二、〇五六	三五、六〇四	一九、〇九四	三四、六六六	一八、五〇二	一七、二八五	一七、〇七八	一、七五九
新海縣	七三、三六七	七七、四〇八	六二、七一四	七、五三六	九、六五	九、二八五	五〇、九九四	二五、九〇五	二八、八七〇	二、七七七
直江津	五〇、三四〇	五、九四〇	二六、三九三	三七、九四六	六五、九一五	六〇、九九七	二九、六九五	二〇、六二三	二〇、六二三	一、七六六
新海	二一、八四九	二〇、七三二	二九、四四七	二九、七二四	一八、四四九	二九、六九五	三三、六四〇	二〇、六二三	一七、六六七	一、七六六
相川	一、一七八	三、七九二	三、八一	二、七七八	四、八三七	三〇〇	四九〇	—	—	—
福井縣	六七、〇三六	五、〇三〇	五、八一〇	五三、二六八	七〇、三五四	七、七二七	五四、七五九	六〇、七二一	三六、〇一八	二、七六六
敦賀	五七、二五四	四四、五八九	四四、〇二七	三七、一九六	五一、九五六	五八、四四七	四三、八六五	五〇、九六一	二七、二九二	一八、〇三四

一三二八

三國	七、一〇七	九、二四七	五、七二二	九、七九二	一一、二四	五、三四	三、四一九	五、五〇六	四、二二	一、九二二
小濱	一、三四三	二、〇三四	二、〇八一	二、四九八	三、七四	三、八九四	二、八一〇	三〇三	六、五七	二、〇三三
京都府	五、三四六	五、二九〇	四七、八一五	四一、〇七七	四六、一八一	五二、四四〇	四三、二七八	三九、〇五二	三〇、五二	四九、一九〇
舞鶴	四、四九九	四、九七二	四、〇九八	三、九七七	三八、七四	四二、五五六	三五、〇一九	二八、二八五	二四、八五五	四六、四六五
久美濱	八、五八	一一二	—	—	—	—	—	—	—	—
宮津	四、一七九	二、三〇三	六、三八〇	二、五五六	七、四四八	八、八〇九	七、九七一	一〇、三四〇	五、〇七三	二、五七七
富山縣	五〇、〇七五	五、三六六	七、三三三	八三、七六	六三、三六一	三六、三四一	三〇、二六五	三三、六八七	一六、一〇六	二、三四九
伏木	五〇、〇七五	五、三六六	七、三三三	八三、七六	六三、三六一	三六、三四一	三〇、二六五	三三、六八七	一六、一〇六	二、三四九
東京府	三、八五五	三、一六二	六、五〇七	三七、二八〇	五四、〇六七	一〇八、〇〇五	一七、七三六	一六、七七七	七、四九〇	一、三四、二九一
東京	三、八五五	三、一六二	六、五〇七	三七、二八〇	五四、〇六七	一〇八、〇〇五	一七、七三六	一六、七七七	七、四九〇	一、三四、二九一
鳥取縣	二九、二六六	四、三三三	五、四四三	五、四七五	四七、二六五	五一、八二七	五〇、一八六	四九、九六八	四二、〇八七	四、五五五
境	二六、八二四	四、〇六三	五、四四三	五、三〇六	四七、二六五	五一、八二七	四九、九六八	四二、〇八七	四、五五五	四、一七九
米子	二、三三三	一、七二	—	—	—	—	—	—	—	—
島根縣	五、一九八	五、一三七	五、四四三	三、四八〇	二、四二〇	二、九六六	五、六〇三	四、三六六	四、七七八	三、五三〇
濱田	二、〇七四	二、〇五〇	二、三三〇	一、七五一	一、六四九	一、一七六	一、八四八	一、〇九九	一、一九〇	七、九二
沖繩縣	三、七〇〇	二、二二五	二、七二四	四、二二八	五、五〇九	三、七八一	一、四二六	八、四九	一、〇三九	八、五四六
大東島	二、五六〇	二、二二五	二、二六四	三、二三八	二、〇五三	一、九三三	八六〇	六五九	—	二、四八
那覇	一、二七〇	—	—	九六六	—	—	—	—	—	五、七五三

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別) 一三九

香港	八〇、六九	七四、〇五	八七、二八六	五四、三三	九九、四九九	八一、六五四	九五、七四	八二、七二	一六二、〇四二	一〇三、六三五
漢口	四三、五八	五〇、〇四	三八、二八六	四〇、〇四二	一九八、三七八	三六、一八五	二、〇七〇	一、七三	二、二〇〇	七、三八九
南京	五、五〇〇	二、二二五	七、〇六七	五、一九五	二二、八三三	六〇六	二、〇七〇	五、〇七七	一六、九〇七	
廣東	三、六五〇	五、五〇五	二五、六〇五	八四、三七四	六三、七二五	三五、三二四	一二、九六六	一、六〇三		
寧波	三、四九七	一〇、三四二	五、五九八	一二、一〇四	九、九三八	四、六七九	一、六〇三			
鎮江	三、〇五〇	五、七二二	二五、五六七	一二、二七四	七、三三三					
通州	二、八二〇		八、三三五	八、三〇五	八、六二四	二、八七一				
青島	二、七〇〇	六三六六	八、三三五	一八、一七九	六、九〇八	八、一六九	六六二	三、三四	五、五六九	三三、四八四
威海衛	一、五〇〇									
其他	二六、八二二	九、一八五	二五、〇〇七	一七、九九四	三、八二二	一八、五六六	三四、四〇	一八八、五二二	三六二、七八	一六〇、二〇三
馬尼刺	一一、一九九	二、二七五	六、九三〇		二、一九五〇				一〇、五三四	三、〇七八
イロイロ	五、八〇三				三、五〇〇	五、〇〇九	二、四〇〇	二、四〇〇	二、六〇〇	二、五〇七
アンガール島	四、七七七	四、〇〇〇		四、九二四	五、五〇〇					
梅防	二、〇〇〇			五、三三三	五					
チャランカ	一、二四二	五〇〇								
サイパン	七〇〇	一、六七八	九三〇	一、九四三	八三〇	一、四三〇		二、九六五		
パラオ	四〇〇			一〇五						
ヤールト	三〇〇			一五〇	七〇		一、三六五	一、〇〇〇		

一四四

テニアン	三〇〇	五〇〇								
ボナバ	二〇〇									
小計	四三〇、七六	五七六、七八	六六六、一〇二	八九五、九〇二	一、〇九二、〇二五	四九三、三九三	三八〇、〇〇一	四七六、八四九	八九九、二五四	六八六、三九三
外國船燃料	二七、六三二	二六、一九三	三九、五四三	二九、九四二	三三、七六八	三三、四八	二七、二五六	三四六、四八五	二五九、四七三	二八七、〇三三
合計	七〇一、三九七	八八八、六九二	九五、六四五	一、一九三、八四四	一、三九六、六三三	八二六、八二二	六五二、一五七	八三三、三三四	一、二八、七七七	九六五、四二五

第三節 内外仕向總高

内外仕向總高前掲第一節及第二節に掲げたる内外兩途の仕向高を合計して年別に示せば左の如し

年次	内國輸送高 (船用とも)		海外輸出高 (船用とも)		合計			
	内國輸送高	海外輸出高	合計	年次				
明治三十一年	七三、九八八	一、〇〇五、七四四	一、七九、七三三	全	三十八年	三、三〇五、五三三	二、一〇八、二五七	五、四一三、七八九
全	一、三三〇、八四七	一、二四五、三七八	二、四六六、三三三	全	三十九年	三、六五一、五九六	一、九六六、四八五	五、六一〇、〇八一
全	一、九五三、六四五	一、五七六、八七三	三、五五九、五二七	全	四十年	三、七五六、〇二五	二、三〇九、四三七	六、〇六五、四五二
全	二、一四八、四九三	二、三七七、九七一	四、五二六、四六四	全	四十一年	三、九九三、九〇六	二、三六四、〇二六	六、三五七、九三二
全	二、三五二、五八	二、二六八、七八	四、五二〇、三六	全	四十二年	四、一六二、六九	二、〇三三、三八三	六、一九五、〇〇三
全	二、四二三、三四	二、四七〇、九六六	四、八九四、一三〇	全	四十三年	五、一六〇、九九六	二、一三二、六四五	七、二九三、六四一
全	二、七四一、三六六	三、三〇二、〇六〇	五、〇四三、四二六	全	四十四年	五、八五九、七五五	一、九五〇、六五三	七、八一〇、四〇八

第七章 内外仕向高

第三節 内外仕向總高

(前掲年別)

一四五

年別	輸出高 (括弧内は筑豊炭)	輸入高	年別	輸出高 (括弧内は筑豊炭)	輸入高
大正元年	六,五九二,〇八五	二,一七六,四六八	全十年	九,四六一,六二二	一〇,五八〇,三三九
全二年	七,一九〇,〇九一	二,四九六,二四九	全十一年	九,九〇六,四七八	一〇,七九一,八二二
全三年	六,八四四,五三四	二,〇九〇,二〇五	全十二年	一〇,三二二,八〇一	一〇,九三四,九六八
全四年	七,〇九九,三四一	一,四四三,九六二	全十三年	一〇,八〇八,五〇五	一一,六三三,五三六
全五年	八,一五九,九〇七	一,三八〇,三三七	全十四年	一〇,四七六,七四〇	一一,三九一,六五三
全六年	九,四九九,七三三	一,三〇一,九九三	昭和元年	一一,二六六,〇一五	一一,九三九,八四四
全七年	九,九六五,九五五	八六九,五六六	全二年	一一,三三五,九九七	一二,三五九,六四五
全八年	一〇,七八二,〇三〇	七七三,三三三	全三年	一一,〇〇四,六七六	一二,八六三,三六七
全九年	九,九五五,五五四	九六五,四四五	全四年	一一,一五五,二〇七	一二,八五六,五六四

第八章 全國石炭輸出入高

◎輸出入高年別表

年別	輸出高 (括弧内は筑豊炭)	輸入高	年別	輸出高 (括弧内は筑豊炭)	輸入高
明治三十九年	二,四〇三,三五四 (一,三九九,二一五)	二,六六三	全四十二年	二,八六七,〇二七 (一,五五八,三三九)	一一,五九四,八
全四十年	二,九三三,四九〇 (一,六三八,〇七四)	一,八四六	全四十三年	二,八六〇,四七〇 (一,五九三,三四〇)	一七四,六一
全四十一年	二,八六六,〇三二 (一,七四三,八二九)	三〇,八八五	全四十四年	三,〇六五,六七八 (一,四四六,三三三)	一八二,八一四

大正元年	三,四六七,八七〇 (一,六五〇,九六三)	三〇八,三三九	全十年	二,四〇六,八〇〇 (八九九,三五四)	七八九,六九一
全二年	三,八七〇,六〇〇 (一,九六六,七〇〇)	五七六,七七三	全十一年	一,七〇四,三三五 (四七六,八四九)	一一八七,三〇
全三年	三,五六八,八六六 (一,六四六,一七一)	九七七,七一九	全十二年	一,五七四,三〇六 (三八〇,〇〇一)	一,六五二,七七
全四年	二,九三四,〇九二 (一,三二一,七九二)	六二四,六七七	全十三年	一,七二一,二六二 (四九三,三九三)	一,九七七,七二
全五年	三,〇一五,九四七 (一,〇七二,四四二)	五五六,一一〇	全十四年	二,六七六,六九四 (一,〇九三,〇三五)	一,七四〇,五〇
全六年	二,八三三,四六二 (一,〇七七,四三八)	七三三,八八〇	昭和元年	二,五八九,三三六 (八九五,九〇二)	二,〇〇八,二七六
全七年	二,一九七,〇三七 (七四九,〇七一)	七六七,七九二	全二年	二,一七三,九九九 (六六三,一〇二)	二,六六〇,五五六
全八年	二,〇六六,七三三 (六三三,四七五)	七〇五,四三三	全三年	二,一五〇,四三三 (五七六,七三八)	二,七三四,八三二
全九年	二,四六六,五六六 (六八八,三九二)	八〇九,九九〇	全四年	二,〇二二,二七七 (四三〇,七三六)	三,二〇三,三三二

◎港別及仕向先別輸出高表

港別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	仕向先別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
若松	四三七,三九四	五三三,四四三	六五四,六九九	九〇〇,四六一	一一,二四四	支那	二,八五五,二七一	四,三三六,一三六	一,〇六四,一七四	九四八,一八八	一四,四五四
門司	二,四三〇	一,七七三	三,五四〇	二,八三三	二,七〇三	關東州	一,三六八	五三〇	五六一	五〇〇	四,三二九
下關	—	—	一,六五〇	三,九五〇	四〇〇	香港	三,四〇〇,〇六六	三,〇七三,七三三	三,七三三,九九七	三,五八,七二一	三,八三,五九九
博多	五,八〇〇	一,六八〇	五,〇〇〇	八,三三七	一,三二七	佛領印度	二九,一〇〇	三三,五五〇	三四,七二〇	四八,〇二二	八,四七一
三池	七四四,四六四	七〇一,一五五	七九,〇四三	八九,一八八	七三六,一四七	關領印度	一〇,八三〇	二二,五〇〇	二五,一五〇	四三,一八七	一五,七六〇

第八章 全國石炭輸出入高(港別及仕向先別輸出高)

港別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
唐津	一三、五〇〇	一四、二八〇	一五、〇八〇	一五、九三三	二五、〇〇一
長崎	五三、四八九	五三、〇七五	四六、三三四	四三、五七五	三六、八五五
住ノ江	四一、四三〇	八二、五八二	七三、二五〇	八〇、〇七三	六三、四三七
嚴原	—	—	—	—	三三一
那覇	一、〇八三	三、五〇〇	八、六八五	一〇、六〇〇	一七、三〇〇
徳山	—	一、七〇〇	—	—	—
神戸	—	—	—	—	—
横濱	—	—	—	—	—
釧路	—	—	—	—	—
函館	—	—	—	—	—
小樽	—	—	—	—	—
室蘭	一九、七六八	一七、〇三三	六〇、三四四	七、四九〇	一、七八六
其他	三三、七七〇	—	—	—	—
合計	二、〇三、二七〇	二、一五、〇三三	二、七三、九四九	二、五八、九三六	二、六七、六九四

支那	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
海峽殖民地	三九、二〇〇	一四、七三二	二〇、一六五	二四、二一〇	一六、三三七
比律賓	一八、五二一	一六、八四五	一八、四三五	一四、八二四	一六、〇三九
英領印度	—	—	—	—	—
布哇	七、四七三	一六、三三三	三三、二六三	二八、五六七	二〇、八〇〇
濠太刺利	—	—	—	—	—
暹羅	—	—	—	—	—
埃及	—	—	—	—	—
露領亞細亞	五、四四五	—	—	—	—
北米合衆國	二、〇〇五	—	—	—	—
北米諸國	三、五〇〇	—	—	—	—
英國	—	—	—	—	—
其他	一、三三三	—	—	—	—
合計	二、〇三、二七〇	二、一五、〇三三	二、七三、九四九	二、五八、九三六	二、六七、六九四

◎港別及積出先別輸入高表

門司	三池	長崎	徳山	神戸	大坂	四日市	名古屋	武豊	清水	横濱	濱田	宮津	境	敦賀	伏木	新潟	真岡
二、七九九	二、六五〇	—	六、四八五	二九五、一八九	六四六、六二〇	三三、二九五	三九五、五四	五四、六九九	六二、六五三	七〇〇、四八九	—	三、五三五	三三、〇三九	三七、〇二八	七七、六二四	七三、七七七	六、〇五二
一八、五五七	四六、三七七	—	五五、七八二	三三七、五九二	五〇一、九五七	三三、六〇〇	三七五、九四五	四六、〇二六	八二、二五六	六一、一四六	—	五、三二五	二二、一四五	二九、〇六六	五九、四六〇	五四、四七九	七、九七〇
四四、六三三	三三、〇〇〇	—	七三、二〇二	三〇七、〇二八	五三三、三〇四	三七、三三三	三五八、四〇八	三九、七六三	八六、六六三	六〇〇、七九九	—	—	三二、二六六	五、〇八六	五四、四八五	五、七四九	一九、六五八
四、七〇五	五五、三〇八	—	四〇、三〇六	一四九、五五三	四四、四二〇	一九、三六九	二五四、三九四	二七、一三五	八八、六五〇	四六、三〇五	—	—	二〇、一四七	九、八六〇	一七、〇二五	三、一〇六	—
四、九四九	五五、七九五	—	一八、七八五	一三七、七二六	三八四、六六〇	一九、〇六三	二二二、〇四二	一九、五〇一	八三、九七三	三九六、二八九	—	—	一六、四七〇	九、三七〇	一六、〇四八	一八、六四六	三三、三七〇

關東州	佛領印度	露領亞細亞	英吉利	其他	合計
一、九八四、三九一	四八〇、〇九八	二一六、二九一	一、六五四	—	三、二〇三、三三三
一七三、二二三	三五五、一八六	九七、〇六八	一、四三七	—	二、七三四、八三二
一七五、五四六	三四、一〇五	四〇、六八九	二、九七五	—	二、六六〇、五五六
一四〇、三四〇	—	五五、六九一	二、〇六八	—	二、〇八二、七六六
一、六四三、七九	七、四一六	四、九九〇	—	—	一、六五六、二〇五

函館	一五、三〇七	—	—	—
小樽	三八、三九三	—	—	—
室蘭	五、五九一	—	—	—
其他	五、三五五	九、五五五	六、九四四	三、一九七
合計	三、二二二、三三三	二、七五四、八三二	二、六〇〇、五五五	三、〇〇八、二七六

第九章 筑豊石炭鑛業組合

第一節 組合事業の成績

筑豊石炭鑛業組合は、明治十八年四月福岡縣布達第三十四號同業組合準則に據り、組織せられしものにして、其の初め筑前の遠賀、鞍手、嘉麻、穂波四郡、及び豊前田川郡にて、各別の組合を設けしも、同年十一月中、更に各郡組合聯合の必要を感じ、鞍手郡直方町に其の聯合會を開らき、縣官及び有志者の斡旋により、互に主張を抛棄して五郡一致の團體とし、其の翌一月より遠賀郡若松港に筑豊五郡坑業組合取締所並に石炭一括販賣所を設立することとし、福岡縣屬官石野寛平氏を推して組合總長とし、龍崎中和、稻垣徹之進、安達仁造、安川敬一郎、麻生太吉の諸氏を経て松本健次郎氏現任たり、其間幾多の年月と共に組合事務を改善し二十八年十一月中旬の組合事務所を新築して益々諸般の設備を改め本邦實業團體中最も有力なるもの、一として世に知らるゝに至れり。

當初組合の常務は、唯一の運炭機關たりし遠賀川、及堀川筋の淺瀬と、川筋に對する取締を主とし、兼て組合員の懇親な結び、相携て斯業の發達を圖るにありしを以て、先づ鑛業振興の機運に投じ、筑豊興業鐵道の敷設を促し、若松築港會社の發企を助け、各種の困難を排して其の成立を容易ならしめ、以て海陸運輸の大改善を遂げたるは、實に組合の公共的事業として第一に盡力したる効果なり。明治二十三年鑛業條例、廿八年の鑛業法其他鑛業關係法規の公布に先ち、屢組合員の意見を徴して、之を當局者の參考に供し、法律制定上其の便宜を圖るに努めしこと又幾何なるを知らず、其他九州鐵道の開通、門司若松の特別輸出開始等に依り、斯業俄に勃興して年々著しき進歩を見るに從ひ、組合の業務亦複雑となり、他の壓迫を排除して内部の改善を圖りしもの一々風指に暇なく、縣郡町村に對する組合一般の關係は、常に其處理の任に當り、互に彼我の利益を計りて其の行政上の便宜に努め鑛山變災殉難者遺族を慰問し公共事業に對しては遠賀川改修工事費として金貳拾八萬圓を寄附せしを始め、東筑嘉穂兩中學校の建築費として各參萬圓宛、福岡縣立工業學校採鑛科設置費として金參萬壹千圓、福岡工業博覽會に金壹萬圓、警察電話架設費に壹萬貳千圓、直方高等女學校建築費、及福岡縣協賛會費として各金六千圓宛其他教育、衛生、土木等の費用として、各方面に寄附せし金額は、尙幾十筆の多きに及ぶも今一々列記せず、運炭線路驛構内脫落炭を拾收し洞海灣沈没炭を曳揚げ遺利を回復す、尙明治三十七年七月以後「筑豊石炭鑛業組合月報」と題する石炭専門の雜誌を發刊して廣く斯業上の研究に資し、四十五年七月よりは毎月數回救命器使用の練習を行ひて不時の變災に備へ、大正四年には農商務省と共同して石炭坑爆發豫防調査所を設置して鋭意鑛山保安に關する研究に努め（昭和二年七月當組合建設に係る一切の設備を商工省に寄附す）大正六年には地を鞍手郡直方町西尾の高台にトし三十二萬圓の巨費を投じて筑豊鑛山學校を設立して斯界有用の人材養成に努むる等直接に間接に本邦文物の進歩を補翼しつゝあり。

斯くの如くにして組合設立後約四十年間、一意石炭鑛業の進歩發達に努め、其の面目を一新して、地方の文物を改善し、成立の當時孤穴狸巢の觀ありし筑豊煤田をして、本邦有數の大富源ならしめ、若松、門司の兩港をして、東洋風指の大市場たらしむるに至りしは、我組合の經營措置其の宜しきを得たるもの、實に多きに居るべきを信するなり、今左に重なる組合事業の二三につき摘記すべし。若し夫れ此の間に於ける斯業發達の程度に至りては、明治十九年の送炭僅に三十餘萬噸に

過ぎざりしに、今や一千二百萬噸内外となりしに徴しても明かなり。其の内容に至りては、本書第三章以下に一々統計表を掲げれば、今復た茲に贅せざるべし。

一、筑豊鑛山學校

(イ) 沿革 略 叙

○大正六年六月筑豊石炭鑛業組合常議員會に於て各鑛山坑内作業及労働者を監督する坑内係員缺乏せる爲其の養成の必要を認め之に適應する特殊教育を授け可き簡易なる鑛業學校を設立せんとするの議起り之に關する調査を經たるに時勢の進運に伴ふには少くも中學校卒業以上の基礎科の學力を有する者を必要とするを認め再び其の調査を進行せり○十二月十一日臨時組合總會に於て中學校卒業程度以上の學力を有するものを集め之に鑛業に關する學理を教授し坑内諸作業を充分に實習せしめ卒業後直に坑内事業を擔任し得る優良なる技術者を養成するの目的を以て私立筑豊鑛山學校設立を決議す ○七年三月本校敷地として縣下鞍手郡直方町字西尾に一萬三千四百五十坪を買收し、五月七日本校創立の件認可せらる。六月運動場敷地として全村字十堂に三千六百十六坪を買收、七月工學博士山田邦彦本校々長に就任、八月校舍建築に着手す ○八年四月建築竣工全月第一回本科生入學、六月文部省令第二四號により私立を削除し筑豊鑛山學校と改稱、十二月開校式舉行 ○十年二月炭坑下級係員養成の爲め別科開講 ○十四年五月生徒中學力優良心身健全にして學費の貸附を受けんとする者には組合より一ヶ月一人に付十五圓以内貸與することあり卒業後三年以内に其金額を返納せしむ。六月十九日學校長山田邦彦卒去七月六日組合總長松本健次郎臨時學校長兼攝 ○十五年三月四日福田政記學校長に就任十一月校内に實習坑道を築造す ○昭和三年三月本科別科の外新に普通科を設置すること、なり第一回生として組合内各炭坑の推薦者中より入學試験の上五十一名に入學を許可す ○四年四月普通科の爲め青年訓練所設置の認可あり、十一月校友會を組織す、二月普通科新設の爲め學級

増加し別科生收容の餘地なく第十八回修業生を以て別科制度は廢止のこと、なれり。

(ロ) 位置、規模及設備大要

位置 直方町を東方に距ること約半里南面の丘陵に據り東に福智山の秀峰を望み環境閑靜、地勢雄勝頗る勉學に適す中央に講堂あり、本館と寄宿舎とは其左右に兩翼を張れり。
規模 校地總面積壹萬七千六百六拾六坪にして、北方背後に松林を控へ、地均たなしたる敷地約六千坪と千五百坪の運動場の外各保安設備、排籠球場及庭球場を有す。建物は本館階下貳百八拾坪、階上貳百五拾坪講堂六拾四坪五合、寄宿舎階下壹百參拾四坪、階上全坪、食堂及浴室洗面場等壹百拾參坪、其他附屬建物七拾坪餘、合計平坪壹千餘坪を有し、廊下七拾餘間を以て之を連絡す、水道設備としては近津川より電氣ポンプにて揚水し完成なる濾過を施したる上職員住宅等にも給水す、職員住宅は校地の東方約三町の高臺景勝の地に在り、本校と距離近く便宜多し學校設備の大要は採鑛學、機械工學、電氣工學に關する機械器具裝置の實物及模型各種を備へ又實驗用實習用の機械數臺あり化學分析は目下石炭及瓦斯の分析を主とし、學生各自其術を習得するの設備をなせり、測量に於ては地上坑内の實測に必要な數多の機械器具を備へ後庭に模擬坑道あり。鑛物學、地質學用としては鑛物岩石化石の標本は勿論鑛物學、地質學、古生物學に關する模型數種あり、又學生用練習の吹管、分析器具、鑛物岩石の標本あり圖書は和洋共に備付け、文學、理科、鑛業、採鑛、測量、分析、機械、電氣、地質、鑛物等の各部門に分ち、雜誌は邦文約二十種、外國雜誌約十種を備ふ圖書、雜誌共に圖書室に於て常に閱覽するを得

(ハ) 創立費及經常費

本校 創立費 金參拾貳萬五百四拾六圓
昭和五年度本校經常費 約金 五萬參千圓

(ニ) 學則 大要

第九章 筑豊石炭鑛業組合 第一節 組合事業の成績

○本科

- 一、修業年限 一年六ヶ月にして毎年四月入學翌年九月卒業せしむ
 - 一、科目 第一學年に在りては修身、英語、作文、地質學及鑛物學、探鑛學、測量學、機械工學、製圖及設計、電氣工學、土木工學、分析、鑛山法律、實習實驗及校外見學を課し第二學年に在りては組合所屬炭坑に委託して探鑛作業を實習せしめ且つ特別講義を課す
 - 一、定員 各學年五拾名宛とす
 - 一、入學資格 満十七歳以上の男子にして品行方正、中學校工業學校の卒業者又は之に准する者を採用す。
 - 一、入學試験 中學校卒業の程度により國語、漢文、英語、英文和譯、數學(代數、平面幾何、三角)物理及化學に就き試験し體質薄弱、近視強度、其他卒業後勤務に故障となるべき疾病、耻疾を有する者は採らざ
 - 一、在學 (イ)凡て寄宿寮に入らしむ (ロ)第一學年に於て學術優等、品行方正他生徒の模範となるべき者は特待生として第二學年の授業料を免除す (ハ)二ヶ月以上事故の爲め出校する能はざる者は休學することを得 (ニ)第一學年中は學科講義を確實に知悉せしむる爲め屢々附近の炭坑に就き坑内外見學をなさしむ (ホ)第二學年は大體炭坑に在りて實習し學校に出席して特別講義を聽講するは凡そ一週一回とす
- 普通科
- 一、修業年限 普通科 四ヶ年 毎年四月入學
高等科 一ヶ年
 - 一、科目 修身、國語漢文、英語數學、物理化學、製圖、應用力學、材料學、機械工業、電氣工業、地質鑛物、探鑛學、探鑛實驗、測量法、法制經濟及簿記、休養

各科に於ける實習實驗及製圖の授業時間數は臨時に之を増減することあるべし

- 一、定員 普通科生百六十名、高等科一部二部合計四十名、豫科生若干名とす
- 一、入學資格 一、年齢満十四歳以上満十六歳以下の男子にして品行方正、身体強健なる者 一、高等小學校卒業若くは中等學校二學年修了者又は之と同等以上の學力を有する者、入學試験に合格し且つ組合炭坑の一に於て稼働する者高等科(略)
- 一、入學試験 高等小學校第二學年修業程度により其學科目の中に就て行ふ
普通學科制度は約半年間の通學と殘半年間の實地作業とを四年間交互に行ひ且つ實習中一週一回登校せしめ學科の補習をなす制度にて所謂「サンドウイチ、システム」なり。
- (ホ) 宿舍及學費
本科生の宿舍として寄宿寮を設け生徒監は學務主任として學生の訓育、監督、指導の任に當る、自習室は寢室兼用にして一室の定員を六名とす自習室の外に圖書閱覽室、休養室、面會室等あり又劍道、柔道の爲に道場を設け兼て集會所とす寄宿寮所要の机、蚊帳、食器、閱覽室の圖書等は總て學校に於て之を備へ付け電燈、薪炭、炊夫、諸雇人に要する經費は悉く學校の支辨する所にして學生は學費として毎月金壹圓宛を納付するのみ従つて學費低廉にして被服、書籍及學用品、授業料、寮費を除けば食費及雜費合計一ヶ月貳拾圓の學費にて足る
- (ヘ) 職員及卒業生

- 一、職員學校長一名幹事兼教授一名書記二名生徒監一名專任教授工學士二名明專工學士一名助教二名助手三名囑託二名講師工學士二名理學士一名明專工學士一名を以て事務訓育及授業に當れり
- 一、本科卒業生大正九年九月第一回卒業四拾貳名大正十年九月第二回卒業四拾名大正十一年九月第三回卒業貳拾名大正十二年九月第一回卒業四拾貳名

第九章 筑豊石炭鑛業組合

第一節 組合事業の成績

年九月第四回卒業拾九名大正十三年九月第五回卒業五名大正十四年九月第六回卒業八名大正十五年九月第七回卒業十名
昭和二年九月第八回十八名昭和三年九月第九回卒業十四名昭和四年九月第十回卒業貳拾六名合計二〇二名にして概ね本
組合所屬炭坑に就職せるも福岡、佐賀、長崎、北海道、朝鮮の諸炭坑及鑛山以外に就職せるものあり
一、別科修了生大正十年七月第一回修了五拾六名第二回參拾八名第三回參拾六名第四回貳拾壹名第五回貳拾五名第六回貳拾四
名第七回拾七名第八回拾七名第九回拾九名第十回拾七名第十一回拾參名第十二回拾七名第十三回拾五名第十四回拾七名
第十五回貳拾七名第十六回拾八名第十七回拾四名第十八回貳拾壹名合計四二二名にして何れも在職炭坑にて地位の向上
を得居れり

◎變災豫防に關する施設

當組合は組合炭山不時の事變に備ふる爲め、明治四十三年以來救命器を購入し、之れを直方會議所に備付け、明治四十五
年七月よりは各炭山の練習に供し、(救命器練習會)大正十二年四月一日より當組合救護練習所を改稱し、各坑共多數の熟練
者を出すに至れり。尙從來の木造練習室を廢して不燃燒質「トンネル」を造り坑内坑道の實狀に等しきものみなし練習しつ
ゝあり

現在の全所在庫品を示せば左の如し

品目	數量
千九百十九年式ドレーゲル救助器	一一組
千九百二十一年式ドレーゲル救助器	二組
千九百二十四年式ドレーゲル救助器	三五組
其附屬品	一式

右は組合炭山一般の爲めにする練習なるが、大正四年十二月農商務省令第二十五號發布石炭坑爆發取締規則第二十八條によ
り、(昭和四年十二月商工省令第二十二號改正)指定炭山に於ては單獨又は共同にて救護隊を設置することとなりたるが單獨
編成の三井田川鑛業所を除き高松本坑、忠限、第二目尾、方城、芳雄上三緒、赤池、大隈、豐國二坑、大峰二坑、下山田、
中鶴一、二坑、大之浦二、三、六坑の十五坑は共同して救護隊を組織するに至り、其囑託により組合事務員指導の下に之等各坑隊
員の爲め特に救護練習を開始し大正十一年九月以降昭和四年十月迄に技術修了生を出したる、之實に四百五十八名を算せり、

第二節 組合炭山に於ける社會的施設

近時世運の進歩に伴ひ、社會政策的施設の必要を痛切に感ずるに至り、各種の方面に於て競ふて其實施を企圖しつゝあり、
鑛山事業にありても労働階級を愛護し且つ其利便を計るの主旨を以て夙に現代所謂社會的施設の總てを實行し來り、尙ほ進
んで其發達改良に多大の努力を拂ひつゝあるの現状なり、然るに近時動もすれば炭山を目して「監獄部屋」と稱へ「労働者
を虐待す」と傳へ、其待遇慘酷なりとするものあれど、之れ實に炭山労働の實際に暗く事理に疎き虚構の説なること本節
を通讀して明白ならむ我が組合炭山に於て早く已に勞資の關係に看る所あり、鑛業労働者に對しては、以下叙説する各種の
恩惠的設備を完全にし、以て其協調の實を擧げ國家産業の發展に努力しつゝあり、其施設の名稱又は内容等に至りては千種
萬別なるも、鑛業労働者に對する温情の發露なることに於ては毫も異る所なし、今其主なるものを左に掲げ概要を記述せん、

◎住宅の供給

一般炭山に於ける鑛業労働者に對しては古くより納屋と稱へ其住居を提供せり、我が組合炭山に於ても均しく數戸乃至十數
戸連續せる長屋を建設して其家族の住居に充當し來れるが、今日に至りては社會全般生活狀態の向上につれ、鑛業労働者の
住宅も概ね完備したる建設物となり、將來比較的長期に亘り採掘し得る炭山にありては、二室又は三室を備ふる住居を與へ、

電燈給水等の設備を爲せるもの頗る多し、然れども一時的な小規模の炭山にありては稼働者の多くは附近居住の農民にして其の必要を認めざるもあり。

◎ 慰安並に娛樂設備

鑛業労働者に對しては古來其慰安且つは娛樂の爲め諸種の施設を行ひ、勞務を備ふるの慣習あり。軌近に至り特に此種の施設最も進歩し各炭山殆んど此舉なきはなし、請ふ其の重なるものを列記せん。

◎ 鑛夫俱樂部 鑛業労働者の爲に特に建設せるものにして、以下記する各種の催し等總て此處に行はる。

◎ 演劇 組合炭山中大規模のものにありては、完備せる劇場を有し、時々附近町村に巡業せる俳優又は特に是等の一團を傭請して興行演藝せしめ、鑛業所一般の爲め、開放するものあり。

◎ 活動寫眞 鑛業労働者を初め一般に觀覽せしむる目的を以て、炭山に該器械を有するもあれど、多くは特に其興行人を傭請して映寫せしむ、現今協同會、縣鑛工聯合會の勞資協調に關するもの、逓信省貯金局の貯金思想獎勵宣傳の爲めにする映寫、縣計畫の衛生防疫に關するもの、其他苟くも教訓的、修養的活動寫眞等は炭山の好んで鑛業労働者に觀覽せしめ其思想向上に努めつゝある所なり。

◎ 浪花節 筑豊地方のみならず、近時労働階級の多數を占むる所にありては、解し易くして節面白き語り物最も歡迎され、我組合炭山にありても浪華節(少しく趣きを異にするも一般に當地方にて之れを「祭文」さいふ)の如きは頗る其意に投じ、附近町村に此種の興行あれば一里二里を遠しとせずして聴くを常とす、仍て炭山に於て此等藝人を特に傭請して勞働者の爲め誦らしむること一般なり。

◎ 音樂會 最近「オルガン」「ヴァイオリン」「マンドリン」「ハーモニカ」等の洋樂趣味、青年鑛夫又は其の子女の間に行はれ、高等音樂を吹奏するもの多く、同志相集りて時々其技を競ふこと流行しつゝあり、炭山に於ては斯かる趨勢に鑑

み、樂器を俱樂部に備へ、其趣味の満足と與ふ、筑前琵琶又は淨瑠璃等の邦樂に趣味を有するもの亦甚だ多し。

◎ ラヂオ 近時流行のラヂオを鑛夫俱樂部等に取り付け隨時聴聞せしむ。

◎ 圍碁及將棋 昔時は鑛業労働者の大部は常に飲酒に耽り賭博を弄ぶ者多し聞きたが、現時は是等の徒は性質一變して其惡習を脱し、鑛夫俱樂部に入りて圍碁又は將棋に時を移す傾向を生じたり其必要なる器具は炭山にて之を備付け任意使用に便しつゝあり。

◎ 撞球 西洋遊戯も亦近時炭山に行はるゝに至り、青年鑛夫中撞球を試むるものあり、市井に出入して競技するには彼等の爲め不得策なるべしと、炭山に於て其設備をなし以て其娛樂に供する所あり。

◎ 野球及庭球 諸會社工場等にありては其職員の爲め夙より此等の設備を行ひつゝありしが、近時我が炭山に於ても高尚なる遊戯且つは體育の獎勵なりと認め、大に此等の施設をなすもの多く、鑛夫職員にて競技し互に相親睦するの傾向を生じたり。

◎ 武術及相撲 擊劍、柔道、弓術を好むもの又は相撲を樂しむ者あり、之等に對しては時々其技能を競はしめ、炭山より賞品を掲げて斯道の獎勵をなしつゝあり。

◎ 遊園地 炭山經營地にありては都會と異り公園の設けなく、鑛業労働者の遊樂する所なきを遺憾とし、炭山中には鑛業地附近の山林を買収開拓して之に道路を通じ、所々に平坦なる運動場を設け、自然美に加ふるに柳、櫻、梅、紅葉等を移植して、好個の遊園地を經營し、巡禮八十八箇所を設ける等鑛業労働者の爲め特に慰安の途を講ずる所あり。

◎ 運動會 近時勞資協同親睦の最も必要なるを認め、炭山事務員、鑛業労働者と相俱に提携して事業の進歩發達を希ふに至り、時々其聯合運動會を開催して何等の増壁を設けず心行く計りの慰樂を擅にしつゝあり。

◎ 教育及修養

時代の進運につれ鑛業労働者を向上せしむるは事業經營上最も緊要なる事項なるを以て、炭山に於ては其教育並に修養に關しては常に多大の注意を拂ひ、其進歩發達を輔導す、施設の概要左の如し。

○學 校 規模大なる炭山に於ては、其學齡兒童亦多數あるを以て、所在小學校に全部收容すること困難なることあり、此際炭山に於ては多大の資金を投じて、其町村と交渉して學校の増築、教師の増員をなすこと普通なるも、或る炭山にありては尋常科のみならず、高等科をも設置自營する所あり、又高等科卒業の者に對して補習科を置く所あり、小學兒童の凡てを町村設立の學校に送る場合は其教育費は無論種々の名義を以て町村に交付するを常とす。

○鑛夫集會所 鑛業労働者一般の集會、其他冠婚葬祭の爲め使用せしむる目的を以て設置せるものにして、常に公開し、新聞雜誌其他有益なる圖書を備へ以下記するが如き修學的會合に充つるものなり。

○夜 學 近來青年鑛業労働者の向學心大に著しきものあり、其常に讀む所の雜誌類につき之を觀察するに、比較的高級なるものを好むもの、如し、炭山に於ては之等好學者の爲め、學校出身事務員を教師となすか又は他より教員を招聘して夜學校を開き、其學力に應じて學級を編成し、別々に之を教導し希望の満足を期する向あり。

○説 教 所 主として宗教を基礎として勸善懲惡を説くものあり、又は時代思潮に關して穩當なる説明批評を試み鑛業労働者の浮薄を誡むるあり、其内容時に變更あるも要するに鑛業労働者の精神的向上を期するを主眼とし其効果大に見るべきものあり。

○青年會、青年訓練所、少年團及處女會 青年會は概ね十五六歳以下の獨身者又は妻帯者、青年訓練所は丁年未滿の青少年を以て組織し、少年團は十五六歳以下の者、處女會は十二三歳以上の處女又は有夫の婦女を以て組織すること一般なり。其加入年齢は炭山により種々異なる所あるも、要するに此等會團の目的は主として相互の親睦體力の増進人格の向上、知識の研磨にあり、時々各種の運動及修養に

關する會合をなし良好の成績を擧げつゝあり。

在郷軍人分會 炭山に多くの在郷軍人あるを以て、集めて其分會を組織せしめ、以て移り行く思想の惡化、生活の浮華を

に、堅忍不拔の精神を涵養しつゝ、社會奉仕の先鋒となりて活動しつゝあり。

○継 所 鑛業労働者の妻女は其子女の將來の爲めを計り炭山に於ては裁縫師を招聘して之等婦女の爲め裁縫を教授するの途を開けり。

○救 濟 施 設

炭山にありては一般に鑛夫勞役扶助規則により金屬山たる炭山たるに論なく、鑛山労働者に對しては其死傷疾病等に就き適當なる救濟方法を行ひつゝあるが、我が組合炭山にありては此等法律的恩惠の外別に共愛會、親和會、共濟會(名稱多々あり)等を設け、鑛山労働者の爲め其福利を増進すると共に前記死傷疾病等の際は重ねて懇篤なる待遇をなしつゝあり、其他退山餞別金、災害見舞金、結婚祝儀、出産祝儀、入退營祝儀、痲疾見舞金等を贈與する向き多し、此等の諸費は一部の炭山にありては鑛業労働者より少額の會費を融出せしめ炭山にて之を補給し居るも現時は概ね鑛山労働者より會費を徴收せず、炭山に於て諸費の經費を支辨するの傾向を生じり。

○保 育、託 兒 所 及 幼 稚 園

鑛山労働者に採炭に従事するものは、業務の性質上古來夫婦共稼の慣習あり、學齡の子女は通學して父母の係累ならざるも、乳兒及五六歳以下のものにありては兩親稼働中保育に困難なるを以て多く多くの炭山に於ては保育所、託兒所又は幼稚園を設置す、保育所にありては乳母又は保姆を置きて乳兒を養ひ託兒所又は幼稚園にありては相當思慮ある婦人を置きて兒童を善導し規律ある生活をなさしめ、以て稼働兩親の便宜を計れり。

○人 事 相 談 所 及 無 料 代 書 所

鑛山労働者中尙ほ迷信を懐くもの多く、又は法規の利用其他につき理解を有せず、爲めに處世の方針を誤るものなきを保せず、尙諸種複雑なる事情を擁して之を解決するの良策に苦しむもの頗る多きを遺憾とし、炭山に於ては人事一般に就き其指導者たることを期し、最善の進路を執らしむる方針に出づる所多し、又官衙公署に對する祈願届又は人事往復信書等の代筆をなし、鑛山労働者の便を計れり。

◎ 日用品 販賣所

鑛山は工場と異なり多くは僻陬の地に施業せらるゝを以て、昔時より鑛業労働者の便利を旨とし鑛山地内に鑛山直營の日常生活必需品の販賣所（古來之を賣場といふ）を設置し、賣品は市場價格に比し常に廉賣をなすものなるが、近時に至りては其販賣所の傭人給其他の諸経費を炭山にて支出し、賣品は悉く仕入値段を以て供給するもの多く、又は購買組合或は消費組合を組織し、共同して日用品の廉賣を計るもの多數あり。

◎ 共同 浴 場

勞務に従事するもの特に炭山に於ける坑内労働にありては、其業務の性質上炭塵其他の爲め身體を不潔ならしむること多し、故に炭山に於ては之等勞役者の爲め夙より共同浴場を設置して炭山直營とし無料入浴せしむ、現今にありては各山風規上遺漏なく、衛生上欠陥なきやう設備をなせり。

◎ 衛生並に 醫 療

疾病負傷等に對する手當は之れ亦鑛夫勞役扶助規則により炭山に於て給付するも、原則として鑛業労働者の公傷病即ち業務遂行に關する疾病負傷に對する給付なり、健康保險法の實施せらるゝに及び組合の重なる炭山は孰れも保險組合を設立他は保險署取扱の下に業務外の傷病又は其家族の一般疾病其他に付ても所屬醫局又は鑛山病院其他に於て診療を施し、傳染の虞あるものは炭山經營の隔離病院に收容する所もあり、是等の費用については鑛山労働者より少額の料金を徴するに過ぎ

ざるなり。又鑛業區域の衛生事項に就ては各炭山にありては多大の注意を拂ひ、惡疫の豫防は勿論、坑内外の清潔を旨とし居るを以て、鑛山労働者の不衛生を爲さざる限り傳染病の如きは殆んど鑛業地を襲はず。

◎ 火葬場、納骨堂及墓地

鑛山労働者の死亡に就ては鑛夫勞役扶助規則に據り救済する外其家族の死亡に對しても炭山より懇篤なる取扱をなすこと一般なり、而して特に火葬場の設備をなし、鄭重無料にて茶毘に附し、遺骨は遺族の意志により其郷關に携帶菩提寺に埋葬するものあれば、炭山經營の納骨堂又は墓地に葬るもの亦少からず、或る炭山に於ては其所屬墓地に埋葬するものに限り墓碑一基を建設贈與せり。

第三節 組合炭鑛所在地一覽 (昭和五年五月末) 附組合役員

三菱鑛業株式會社筑豊鑛業所	鞍手郡直方町大字上新入	五 坑	全	稻築村鴨生
新入 炭 坑	鞍手郡劍村大字中山	六 坑	全	庄内村綱分
六 坑	全	方 城 炭 坑	田川郡方城村伊方	
七 坑	山ヶ崎	上 山 田 炭 坑	嘉穂郡山田町上山田	
鮫 田 炭 坑	嘉穂郡飯塚町	中 山 田 炭 坑	全	下山田
一 坑	全	三井鑛山株式會社田川鑛業所	田川郡後藤寺町	
三 坑	庄内村有井	一 坑	全	奈良
四 坑	全	二 坑	全	大藪

昭和三年三月
全 年 三月
全 年 四月
全 年 十二月
全 四年 三月

久恒良 貞雄
谷村良 太郎
上野榮 太郎
玉井磨 三郎
安川清 三郎
野田勢 次郎

西原民平
吉田磯吉
富田太郎
松井眞太郎
田中豐三
幹事(昭和二年就任)

昭和五年六月二十四日印刷
昭和五年六月三十日發行

非賣品

編輯兼
發行者

小林英男

福岡縣若松市旭小路四百十一番地

印刷者

吉田万造

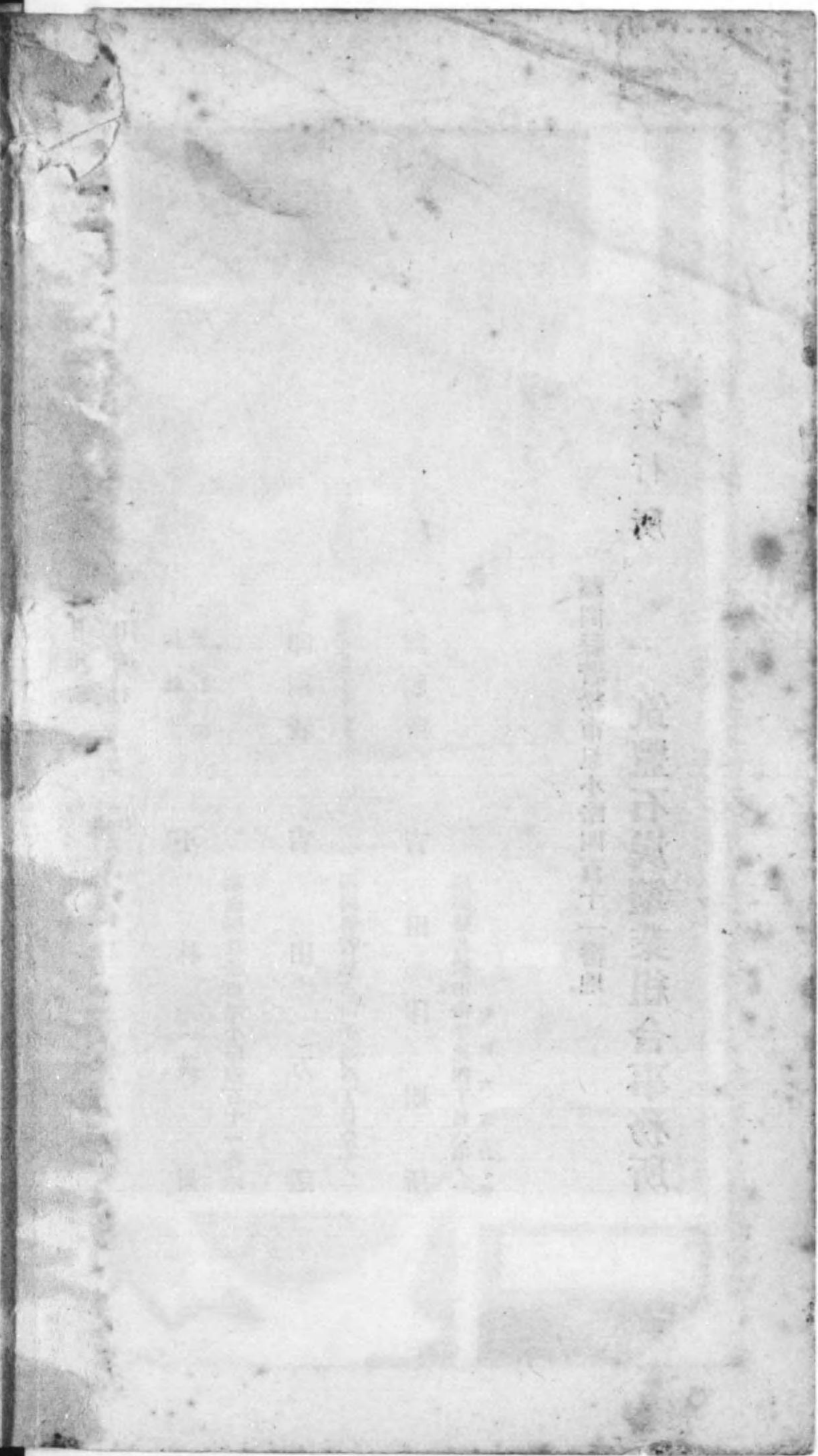
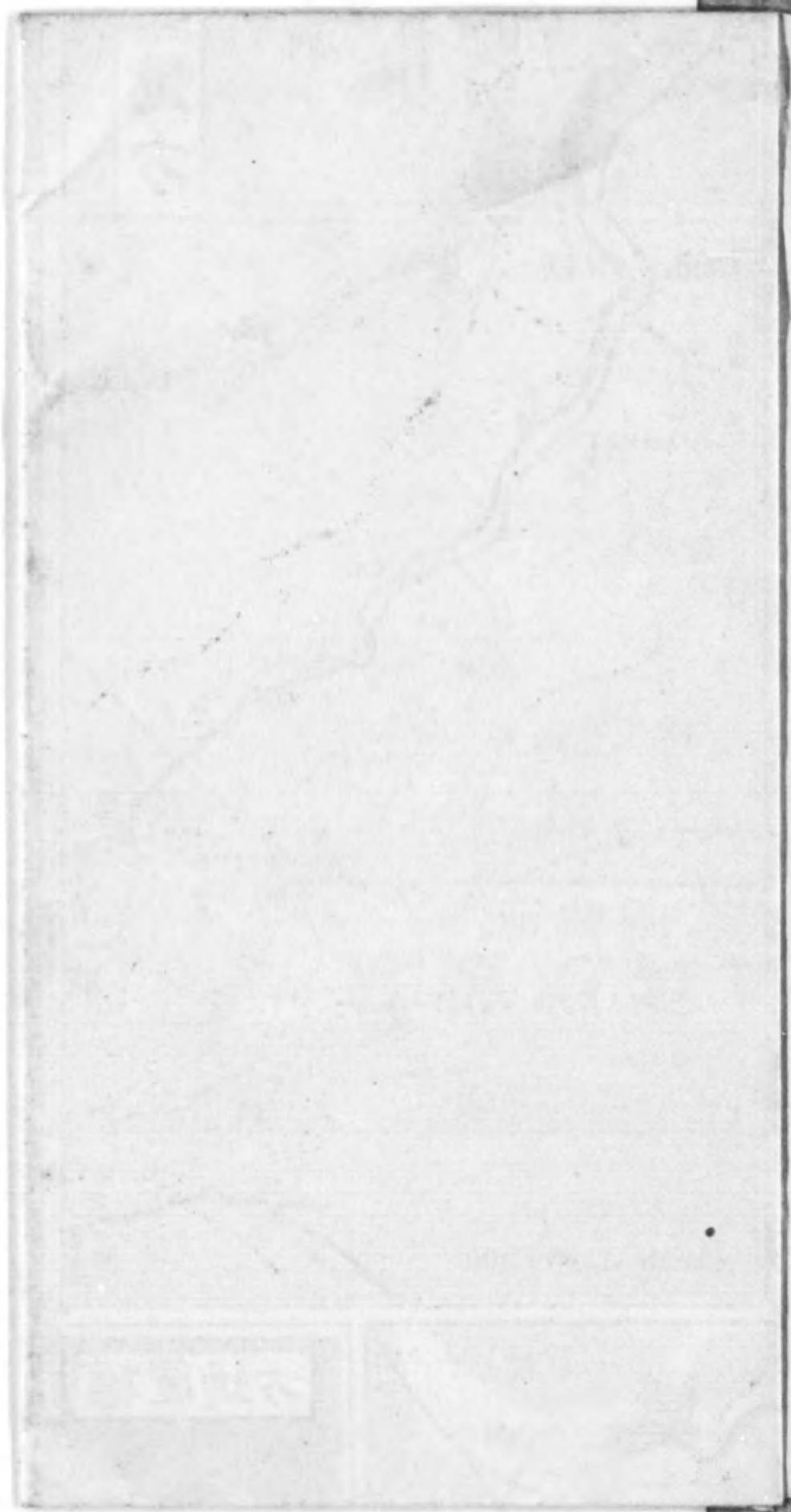
福岡縣若松市山手通四丁目九七ノ一

印刷所

吉田印刷所

福岡縣若松市山手通四丁目八七ノ一
電話 六五二番

發行所
福岡縣若松市旭小路四百十一番地
筑豊石炭鑛業組合事務所



筑豊炭鑛位置略圖

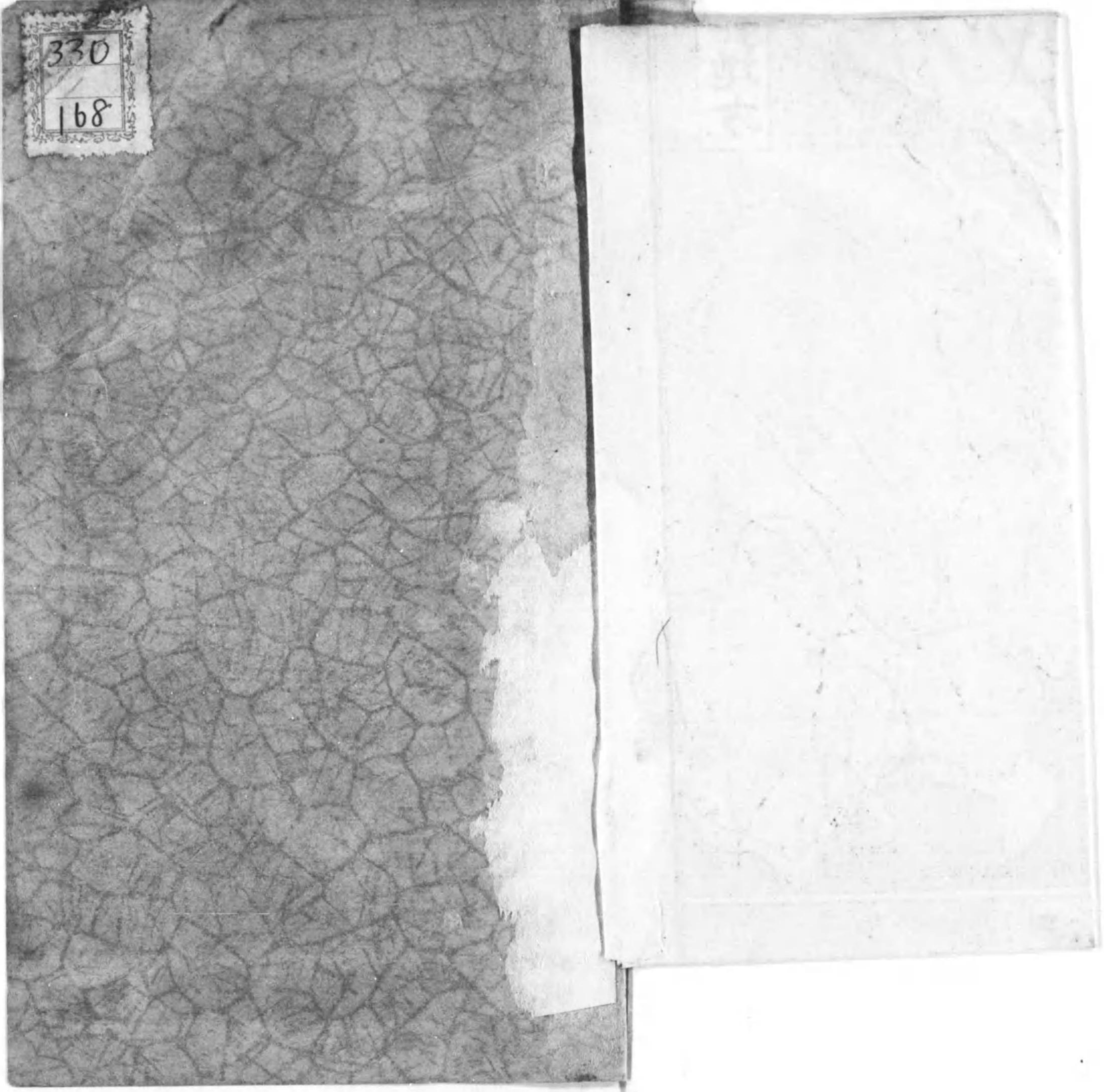
附宇部糟屋唐津地方

(昭和五年五月一日現在)



昭和五年五月廿七日下午閣要塞司令部検査済

330
168



終

